

郎ヲ介シテ

- 1 昭和七年八月中旬頃同年度ノ收納前長濱取扱所ニ於テ代金七十圓ノ自轉車一臺ノ供與
- 2 昭和八年度ノ收納後ナル
  - (イ) 昭和八年十月二十六日前示木下料理部等ニ於テ一人前金十八圓五錢相當ノ饗應
  - (ロ) 同月二十七日新示新京カフェー等ニ於テ一人前金七圓相當ノ饗應
- 3 昭和九年度ノ收納後ナル
  - (イ) 同年十一月九日同所ニ於テ一人前金十二圓九十八錢ニ相當スル饗應
  - (ロ) 同月十日頃豫テ同年十月二十一日ヨリ同月三十日迄ノ間三回ニ互リ宇部市西本通一丁目龜屋食堂ニ於テ遊興シタル代金中被告人ノ負擔部分九圓ノ代拂(但以上合計百十七圓三錢ハ昭和十年八月之ヲ返還ス)
- 七 西岐波取扱所管内葉煙草耕作者鈴木良作ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年度ノ收納後ナル
  - (イ) 昭和八年十月二十四日前示小堀方ニ於テ金三十圓ノ供與(但昭和九年十一月内二十圓ヲ返還)
  - (ロ) 同日頃前示木下料理部ニ於テ一人前十二圓五十錢相當ノ饗應
- 八 同國吉傳七ヨリ曾根田兼太郎ヲ介シテ
  - (イ) 昭和七年十二月二十三日其ノ年度ノ收納後宇部市本町四丁目堀邊料理部等ニ於テ一人前十二圓四十五錢相當ノ饗應
  - (ロ) 同九年十一月三日同様前示新京カフェーニ於テ一人前六圓十六錢及龜屋食堂ニ於テ一人前三圓相當ノ各饗應
- 九 同鹽見松太郎ヨリ清水義貞ヲ介シテ

- (イ) 昭和八年十二月二十六日其ノ年度ノ收納後前示龜屋食堂ニ於テ一人前三圓七十五錢相當ノ饗應
- (ロ) 昭和九年十月二十七日同様西岐波村金山喫茶店ニ於テ金三十圓ノ供與
- 一〇 同鹽見松太郎田中賢二及香川乙市外一名ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年十月二十五日其ノ年度ノ收納後前示小堀方ニ於テ金七十圓ノ供與
- 一一 同佐藤喜一ヨリ曾根田兼太郎ヲ介シテ昭和九年度ノ收納後ノ
  - (イ) 昭和九年十一月四日前示新京カフェーニ於テ一人前一圓三十三錢相當ノ饗應
  - (ロ) 同月六日宇部市常盤通荒谷食堂ニ於テ一人前二圓三十錢相當ノ饗應
  - (ハ) 同日前示龜屋食堂ニ於テ一人前六圓二十五錢相當ノ饗應
  - (ニ) 同月七日右新京カフェーニ於テ一人前三圓二十六錢相當ノ饗應(但以上合計十三圓十四錢ハ昭和十年八月全額返還)
- 一二 同山本力松ヨリ清水義貞ヲ介シテ
  - (イ) 昭和八年十月二十四日其ノ年度ノ收納後前示小堀方ニ於テ金四十圓
  - (ロ) 同九年十月上旬頃其ノ年度ノ收納後前示金山喫茶店ニ於テ金四十圓ノ各供與(但以上合計八十圓ハ昭和九年十一月全額返還)
- 一三 同三井治ヨリ清水義貞ヲ介シテ
  - 1 昭和八年十月二十二日其ノ年度ノ收納後前示小堀方ニ於テ金三十圓ノ供與
  - 2 昭和九年度ノ收納後
    - (イ) 同年十月二十四日前示金山喫茶店ニ於テ金二十圓ノ供與

不正處分不能ト取贖罪ノ成立



(ロ) 同日前示新京カフェーニ於テ一人前六圓六十六錢相當ノ饗應(以上合計五十六圓六十六錢ノ内昭和九年十一月四十圓返還)

一四 同佐々木平治ヨリ清水義貞ヲ介シ

(イ) 昭和八年十一月十日其ノ年度ノ收納後山口縣吉敷郡秋穂村ナル當時ノ被告人居宅ニ於テ金三十圓

(ロ) 同九年十月二十日其ノ年度ノ收納前同所ニ於テ金五十圓

ノ各供與(但以上合計金八十圓中昭和九年十一月七十圓返還)

一五 同村澤村秀雄ヨリ會根田兼太郎ヲ介シテ

(イ) 昭和八年十月三十一日其ノ年度ノ收納後前示木下料理部ニ於テ一人前七圓五十錢相當ノ饗應

(ロ) 同九年十月三十日其ノ年度ノ收納後宇部市相生町二丁目寶塚カフェーニ於テ一人前二圓十錢相當ノ饗應

(ハ) 同日前同様前示新京カフェーニ於テ爲シタル飲食遊興代金中自己ノ負擔部分ノ内三圓二十五錢相當ノ饗應(但以上合計十二圓八十五錢ハ昭和十年八月全部返還)

一六 同山本傳助ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年十月二十五日其ノ年度ノ收納後前示小堀方ニ於テ金五十圓ノ供與

(但昭和九年十一月全額返還)

一七 同植田新一中村勇 磯部善松ノ三名ヨリ會根田兼太郎ヲ介シテ昭和八年十一月一日其ノ年度ノ收納後前示龜屋食堂ニ於テ一人前四圓七十錢相當ノ饗應(但昭和十年八月全額返還)

一八 同師井雅相ヨリ會根田兼太郎ヲ介シテ昭和八年十一月上旬頃其ノ年度ノ收納後山口縣吉敷郡井關村大潮村ニ於テ一人前六圓六十六錢相當ノ饗應(但昭和十年八月全額返還)

一九 長濱取扱所管内ノ葉煙草耕作者梅本秀太郎ヨリ清水義貞ヲ介シテ

(イ) 昭和八年十一月十一日其ノ年度ノ收納後前示秋穂村ノ被告人ノ居宅ニ於テ金五圓

(ロ) 同九年十月十八日其ノ年度ノ收納後秋穂村ニ於テ金十五圓

ノ各供與(但以上合計二十圓ハ昭和九年十一月全額返還)

二〇 西岐波取扱所管内葉煙草耕作者磯中福一ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年十月二十一、二日頃其ノ年度ノ收納後前示小堀方ニ於テ金三十圓ノ供與(但昭和九年十一月内金二十圓返還)

二一 同藤重喜五郎ヨリ清水義貞ヲ介シテ

(イ) 昭和七年十二月十四日其ノ年度ノ收納後前示潤輝館ニ於テ金五圓

(ロ) 昭和八年十月十九日其ノ年度ノ收納後前示小堀方ニ於テ金十五圓

ノ各供與(但以上合計二十圓ノ内昭和九年十一月十五日返還)

二二 同坂部芳助ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和九年十月二十五日其ノ年度ノ收納後前示木下料理部ニ於テ一人前十圓相當ノ饗應(但昭和九年十一月全額返還)

二三 同田中賢二ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和九年十月二十二日其ノ年度ノ收納後宇部市三樂食堂ニ於テ一人前六圓六十六錢相當ノ饗應(但昭和九年十一月全額返還)

二四 同金崎源治ヨリ清水義貞ヲ介シテ

(イ) 昭和八年度ノ收納後同年十月二十三日前示小堀方ニ於テ金二十圓

(ロ) 昭和九年度ノ收納後同年十月二十五日前示金山喫茶店ニ於テ金二十圓

ノ各供與

二五 同佐賀啓一ヨリ清水義貞ヲ介シテ

不正處分不能ト取贖罪ノ成立



(イ) 昭和八年度ノ收納後同年十月二十三日前示小堀方ニ於テ金二十圓  
(ロ) 昭和九年度ノ收納後同年十月二十五日前示金山喫茶店ニ於テ金二十圓  
ノ各供與

二六 同國吉龜市ヨリ會根田兼太郎ヲ介シテ昭和九年度ノ收納後

(イ) 同年十月二十八日豫テ被告人カ宇部市本町堀邊旅館ニ於テ爲シタル遊興代金債務五圓四十八錢ノ代拂  
(ロ) 同年十月三十日前示一五ノ(ハ)ノ遊興代金中被告人負擔部分ノ内二圓八十四錢ノ代拂

二七 同國廣弘助ヨリ會根田兼太郎ヲ介シテ昭和九年度ノ收納後同年十一月三日豫テ會根田兼太郎カ立替拂ヲ爲シ居  
リタル被告人ノ宇部市錦橋通カフエー朝日會館等ニ於ケル遊興代金五圓七十錢ノ債務ニ付右會根田兼太郎ニ對ス  
ル同金額ノ代拂(但昭和十年八月全額返還)

二八 (1) 同林文一ヨリ清水義貞ヲ介シテ

(イ) 昭和七年度ノ收納後同年十二月中旬頃前示潤輝館ニ於テ金五圓ノ供與

(ロ) 同八年度ノ收納後同年十月中旬頃前示關文カフエーニ於テ一人前二圓五十錢相當ノ饗應

(2) 同井上龍助ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年度ノ收納後同年十月中旬頃前示大潮館等ニ於テ一人前五圓相當  
ノ饗應

(3) 同藤永新甫ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年度ノ收納後同年十月中旬頃前示新京カフエー等ニ於テ一人前二  
圓五十錢相當ノ饗應(但以上(1)(2)(3)合計十五圓ハ昭和九年十一月全部返還)

(4) 長濱取扱所管内ノ葉煙草耕作者河村諦彦ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年度ノ收納後同年十一月上旬頃前示  
秋穂村ナル當時ノ被告人居宅ニ於テ金三十圓ノ供與

(以上收賄價格合計九百六十圓九十七錢内贈賄者ニ返還シタル金額合計五百二十九圓二十四錢)  
(中略)

シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍内ニ於テ主文ノ  
刑ヲ量定處斷シ同法第二十一條ニヨリ原審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入シ尙被告人カ收受シタル判  
示賄賂ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項後段ニ依リ被告人ヨリ其ノ價格合計九百六十圓九  
十七錢中既ニ贈賄者ニ返還シタルト認ムル合計金五百二十九圓二十四錢ヲ控除シタル殘額四百三十一圓七十三錢ヲ追  
徴スヘキモノナルトコト本件ハ被告人ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第四百三條ニヨリ原審判決ニ於テ言渡サレ  
タル金額三百九十四圓七十四錢ヲ追徴スルニ止ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人渡邊忠雄 菅野勘助上告趣意書第一點原審判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル  
ヘキ顯著ナル事由存ス原審判決ハ其ノ認定第二事實ニ於テ「被告人小松忠夫ハ(中略)同管内ナル左記  
葉煙草耕作者ヨリ其ノ收納スル葉煙草ニ付左記ノ日時場所ニ於テ收納前ニアリテハ被告人ニ對スル右  
職務上ノ鑑定ニ付有利ノ取扱アリ度旨ノ請託ノ趣旨ニテ又收納後ニ在リテハ右職務上ノ鑑定ニ付特別  
不正處分不能ト賤賄罪ノ成立



有利ノ取扱アリタルコトニ對スル報酬ノ趣旨ニテ爲サレタル左記供與ノ金錢並財産上ノ利益又ハ響應ヲ孰レモ其ノ趣旨ヲ知悉シナカラ犯意ヲ繼續シテ之ヲ收受シタルモノナリト判示シ被告人ハ其ノ收納鑑定ニツキ特別有利ノ取扱ヲ爲シ其ノ報酬ノ趣旨ノ下ニ金員響應ヲ受ケタルモノナリトノ認定ヲ爲シタリト雖此ノ點ニ關シテハ被告人カ第一審公判以來極力抗爭シ來リタルモノニシテ豫審ニ於ケル被告人及各關係者ノ訊問調書中ニハ之ヲ首肯シ自白シタル供述存シ事實ニ相違ナキカ如キ感アリト雖右收納鑑定ニ際シテハ事實上鑑定等級ニ手心ヲ下スヘキ餘地ナク全ク不可能ナルコトニ屬スルモノニシテ右各豫審ノ供述ハ被告人カ公判廷ニ於テ辯解スルカ如ク全ク拘禁ノ苦痛ニ堪ヘスシテ一日モ速カニ保釋ノ恩典ニ浴センコトヲ念願シ迎合的ニ虛偽ノ事實ヲ認ムルニ至リシモノノ如ク收納鑑定ニ於テ之カ等級ヲ附スル實際上ノ手續ニツキ之ヲ審ニ考究スルニ於テ右被告人等ノ自白ノ不自然ニシテ信憑スルニ足ラサルモノナルコトヲ察知セシム即チ收納場ニ於ケル鑑定ノ方法ニ關シテハ本件記録ノ語ルカ如ク鑑定會議臺ヲ中央ニ置キ鑑定技手二名ハ各反對ノ箇所ニ位置シ鑑定書記ソノ中央ニ着坐シ一人ノ技手先ツ其ノ指針ヲ自己ノ附セントスル鑑定等級ニ廻轉指示シ他ノ一人ノ技手ハ更ニ同様ノ方法ヲ以テ自己ノ附セントスル鑑定等級ニ對シ廻轉指針セシメ此ノ間兩技手ニ於テハ相手方ノ等級指針ヲ互ニ知ルコト能ハス中央ニ位置スル鑑定書記ニ於テノミ之ヲ知り同書記ハ各技手ノ各指針シタル等級ヲ鑑定票指針欄ニ記入スルモノニシテ若シ兩技手ノ指針同等級ヲ示シタル場合ハ直チニ收納葉煙草ノ等級

確定スルモ萬一其ノ指針等級カ各異ナリタル場合ハ標本煙草ニ基キ再ヒ合議シ而シテ再合議後等級ノ定マリタルモノハ之ヲ護膜印ニテ鑑定票決定欄ニ捺印スル手續ナルコトハ本件記録ニ編綴シタル廣島地方專賣局長ノ豫審判事ニ對スル祕第一〇〇號昭和十年二月二十五日附回答文及被告人等ノ各供述記載ニ徴シテ明ナルトコロナリ從テ假ニ或ル一人ノ鑑定技手ニ對シ等級ニ對スル手加減ヲ依頼シタリトスルモ他ノ一人ノ技手其ノ等級決定ニ際シ手加減ヲ爲スコトナクンハ到底之カ手加減ヲ爲シ得ヘキニ非スシテ又被告人等ノ公判廷ニ於テ供述スルカ如ク兩者ハ相異ナリタル等級ヲ指針スルコト屢々存スルコト稀ナラス如キ事情ナルヲ以テ被告人ニ對シ耕作者ヨリ等級ニ關シ有利ノ取扱方ノ請託假リニアリタリトスルモノニ對シ手加減ヲ加フルコト事實上爲シ能ハスシテ到底不可能ナリト思料セララルニ不拘原審判決ハ右ノ如キ事情アルヲ排斥シテ被告人ニ對シ判示ノ如キ認定ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認顯著ニ存シ破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在レトモ

原判決ノ認メタル事實ハ之ヲ要スルニ「被告人小松忠夫ハ廣島地方專賣局秋穂出張所勤務ノ專賣局技手兼書記トシテ所管西岐波及長濱取扱所ニ於テ葉煙草耕作者ヨリ其ノ收納スル葉煙草ノ品質ヲ鑑定スル職務ニ從事シタルモノナルトコロ煙草耕作者ヨリ其ノ收納スル葉煙草ニ付收納前ニ在リテハ被告人ニ對スル右職務上ノ鑑定ニ付有利ナル取扱アリタキ旨ノ請託ノ趣旨ニテ又收納後ニ在リテハ右職務上ノ鑑定ニ付特別ノ取扱アリタルコトニ對スル報酬ノ趣旨ニテ爲サレタル判示各供與ノ金錢並財産又ハ



【要旨】

饗應ヲ何レモ其ノ趣旨ヲ知悉シ乍ラ犯意繼續シテ收受シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ右收納鑑  
 定ニ際シテハ所論ノ如ク縱令事實上鑑定等級ニ手心ヲ爲スヘキ餘地ナク全ク不能ノコトニ屬スルモノ  
 トスルモ刑法第九十七條第一項前段ノ罪ノ成立ヲ阻却スヘキモノニ非ス蓋同罪ノ成立スルニハ賄賂  
 ノ收受カ其ノ職務ニ關スルコトヲ以テ足り同項前段ノ如ク因テ不正ノ處分ヲ爲スコトヲ要件トセザル  
 ノミナラス賄賂罪ハ公務ノ公正ヲ保護スルコトヲ目的トスル規定ナレハ公務員カ職務ニ關シ收賄スル  
 トキハ世人ヲシテ法律秩序ニ付疑惑ヲ起サシメ以テ公務ノ公正ヲ害スルニ至ル虞アレハナリ更ニ記錄  
 ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルモノアルヲ認メス論旨理由ナシ(其ノ  
 他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十年(れ)第一九四一號  
 同十一年五月二日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 高林 一重 辯護人

外二十八名

森山儀文治  
 加藤五郎  
 藤松貞夫  
 上野忠雄  
 渡邊勤助  
 菅野外四名

【第一審】 上諏訪區裁判所 【第二審】 長野地方裁判所

○判示事項

立候補又ハ推薦届出前ニ於ケル饗應ニ對スル擬律

○判決要旨

立候補又ハ推薦届出前ニ於テ當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ選  
 舉人ヲ饗應シタルトキハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一

立候補又ハ推薦届出前ニ於ケル饗應ニ對スル擬律



號ノ外同法第九十五條ノ二ヲ適用スヘキモノトス

六四〇 (九四)

【參照】衆議院議員選舉法第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

同法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一、當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品共ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(以下省略)

刑法第五十四條條一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸レルトキハ其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人高林一重ヲ禁錮三月ニ被告人守矢清一ヲ禁錮二月ニ各處ス被告人篠原清一同湯田坂實義同土橋吉五郎同伊藤長藏同小池廣雄ヲ各罰金四十圓ニ被告人宮坂一同兩角傳吾郎同北澤覺重同湯田坂常晴同金子清人同保科清之亟同木村政男同應野原喜平同金子勝衛同笹岡今朝吉同野澤清光同村松源一同品川一夫ヲ各罰金三十圓ニ被告人北澤清太郎同朝倉義衛同堀内四朗同篠原千春同宮坂今朝吉同宮坂義久同兩角銀重同守矢美一同守矢幸太郎ヲ各罰金二十圓

ニ處ス被告人等ニ於テ右各罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間該被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人篠原清一同宮坂一同兩角傳吾郎同北澤清太郎同北澤覺重同朝倉義衛同湯田坂常晴ヨリ各金二圓五錢ヲ被告人湯田坂實義同金子清人同堀内四朗同保科清之亟同木村政男同應野原喜平同篠原千春同金子勝衛同宮坂今朝吉同宮坂義久ヨリ各金一圓五十二錢七厘ヲ被告人土橋吉五郎同伊藤長藏同小池廣雄同笹岡今朝吉同野澤清光同村松源一同品川一夫同兩角銀重同守矢美一同守矢幸太郎ヨリ各金一圓六十六錢六厘ヲ追徵スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十年九月二十七日施行セラレタル長野縣縣會議員選舉ニ際シ

第一 被告人高林一重ハ當時同縣縣會議員ナリシカ引續キ其ノ再選ヲ期シ再ヒ同縣諏訪郡ヨリ立候補センコトヲ決意シ同年七月十四、五日頃被告人守矢清一ヲ其ノ住居ナル同郡上諏訪町有隣莊ニ訪レ同被告人ニ對シ其ノ意中ヲ告ケ之カ助力ヲ求メタル上同郡ノ東方俗ニ山浦ト稱スル地方ノ有權者中有力者ヲ招キテ饗應シタル上被告人一重ノ爲投票並選舉運動方ヲ依頼センコトノ協議ヲ遂ケ茲ニ右兩被告人共謀シ未タ被告人一重ノ立候補又ハ其ノ推薦ノ届出前同被告人ニ當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シ

(一) 同年七月二十一日夜同郡北山村料理店榮増屋ニ同村ノ選舉有權者被告人篠原清一同宮坂一同兩角傳吾郎同北澤清太郎同北澤覺重同朝倉義衛及同湯田坂常晴ノ七名ヲ招キ同被告人等ニ對シ被告人一重カ前記選舉ニ立候補ノ際ハ同被告人ノ爲投票並選舉運動ヲ爲サレ度キ旨ノ依頼ヲ爲シ一人分金二圓五錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(二) 同月二十五日前同料理店ニ同郡湖東村選舉有權者被告人湯田坂實義同金子清人同堀内四朗同保科清之亟同木村政男同應野原喜平同篠原千春同金子勝衛同宮坂今朝吉及同宮坂義久ノ十數名ヲ招キ同被告人等ニ對シ前同様ノ

立候補又ハ推薦届出前ニ於ケル變態ニ對スル變律

六四一

(九五)



依頼ヲ爲シ一人分金一圓五十二錢七厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(三) 同月二十七日同郡米澤村宮鹽坪温泉旅館ニ同村選舉有權者被告人伊藤長藏同土橋吉五郎同小池廣雄同笹岡今朝吉同野澤清光同村松原一同品川一夫及前記北山村選舉有權者被告人兩角銀重同守矢美一同守矢幸太郎ノ十名ヲ招キ同被告人等ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ一人分金一圓六十六錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

第二 被告人高林一重及守矢清一ヲ除キタル爾餘ノ被告人等ハ孰レモ選舉人ナルトコロ

(一) 被告人篠原清一同宮坂一同兩角傳吾郎同北澤清太郎同北澤覺重同朝倉義衛及同湯田坂常晴ハ昭和十年七月二十一日夜前記榮増屋ニ於テ被告人高林一重ヨリ前掲第一ノ(一)記載ノ如ク同被告人カ立候補ノ際ハ同被告人ノ爲投票並選舉運動ヲ爲サレ度キ旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ供スルモノナルコトノ情ヲ諒シテ各自金二圓五錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ

(二) 被告人湯田坂實義同金子清人同堀内四郎同保科清之丞同木村政男同鷹野原喜平同篠原千春同金子勝衛同宮坂今朝吉及同宮坂義久ハ同月二十五日前同所ニ於テ被告人高林一重ヨリ前掲第一ノ(一)記載ノ如ク同被告人カ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ供スルモノナルコトノ情ヲ諒シテ各自金一圓五十二錢七厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ

(三) 被告人伊藤長藏同土橋吉五郎同小池廣雄同笹岡今朝吉同野澤清光同村松原一同品川一夫同兩角銀重同守矢美一及同守矢幸太郎ハ同月二十七日鹽坪温泉旅館ニ於テ被告人高林一重ヨリ前掲第一ノ(三)記載ノ如ク同被告人カ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ供スルモノナルコトノ情ヲ諒シテ各自金一圓六十六錢六厘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人高林一重同守矢清一ノ各判示所爲中立候補又ハ推薦ノ届出前選舉運動ヲ爲シタル點ハ各刑法第六十條府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二百二十九條ニ饗應ノ點ハ各刑法第六十條府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第五十五條ニ該當スルトコロ右ハ各一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ後者ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中各禁錮刑ヲ選擇シ右被告人等ヲ除ク爾餘ノ被告人等ノ各判示所爲ハ孰レモ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中孰レモ罰金刑ヲ選擇シ各其ノ刑期又ハ金額範圍内ニ於テ右各被告人ニ對シ夫々主文第一、二項掲記ノ刑ヲ量定シ被告人高林一重同守矢清一ヲ除ク爾餘ノ被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ハ各刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク同被告人等カ收受シタル利益ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルニヨリ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百四十四條ニ則リ各主文第四項掲記ノ如ク夫々其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人高橋一重辯護人森山儀文治上告趣意書第四原裁判所ハ其ノ判決ニ於テ認定シタル被告ノ事實ニ對シ衆議院議員選舉法第九十五條第二百二十九條及同第一百十二條第一項第一號ヲ適用シタルトモ第一百十二條第一項第一號ニ所謂當選ヲ得若ハ得セシメ又ハ得セシメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ云々饗應接待ヲ爲シタル時トアルハ其ノ當選ノ目的ヲ以テ饗應スル場合ニハ無論選舉運動カ包含シ居リ運動ハ犯罪構成要素ノ一部ナルヲ以テ其ノ立候補届出ノ前後

立候補又ハ推薦届出前ニ於ケル饗應ニ對スル擬律



ヲ問ハスニ罪トナスヘキモノニ非ス恰モ毆打シテ人ヲ殺サントシテ遂ケサリシ場合ニ於テ殺人未遂罪ト傷害罪カ成立セサルカ如シ故ニ本點ハ擬律ノ錯誤ナリト信スト云フニ在レトモ  
衆議院議員選舉法第九十五條ノ二違反罪ト同法第一百十二條第一項第一號ノ犯罪トハ其ノ構成要件ヲ異ニシ前者ハ其ノ行為カ選舉届出前ニ爲サルルコトヲ必要トスルニ反シ後者ハ之ヲ必要トセサルカ故ニ一個ノ行為ニシテ各二個ノ法條ニ觸ルルトキハ刑法第五十四條第一項ノ適用アルモノト解セサルヘカラス原判決カ被告人ニ判示犯罪事實ヲ認定シタル上同事實中立候補又ハ推薦ノ届出前ノ選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條ニ該當シ擬應ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ該當シ而モ右ハ一個ノ行為ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ後者ノ罪ノ刑ニ從ヒテ處斷シタルハ定ニ正當ニシテ毫モ非議ヲ容ルルノ餘地アルヲ見ス若シ夫レ右二罪ノ關係ヲ殺人未遂罪ト傷害罪トノ關係ニ喩フルニ至リテハ其ノ當ラサルコトヲ以テ答ヘンノミ論旨ハ理由ナシ

各被告人辯護人加藤五郎上告趣意書第一點原判決ハ「法律適用」ニ於テ被告人高林一重 守矢清一ノ判示事實記載ノ一個一行為ニ對シ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二竝同法第一百十二條第一項第一號ニ該當スル罪ト論斷シ「右ハ一個ノ行為ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合」トナシタリ然レトモ同法第九十五條ノ二ニ規定スル「届出アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス」トノ禁止ノ運動行為ハ假令届出後ニ於テ適法ナル運動行為モ届出前ニ於テハ之ヲ禁止ストノ意ニシテ所謂選舉ニ於ケル時期ニ關シ公平ト平等ナル運動行為ヲ爲サシムルノ法意ニ出テタルモノナリ届出前タルト届出後タルトヲ問ハス全然禁止サレタル運動行為ヲモ含メタル法意ニ非サルハ同法第一百十二條トノ對照上明白ニシテ又同

第九十五條ノ二ノ文面ノ反面解釋トシテ「届出後ハ之ヲ爲スコトヲ得」ト言フ結果ヨリスレハ本件事案ノ如キ届出テノ前後ヲ問ハス禁止ノ運動行為ハ同條ノ解釋上含ムヘキ筋合ノモノニ非ス依ツテ原判決ハ被告人高林一重 守矢清一ノ行為ヲシテ「一個ノ行為ニシテ二個ノ罪ニ觸ルル場合」トナシタルハ當ラス單ニ同法第一百十二條第一項第一號ニ該當スルノミニシテ此ノ點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

仍テ按スルニ府縣制ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ「選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス」ト規定セルヲ以テ若シ右届出後ニ爲スニ於テハ適法ナルヘキ選舉運動ト雖届出前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得サルコト定ニ所論ノ如クナルモ其ノ故ヲ以テ同條ハ届出後ニ於テ爲スモ違法ナルヘキ選舉運動ニ對シテ其ノ適用ナシト解スルハ何等理據アルコトナク寧ロ大イニ其ノ適用アルモノト解スルヲ相當トスヘシ隨ツテ原判決カ被告人高林一重 守矢清一ノ行為ヲ目シテ一個ノ行為ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ノ外同法第九十五條ノ二第二百二十九條ヲ適用シタルハ相當ナリ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事武松久吉關與

立候補又ハ推薦届出前ニ於ケル擬應ニ對スル擬律



○強姦致傷被告事件(昭和十一年(九)第三五三號 棄却)

(昭和十一年五月十二日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 芝崎藤太 辯護人 (花本福次郎 細野三千雄)

【第一審】 廣島地方裁判所尾道支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

巡查部長ノ囑託ニ因リ作成シタル診斷書ノ證據力

○判決要旨

強姦致傷ノ犯罪捜査ノ衝ニ當レル巡查部長ノ囑託ニ因リ醫師ノ任意ニ作成シタル診斷書ハ該被害者ノ羞耻部ニ關スルトキト雖之ヲ罪證ニ供シ得ルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第二百四十九條 左ニ掲クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受

ク司法警察吏トシテ捜査ノ補助ヲ爲スヘシ

一 巡查

二 憲兵卒

同法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

司法警察職務規程第五十二條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル限度ニ於

テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ノ外強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

同第七十一條 鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ鑑定ハ官署又ハ公署ニモ之ヲ囑託スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年六月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中八十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書住居ニ店ヲ構ヘ内縁ノ妻松浦スエト同棲シ船舶仲介業ヲ營ミ居レルモノナルトコロ昭和十年七月十九日朝愛媛縣越智郡瀬戸崎村漁師岸田八太郎長女岸田オスエ(十六年)カ奉公ヲ爲ス意圖ニテ單身今治市ヨリ尾道市ニ來タリ土地不案内ノ爲躊躇シ居タルニ會シ同女ノ爲奉公口ヲ求メヤルヘキ旨云寄リ夕刻ニ及フマテ活動寫眞見物等ニ連歩キタル上同女ヲ姦淫センコトヲ企テ同市西御所町まるふく旅館事後藤フクヨ方ニ伴ヒ午後八時頃旅館二階三疊ノ間ニ於テ抗拒スル同女ヲ押付ケ暴力ヲ以テ其ノ反抗ヲ抑壓シ強テ姦淫ヲ遂ケ因テ同女ノ陰部處女膜ニ治療約二週間ヲ要

巡查部長ノ囑託ニ因リ作成シタル診斷書ノ證據力



スル裂傷ヲ負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示強姦致傷ノ所爲ハ刑法第八十一條第七十七條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年六月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中八十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人花本福次郎上告趣意書第四點原判決ハ證據理由ニ於テ岸田オスエニ對スル醫師竹下新作成ニ係ル昭和十年七月二十六日附診斷書ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ右診斷書ニハ「岸田ヲスエ」ヲ檢診シタル旨記載アリテ果シテ本件被害者タル「岸田オスエ」ヲ診斷シタルモノナリヤ不明ナルノミナラス同書ニハ「昭和十年七月二十六日尾道警察署刑事伊藤巡查部長ノ囑託ニ依リ檢診シタル旨」ノ記載アリテ而モ右診斷書ハ鑑定書同様ナル事項ヲ記載シ且判決モ鑑定ト同様ニ之ヲ證據ニ供シタルコト言フ俟タサルトコロナリ然ルニ一巡查部長カ斯克ノ如キ鑑定事項ヲ命スヘキ權能ヲ有セサルコト法律上明ナルノミナラス假ニ右ハ題目通り「診斷書」ニシテ巡查部長ノ囑託ニ依リ作成シタルモノトセンカ苟モ年齢十六歳ノ女子ニ對シ其ノ陰部ヲ檢診スヘキコトヲ囑託スヘキ權能ハ巡查部長ニ於テ之

ヲ有セサルモノトス蓋シ巡查部長ハ同女ノ父ニアラス法定代理人ニ非ス他人ノ子女ニ對シ斯ル羞耻部ヲ檢診セシムヘキ權能ヲ有セサレハナリ從テ右何レノ點ヨリ觀ルモ該診斷書ハ法律上證據力ヲ有セサルモノト云ハサルヘカラス然ルニ之ヲ採テ罪證ニ供シタル原判決ハ採證上ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ

所論診斷書ニ岸田ヲスエトアルハ岸田オスエノ誤記ナリト解スルヲ相當トス而シテ同診斷書ニ同書カ刑事伊藤巡查部長ノ囑託ニ依リ岸田オスエヲ診斷作成シタル旨ノ記載アルコト洵ニ所論ノ如クナルモ右ハ伊藤巡查部長カ強制力ニ依リ鑑定ヲ命シ之ヲ作成セシメタルモノニ非サルコトハ記録上ニ之ヲ推知シ得ルノミナラス巡查部長ハ司法警察吏トシテ犯罪搜查ノ必要上強姦ノ被害者カ所論羞耻部ニ傷害ヲ蒙リタリヤ否ニ付醫師ニ囑託シテ之ヲ診斷セシメ得ルモノニシテ其ノ囑託ヲ受ケタル醫師ニ於テ任意ニ作成シタル診斷書ハ之ヲ罪證ニ供シ得ルコト勿論ナリトス所論診斷書ハ右巡查部長カ本件犯罪搜查ノ必要上醫師竹下新ニ囑託シテ被害者岸田オスエヲ診斷セシメ右竹下新ニ於テ任意ニ之ヲ作成シタルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ毫モ違法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事黒川涉關與

巡查部長ノ囑託ニ因リ作成シタル診斷書ノ證據力



○詐欺被告事件(昭和十一年(れ)第七四號 棄却)

(昭和十一年五月十三日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 大西ギン 辯護人 早川徳太郎  
【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

證據調請求却下ノ決定ト刑事訴訟法第四十八條第二項

○判決要旨

公判廷ニ於テ被告人又ハ辯護人ヨリ證人喚問ノ申請アリ裁判所其ノ許否ヲ決定スヘキ場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キタルトキハ更ニ被告人又ハ辯護人ノ陳述ヲ聽クヲ要セサルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第四十八條第二項 決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキ

ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
同法第三百四十四條第一項 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ニ於テハ被告人ニ對シ詐欺罪ヲ認定シ被告人ヲ懲役十月ニ處シタリ  
尙第二審ハ後顯理由中ニ指摘セルカ如ク昭和十年十二月十八日ノ公判廷ニ於テ辯護人ヨリ證人喚問ノ申請アリタルニ對シ單ニ立會檢事ノ不必要ナリトノ意見ヲ聽キタルノミニテ再度辯護人ノ陳述ヲ聽クコトヲ爲サスシテ申立ニ係ル各證人ハ全部不必要ナリトシ之ヲ却下スル旨ノ決定ヲ宣シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人早川徳太郎上告趣意書第一點刑事訴訟法第四十八條第二項ニハ「決定ハ公判廷ニ於テ申立ニヨリ之ヲナストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ」トアリ然ルニ原審ニ於テハ昭和十年十二月十八日ノ公判ニ於テ被告人ヨリ西村代書人 山本キク 山口ユキ 近藤鹿藏ヲ各證人トシテ喚問アリ度キ旨申立

證據調請求却下ノ決定ト刑事訴訟法第四十八條第二項



テタルニ對シ單ニ立會檢事ノ不必要ナリトノ意見ヲ聽キタルノミニテ出廷シタル辯護人ノ陳述ヲ聽ク  
コトナクシテ申立ニ係ル各證人ハ全部不必要ナリト認メ之ヲ却下スル旨ノ決定ヲ宣シ事實證據取調濟  
トナシ之ニ基キ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタリ之レ明カニ原判決ハ違法ナル決定ヲ根據トシテナ  
サレタル違法ナル判決タルコトヲ免レサルトコロナリト云フニ在リ

【要旨】

按スルニ刑事訴訟法第四十八條第二項ノ規定ハ決定手續ニ關スル原則ヲ示シタルモノニシテ即チ裁判  
所決定ヲ爲スニハ必要のニ口頭辯論ニ基クコトヲ要セサルモ公判廷ニ於テ而モ當事者ノ申立ニ因リ之  
ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ申立ノ相手方ヲシテ意見開陳ノ機會ヲ與ヘシメ其ノ意見陳述ヲ徵シタル上決  
定ヲ爲スヘキ旨ヲ定メタルモノナリトス從テ公判廷ニ於テ被告人又ハ辯護人ヨリ證據調ノ請求ヲ爲シ  
タル場合裁判長ハ其ノ相手方タル檢事ニ對シ該請求ニ對スル意見開陳ノ機會ヲ與ヘ同檢事ニ於テ意見  
ヲ陳述シタル以上更ニ被告人又ハ辯護人ノ陳述ヲ求メスシテ證據調ノ請求ニ對シ決定ヲ爲スヲ妨ケサ  
ルモノトス本件ニ付之ヲ觀ルニ原審公判調書ノ記載ニ依レハ所論證人喚問ノ申請ハ被告人ノ辯護人ヨ  
リ申立テタルモノナルノミナラス裁判所其ノ許否ノ決定前ニ於テ相手方タル立會檢事ハ意見ヲ開陳シ  
タルコト論旨ニ指摘セル所ノ如クナルカ故ニ此ノ外更ニ辯護人ノ陳述ヲ聽クノ要ナキコト冒頭説明ノ  
理由ニ照シ明カナリサレハ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナキモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨  
及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事棚町丈四郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(九)第一九九號 同年五月十八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 木内 豐 昭 辯護人

吉村安次郎  
本多泰隆  
堤村牧  
山中榮治  
田中榮治

【第一審】 長崎區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號

○判決要旨

衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ノ郵便ニハ電報ヲ包

衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號



言セサルモノトス

【參照】昭和九年內務省令第三十六號衆議院議員選舉運動等取締規則第五條 選舉運動ノ爲使用スル文書圖畫ヲ頒布シ又ハ貼付シ若ハ揭示スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一 郵便ニ依ルノ外頒布スルコトヲ得ズ但シ演說會告知ノ爲ニスル引札及新聞紙ノ廣告ハ此ノ限ニ在ラズ

(以下省略)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ長崎縣會議員選舉ニ際シ長崎市ヲ地盤トシテ立候補シ同月三日其ノ旨ノ届出ヲ爲スヤ直チニ選舉人タル同市新大工町六十三番地橋本傳一外同市内二百一十一名ニ對シ「タダイマリツコウホスキカノゴエンジヨセツニコイネガフキウチトヨアキ」ナル投票竝斡旋依頼ノ同旨電報ヲ同市本博多郵便局ヨリ発信シ其ノ頃同人等ニ之ヲ到達セシメ以テ郵便ニ依ラスシテ選舉運動ノ爲文書ヲ頒布シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第百條第百三十二條第二項第一項內務省令衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ニ該當スルヲ以テ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ尙右罰金不完納ノ場合ハ刑法第十八條ニ則リ主文第二項所定ノ如ク勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人上告趣意書原審裁判所ハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アリ規則第五條ハ選舉運動ノ爲使用スル文書圖畫ノ個人頒布ノ方法ヲ制限シタル規定ニシテ選舉運動上電報ノ使用ヲ嚴禁シタル法意ニアラス蓋シ本規則制定ノ理由ハ戶別訪問個々面接買収利益提供等諸弊ノ因ヲ爲ス個人頒布ヲ禁シタル趣旨ニシテ郵便官署之ヲ作成シ之ヲ頒布スル電報ノ如キハ何等其ノ弊ナキニ因リ特ニ其ノ之ヲ制限スヘキ必要ナキニ依レリ之ヲ沿革ニ徵スレハ新ニ制定セラレタル現行取締規則ハ大正十五年二月三日內務省令第五號ト昭和五年一月二十三日內務省令第四號ノ「選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件」ノ精神ヲ其ノ儘踏襲シタル内容ニシテ舊法ノ條文ト全ク同一ノ字句ヲ用ヒ特ニ新ニ之ヲ禁スヘキ積極的ノ條文ヲ設ケラレサルニ舊法ニ在テハ之ヲ適法ナリトシテ是認シ新法ニ據テハ違法ナリトノ全ク相違ナル結論ノ生スヘキ法的根據ナケレハナリ然ラハ舊法ニ於テハ他ニ特ニ其ノ之ヲ認容スヘキ積極的ノ法文存セシヤ否全ク其ノ然ラサリシコトハ舊法文自體ニ於テ明白ナリ唯極メテ消極的ノ法的論據トシテ「選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫(信書ヲ除ク)ハ郵便又ハ新聞紙ノ廣告ニ依ルノ外之ヲ頒布スルコトヲ得ス」トノ信書ナル字句ヲ援用シ電報ハ信書ナルヲ以テ取締規則ノ制限外ニ在リシト云フニアルモ



果シテ電報カ信書ナルヤ電報ヲ除外スル特別ノ目的ニ於テ信書ナル消極的の字句ヲ特ニ使用シタルヤ舊取締規則第一條中ノ(信書ヲ除ク以下之ニ同シ)ノ信書ナル字句カ同第一條ノ二以下ニ活用セラレシヤ否ヤハ頗ル疑問ノ存スルトコロナリ茲ニ所謂信書トハ選舉法上ノ信書ニシテ舊取締規則第一條ノ二ノ「郵便」ト相對シ關聯セルニ依テ看ルモ郵便法ノ「書狀並郵便はがき」ヲ指稱スルモノナルヤ論ナシ換言スレハ發信者ノ名ニ於テ作成セラレタル既成文書(原形ノ儘遞送セラレヘキ私文書)ニシテ頼信事項ヲ受信者ニ傳達スル通信文書タル電報ノ如キハ選舉法上ノ信書ト云フヲ得ス而モ舊規則中ノ信書ノ字句ハ特ニ電報ヲ是認スル消極的ノ意義ニ於テ特別ニ使用セラレタルニアラスシテ他ニ其ノ之ヲ必要トスル積極的ノ意義アルニ依リテ存在セシモノナリシコトハ左記沿革ニ徴シ極メテ明白ナリ舊取締規則(大正十五年內務省令第五號)第一條ノ信書ハ其ノ頒布者又ハ揭示者ノ氏名住所ノ記載ヲ例外的ニ除外シタル規定ニシテ現行規則ノ第四條ト其ノ内容ハ全ク同一ナリ其ノ後ノ昭和五年一月二十三日內務省令第四號ヲ以テ舊法ノ右第一條ヲ除ク他ノ全部カ改正セラレテ第一條ノ二選舉運動ノ爲ニ使用スル文書圖書ハ郵便又ハ新聞紙ノ廣告ニ依ルノ外之ヲ頒布スルコトヲ得スト新ニ制定シテ文書圖書ノ頒布ノ方法ヲ特ニ制限スルニ至レリ其ノ制限ノ新ニ制定セララルルニ至ル迄ハ機械的勞務者(人夫)ヲシテ信書(書狀)ヲ各有權者宅ニ直配スルコトヲ得タルモ偶運動員ノ勞務者ニ化ケ公然書狀ヲ配達スルカ如キヲ裝ヒ裏面ニ於テ戸別訪問個々面接又ハ買收等ノ不正ノ行爲ヲ爲ス者ノ續出スル

弊害アルニ鑑ミ之カ脫法行爲ヲ未然ニ取締ルノ必要上信書ノ頒布ヲ郵便ニ依ルヘキコトヲ制限シ以テ個人頒布ヲ禁スルニ至レリ茲ニ於テ更ニ研究ヲ要スヘキ重點ハ舊規則第一條ノ(信書ヲ除ク以下之ニ同シ)ナル字句ナリ以下之ニ同シナル字句ノ存スルカ故ニ當然第一條ノ二以下ノ條文ニモ盡ク活用アリト看ルハ當ラサルモ亦甚敷キ見解ナリ若モ信書ヲ除クノ字句カ次條ノ總テニ活用セララルルニ至ラハ其ノ結果信書ハ之ヲ貼付シ又揭示シ或ハ航空機ニ依テ之ヲ頒布スルコトヲ得ルニ至ルヘシ備考(舊第六條舊新第一條ノ二ノ二、三項)信書ト雖之ヲ貼付シ又揭示シ或ハ航空機ニ依テ頒布スルコトヲ得サリシコトハ大正十五年取締規則施行以來一貫シタル取締方針ニ徴シ明瞭ナリ之ヲ要スルニ信書ヲ除ク以下之ニ同シナル字句ハ第一條ノ二ニ依リ文書ノ個人頒布ノ方法ヲ制限シタル規定ノ新タニ制定セララルルニ至リシ結果全ク空文ト化シ裝飾的價值スラモナキ遺留文トシテ存在セシニ過キサリシ是因之觀ハ信書ナルカ故ニ電報ハ舊法時代ニ適法トシテ是認セラレタルニアラスシテ究極スルトコロ之カ取締ノ制限外ニアリシカ爲ナリト論結スルニ至ルヘシ抑モ戰ハ駿足ヲ尙ヒ敏速ニシテ最モ效果的ナル電報戰術ヲ特ニ禁スヘキ理由毫モナク超スピドノ現代ニ於テ文化ノ利器ヲ活用スルハ百利アリテ一害ナキ實狀ニ鑑ミ取締規則ノ制限外ニ之ヲ放任シタルモノト思料セララルルヘシ果シテ然ラハ現行取締規則ニ於テハ其ノ之ヲ禁シ其ノ之ヲ罰スヘキ正條アリヤ否ヤ選舉法ハ特定ノ行爲ヲ嚴禁スル場合ハ一々積極的ニ明文ヲ掲ケ戸別訪問個々ノ面接又ハ電話ニ依リテ選舉運動ヲ爲スコトヲ禁シ或ハ航空機(人ノ



塔乗シ得サル氣球ノ類ヲ含ムニ依リテ文書ノ頒布又ハ揭示スルコトヲ禁スル等總テ積極的ニ明文ヲ揭ケアルノニモ不拘電報ノミハ何等之ヲ禁スルノ條文ナシ寧ロ反テ同取締規則第十四條ノ命スル第二號様式同第十五條ノ第三號様式中ニハ電報料ノ記載ヲ要求シアル事實ニ鑑ミ電報ノ使用ハ何等之ヲ禁シタルモノナシ若シ夫レ規則第五條ヲ以テ電報ヲ禁シ之ヲ罰スヘキ正條ナリトセンカ大正十五年六月一日内閣訓令號外法令改善ニ關スル訓令無視ノ違法アリ即チ法令形式改善ニ關スル件ノ内容ヲ摘記スルニ「其ノ推理ノ過程ニ於テ人々見解ノ差異ヲ生シ爲ニ解釋上ノ疑義多キヲ加フルノ弊ナキ能ハス依リテ今後ノ法文ハ必スシモ文章ノ簡約ヲ旨トセス相當詳細ニ敘述シテ及フ限リ其ノ内容ヲ明瞭ナラシメンコトニ務ムヘシ」云々要スルニ法令ハ國民ノ準行又ハ利用スル所ナルニ顧ミ其ノ理解ヲ容易ナラシメンカ爲ニ平易明瞭懇切周到ヲ旨トシ續々ニ形式體裁ノ美ニ流レサランコトヲ期スヘシトアリ從テ右訓令ニ準據シテ制定セラレタル本取締規則ニ於テ電報ノ使用ヲ禁スル旨ノ明文ナキ以上右訓令ノ全趣旨ヨリスルモ規則第五條カ電報ニヨル選舉運動ヲ禁止シタル法規ナリト斷スルヲ得ス蓋シ刑罰制裁ハ積極的明文ノ存在ヲ絕對前提要件トシ畏ニ均シキ疑問ノ解釋ヲ以テ斷シテ處罰スルコトヲ許サス是レ理由ナキ類推解釋ハ罪刑法定主義ノ大原則ニ反スルカ爲ナリ故ニ規則第五條ハ選舉運動ノ爲使用スル文書圖畫ノ個人頒布ノ方法ヲ郵便官署ヲ通シテ頒布スヘキコトヲ命シタル法則ニシテ何等弊害ナキ電報ノ使用ヲ特ニ禁シタル法意ニアラサルコト極メテ明白ナリ然ラサレハ電報ハ選舉運動ノ爲ニ使

用スル文書ノ取締規則ヲ制限外ニ遺脱シ立法者ノ腦裡ヨリ全ク失念閑却セラレテ制定セラレタ法ノ不備缺點ナリシニ依ル？要之選舉運動上電報ノ使用ハ現行法上之ヲ禁シ之ヲ罰スヘキ正條ナク又之ヲ罰セントスルモ罰スルコト能ハサル法ノ不備缺點アリテ罰スルコト能ハス然ルニ原審裁判所カ規則第五條ヲ適用シテ加罰シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト云ヒ辯護人吉村安次郎上告趣意書第一點原審ハ被告カ投票又ハ投票依頼ノ斡旋電報ヲ發シタル事實ヲ認メ刑事責任ヲ科セラレタリ然レ共元來電報ナルモノハ電信ノ方法ニヨル通信ナレハ電信ノ方法ニヨラサル電報ハアリ得ヘカラサルコト多言ヲ俟タス然シテ本件通信物ハ被告人カ長崎本博多郵便局ニ差出シタル電報頼信紙ニ基キ本博多局管下ノ分ハ同局ニ於テ又長崎本局管下ノ分ハ同本局ニ於テ電信ナル介入行爲ナク直接電報送達紙ニ轉寫シ以テ送達紙ヲ作成シ集配人(俗稱電報配達人)ノ手ニヨリ各名宛人ニ送達セラレタルモノナリ故ニ本件ノ通信物ハ正確ナル意義ニ於ケル電報ニハアラスシテ實質ハ速達郵便ノ變態類似ノモノナリ尤モ本件ノ如キ通信方法カ市内電報ナル名義ノ下ニ一般同様ノ市内電報料ヲ徴シ廣ク行ハレツツアルコトハ周知ノ事實ナレ共這ハ單ニ便宜上爾カク行ハレ居ルニ過キスシテ本質的ニハ電報ニアラス又之ヲ電報ト解スヘキ特段ナル法規モ存在セサルモノノ如シ左レハ本件ノ通知物ヲ本質的ノ電報ナリトシテ判斷ノ資材トナスハ不當ト思料スト云ヒ 同第二點(イ)衆議院議員選舉運動取締規則第五條ハ頒布ノ方法ニ關スル規定ナリ(ロ)同第五條ノ目的格ハ文書ナリ(ハ)文書ノ個人頒布ハ諸弊ノ因



ヲナス之レ同第五條制定ノ理由タリ(ニ)電報ノ普通ノ文書ト異ナリ官ニ於テ作成シ官ニ於テ頒布ス  
 (ホ)故ニ電報ニハ個人頒布ノ場合ナシ(ヘ)是レ故ニ電報ニツイテハ同第五條制定ノ理由ナシ  
 (ト)結論同第五條ノ目的格ハ文書ノミニシテ電報ハ其ノ目的格タラス敍上ノ理由ニヨリ本件ハ犯罪ヲ  
 構成スヘキモノニアラスト思料スト云ヒ辯護人本多泰隆上告趣意書規則第五條ノ條文ニ依レハ選舉  
 運動ノ爲使用スル文書圖畫ハ郵便ニテ託送スルノ外其ノ他ノ方法ニテ託送スルコトヲ禁シタルノ意頗  
 ル明瞭ナリト雖原審判決ノ如ク本條ニ由テ電報戰術ヲ禁シタリト斷スルヲ得ス若シ夫レ電報ノ發信行  
 爲ヲ以テ既成文書ノ郵便ニヨリ託送行爲ト同一性ニ看做シ而モ郵便ニ依ラサル行爲ナリトノ解釋ヲ採  
 リ得ルモノトセハ之ヲ法第五條第一號ニ當テ嵌メ得ヘク原審判決ノ擬律ハ間然スルトコロナカルヘシ  
 併シ乍ラ電信ノ使用ハ賴信紙ニ通信事項ヲ記載シ之ニ基キ發信局ハ電力作用ヲ以テ符號ヲ發シ受信局  
 ハ之ヲ電報用紙ニ綴リ受信人ニ送達スルニアリ之ヲ捉ヘテ郵便ニヨリ文章ノ託送行爲ト同一視シ之ニ  
 依ラサリシ託送行爲ナリト爲スノ失當ナルハ言ヲ俟タサルヘシ尤モ被告ノ賴信行爲ニヨリ二者タル  
 受信電信局ヲシテ文書ヲ作成セシメ之ヲ頒布セシメタリト論斷シ得ヘキニ似タレトモ法第五條第一號  
 ノ使命トスル所ハ本來郵便ニ因リ託送シ得ヘキ場合ニソレヘノミ依ルヘシト制限セル迄ノモノニシテ  
 右電報ノ如キ本來郵便ニ因リ託送スヘキモノタラサル性質ノモノヲ郵便ニ因ルヘク然ラサレハ處罰ス  
 トノ法意ヲ宿セリト爲スカ如キ無謀ノ解釋ハ之ヲ許ササルモノト知ラルヘシ法第五條第一號ノ文書ハ

本來選舉運動當事者ノ作成セル既成文書ヲ指スモノト解スルノカ妥當ナルコト(一)從テ電信當局ノ作  
 成スル電報紙ハ本條指定ノ文書ト同一性ニ見ル能ハサルコト(二)法第五條第一號ノ文書ハ本來郵便ニ  
 テ託送スル能性ヲ帶フルモ局ノ作成セル電報紙ハ本來郵便ニ託送スル性質ノモノニ非スシテ電報トシ  
 テ配達スヘキモノナルコト(三)延テ一般ノ國民ハ法第五條第一號ノ文書ヲ選舉運動當事者ヨリ託送ス  
 ル普通ノ文書ト解シ電信文書ヲ含マスト解スルノ必然タルコト(四)然ラハ本條ニ電信文書ヲ含入スル  
 モノトナサンカ驅テ國民ヲ陷穽ニ轉落セシムルノ危険ヲ伴フモノトスヘク(五)具眼者カ斯ノ如キ欺瀆  
 的立法ヲナス筈ナキコト(六)等數ヘ來タラハ理由ヲ枚擧スルニ違アラサルナリ要之立法當局ニ於テハ  
 郵便ト電報トノ性能作用ノ研究ヲ閉却シ深キ注意ヲ拂ハサリシ結果トシテ猝ニ之ヲ法第五條第一號ニ  
 織込ミ得タリト錯覺シ延テ以テ電報戰術禁止ノ正條ヲ缺キタル失態アルヲ想像スルニ難カラサルナリ  
 惟フニ本件ハ罰スヘキ正條ノ具ラサルモノニシテ原審裁判ハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリ  
 ト云ヒ辯護人堤牧太上告趣意書第一點規則第五條第一號ハ選舉運動ノ爲電報ノ使用ヲ禁シタル法文  
 ナリト斷定スルヲ許サス若シ夫レ右法文ヲ以テ電報ノ使用ヲ禁シタル正文ナリト解スレハ結局選舉運  
 動ノ爲ニハ一本ノ電報ト雖使用スルコトヲ得サルヘク然ラハ電報料ノ記載ヲ特ニ命シタル同規則第十  
 四條(第二號樣式)同第十五條(第三號樣式)ノ規定ト矛盾スルニ至ルヘシ同第十四條同第十五條ノ樣式  
 ニ於テ命セラレタル電報料ノ記載カ選舉運動上適法ニ使用セラレタルモノナルコトハ異論ナシ果シテ



然ラハ如何ナル制限範圍ノ電報カ選舉運動上適法ナリヤ否ヤハ衆議院議員選舉法第百條並同取締規則ノ條文自體ニ依テ決スルノ外ナシ換言スレハ選舉運動ノ爲使用スル文書並頒布ノ意義如何ヲ決スルニアリ御院ノ示ス判例ニ依レハ選舉運動トハ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得セシムルニ付キ直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘若ハ誘導其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱シ直接ニ投票ヲ得又得セシムル目的ヲ以テナス行爲ノミニ局限セサルモノトセリ從テ選舉運動ノ爲使用スル文書圖畫モ亦其ノ目的範圍ニ於テ使用スル文書ナレハ盡ク同條ノ所謂選舉運動ノ爲使用スル文書ナリト言フコトヲ得ヘシ選舉法ハ無權者運動ヲ嚴禁シ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニアラサル者カ演說會場ノ借入ノ交渉又ハ其ノ日時ノ打合せ或ハ倒レタル看板ノ立テ直シヲ爲スモ無權者運動トシテ處罰セリ左レハ遠隔ノ地ニ在ル同一都市ニ於テ一日數ヶ所ノ演說會ヲ催ス爲同時ニ數ヶ所ノ會場所所有者ニ對シ同文電報ヲ以テ其ノ都合ヲ問ヒ合スコトモ同規則ノ選舉運動ノ爲使用スル文書ノ頒布トシテ取締ルヘキモノナルヤ廣範圍ノ選舉區選舉日數ノ短縮費用ノ制限限定セラレタル少數委員法律ハ斷シテ斯ノ如キ不能ヲ要求セス茲ニ於テ當局ハ同規則第十四條同第十五條ノ様式ニ於テ記載ヲ命シタル電報料ハ投票ヲ得若ハ得セシムル間接ノ目的(假令ハ演說會場ノ借入又ハ委員ノ諾否)ノ爲ニノミ使用スル電報ニシテ頒布ニ至ラサルモノハ之ヲ除外シ其ノ直接ノ目的(假令ハ投票依頼)ノ爲ニ使用スル電報ハ違反ナリトノ見解ヲ有スルモノノ如キモ斯ク便宜ニ二分シタル勝手ノ結論ハ條文自體ノ解釋上之ヲ許サス

即チ規則第五條カ選舉運動ノ爲使用スル文書ノ頒布ヲ郵便ニ依ルヘキコトヲ原則的ニ規定シ同第十四條同第十五條ノ様式ニ於テ記載ヲ命セラレタル電報料カ同第五條ノ原則ニ對スル例外的文書(電報)ナリト論結スルニハ法文自體ニ於テ判然其ノ範圍ヲ明確ニスヘキモノナルニモ不拘條文ニハ單ニ選舉運動ノ爲使用スル文書ト表示其ノ適不適ノ廣狹範圍ヲ明確ニセサルヲ以テ一切ノ文書ヲ包括スルモノト解セサルヘカラス然リ而シテ同規則第五條第一號ノ頒布トハ出版法ノ頒布ノ意義ト全ク相異リ同規則ノ「郵便」ナル字義ト相對シ之ヲ配布即チ配達ト解スヘキモノニシテ單數ト雖亦郵便ニ依ルヘキコトヲ命シタルモノナレハナリ之ニ加ヘテ同規則ハ文書ノ頒布又ハ貼付若ハ揭示ニ付テノ制限規定ニシテ同條第二號以下ノ貼付又ハ揭示ハ單數ト雖之ヲ禁止スルモノナルコト明白ニシテ獨リ第一號ニ付テノミ多數ニ達セサル比較的少數ナレハ郵便ニ依ル制限ニ從フ要ナシトノ見解ヲ容ルルノ餘地ナキヲ以テナリ果シテ敘上論斷ノ如シトセハ選舉運動上電報ノ使用ハ全然之ヲ禁スルカ然ラサレハ之ヲ許スカ二者其ノ一ニ確定セサルヘカラス若シ夫レ規則第五條ヲ以テ電報ノ使用ヲ禁スル正文ナリト解センカ同第十四條同第十五條ノ規定ト矛盾スルニ至ルヘキコト前論ノ如シ然レトモ規則第五條ハ諸弊ノ因ヲ爲ス文書ノ個人頒布ノ方法ヲ制限シタル規定ニシテ郵便官署ニ依テ作成頒布スル何等弊害ナキ電報ノ使用ハ其ノ制限外ニ置キタルモノト解セサルヘカラス或ハ電報ハ多數ノ費用ヲ要スルカ故ニ同條ニ於テ禁シタリト論アルモ法定ノ選舉費用ノ制限範圍内ニ於テ全部之ニ消費スルモ何等不都合ナシ或ハ郵便



ト電信トハ其ノ據ルヘキ法律ヲ異ニスルヲ以テ電報ニ依ル文書ノ頒布ハ違法ナリト然ラハ本件電報ノ如ク電力作用ヲ以テスル符號ノ發信ナキ電報換言スレハ電信法ニ據ラサル市内電報ハ如何ニ解釋セラレヘキカ規則第五條ハ文書ノ頒布ノ方法ヲ結果的ニ制限シタルモノニシテ其ノ準據法ヲ定メタルニ非ス要ハ郵便官署ヲ通シ郵便屋(集配人)サンノ手ヲ經テ配達即チ頒布スヘキコトヲ命シタル法意ニ他ナラス司法内務ノ兩省ニ於テ電報ノ使用ハ同規則ノ違反ナリトノ解釋ノ一致シタルハ昭和十年九月六日ト拜承ス長崎縣當局カ各候補者選舉事務長選舉委員ヲ長崎警察署ニ招集シ其ノ通達ヲ爲シタルハ同年九月七日午後二時ナリ選舉運動ノ爲ノ電報カ選舉違反トナルコトヲ郵便局ニ於テ各打電者ニ注意スルニ至リシハ同年九月八日頃ナリシモ其ノ前日迄ハ一面熊本遞信局發行ノ「パンフレット」ヲ各候補者ニ配布シ以テ電報ノ利用ヲ勸誘シ他面新式機械二十數臺ヲ新ニ購入シ集配人ノ非番ヲ排シテ待機ノ有様ナリシ事實ハ領置ノ證據竝ニ被告人ノ陳述トニ依テ極メテ明白ナリ凡ソ省令ノ制定又ハ改正セラレタル場合ハ事務的ニハ各關係廳ニ通達シ疑問ノ存スル場合ハ各關係首腦者ニ於テ夫々解釋ノ統一セラルルヲ以テ通例トス然ルニ前叙ノ如ク九月二日ノ選舉告示次テ三日ノ本件違反問題發生後ニ於テモ各關係廳ノ取扱ヒ區々ニシテ一定セサリシ點ヲ推斷スルトキハ同取締規則第五條カ電報ノ存在ヲ全ク閑却シ深キ注意ヲ拂ハサリシ結果ニ他ナラサリシコトヲ窺知スルニ難カラス若シ夫レ同規則ニ之ヲ含入シ得タリトセハ錯覺モ亦甚シク未タ以テ罰スヘキ正條ノ具ラサルモノニシテ罰セントシテ罰スルコト

能ハサル法ノ不備ナリト解セサルヘカラス蓋シ處罰法ハ嚴乎タル正文ヲ要シ粹ニ之ヲ法第五條第一號ニ織込ミ得タリト爲ス窮屈ニシテ陰曇危險ナル解釋ハ法治國家名譽ノ爲斷乎トシテ排撃セント欲スルモノナリト云ヒ」同第二號被告人ハ西彼杵郡野母半島ヲ地盤トシ立候補スルニアラサルヤトハ當時世評竝新聞紙ニ報道セラレタルモノナルトコロ同地ヨリ同シ民政黨公認トシテ大久保子城氏立候補スルニ及ヒ俄ニ長崎市ヨリ出馬スヘク同年九月二日民政黨長崎縣支部ノ推薦ヲ受クルニ至リシ結果其ノ事實ヲ被告ノ選舉關係方面ニ其ノ有權者タルト無權者タルトヲ問ハス告知スルノ目的ヲ以テ本件電報ヲ打電スルニ至リタルモノニシテ即チ法ニ所謂選舉運動ノ爲ニ爲シタルニ非スシテ單ニ事實ノ告知ニ過キサルモノトス即チ其ノ宛名人中ニハ例ヘハ本河内町五島作太郎上小島町山口森三郎伊良林町河村熊太郎同小原清次郎片淵町大澤繁市中川町田川次惣次國分町佐藤友太郎同岡本藤壽等三十名ノ無權者ヲ混入シ居リタル事實ニ徵シ極メテ明白ナリ假ニ單ナル事實ノ告知ニ非ストスルモ其ノ依頼ノ電文ノ趣旨ハ第三者ノ推薦運動選舉委員勞務者又ハ辯士ノ依頼ニシテ直接投票ノ依頼ニ非サリシ事ハ電文竝打電ノ時期自體ニ依テ極メテ明瞭ナリ果シテ然ラハ所認行爲ハ選舉ノ準備行爲トシテ未タ處斷スル事能ハサルモノナルニモ拘ラス規則第五條ヲ適用シタルハ事實ノ認定ニ重大ナル違法アリト斷セサルヘカラス要之原審裁判ハ法律上不當ノ裁判ナリト斷セサルヲ得ス仍テ被告ニ對シ直ニ無罪ノ御判決ヲ賜ハランコトヲ希フト云ヒ」辯護人中村榮治上告趣意書衆議院議員選舉法第百條ト昭和九年内務省令第三



六號ノ取締規則第五條ヲ彼此對照シテ文理解釋スルナラハ右規定ノ趣旨ハ要スルニ選舉運動ノ爲ニスル文章圖畫ノ頒布又ハ揭示ノ方法ヲ定メタルニ過キスシテ汎ク選舉運動ノ爲ニスル意思若クハ觀念ノ表示方法ヲ制限シタル規定ニアラサルヘキヲ窺知スル事ヲ得ルナリ亦是ヲ條理ヨリ解釋スレハ右取締規則ノ依ツテ生シタル其ノ沿革ニ鑑ミル時即チ選舉運動ノ爲ニスル幾多ノ文章圖畫ナル有形物ヲ多數ノ人夫ヲ以テ頒布セシムル時ハ戸別訪問禁止規定ノ立法趣旨ヲ徹底セシメ難キノミナラス其ノ他名ヲ人夫ニ藉口シテ巧妙ナル所謂選舉買收行爲等ノ行ハレル等ノ如キヲ防止スルノ用意ニ出テタルモノト斷スルヲ得ヘクシテ右制限規定ノ趣旨カ汎ク選舉運動ノ爲ニスル意思若クハ觀念ノ表示方法ニ付テノ制限規定ニアラサルヘキヲ推知セシムヘキナリ從テ本被告事件ノ認定事實ヲ以テ右罰則違反ト見ルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリト云ハサルヘカラス端的ニ云ハハ原審判決ハ罪トナラサル行爲ニ對シテ不當ニ罰則ノ適用ヲ爲シタル違法アリト信スルモノナリ詳説スレハ選舉法第百條ニハ「選舉運動ノ爲ニ頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫」トアリテ取締規則第五條ニハ「選舉運動ノ爲ニ使用スル文書圖畫」トアリテ取締規則第五條ニハ「選舉運動ノ爲ニ使用スル文書圖畫ナル有形物頒布シ又ハ貼付シ若ハ揭示スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ一、郵便ニ依ルノ外頒布スル事ヲ得ス」トアリ右規定タルヤ要スルニ讀ンテ字ノ如ク選舉運動ノ爲ニ使用スル文書圖畫ナル有形物頒布ノ方法ニ關スル制限規定ト見ルノ外ナカラン然ルニ電報通信紙ナルモノハ國家機關力ヲ作成スルモノニシテ選舉運動者カ作成スルモノニアラス電報通信紙其ノモノヲ目シテ右取締規則第五條ニ所謂

選舉運動ノ爲ニ使用スル文書圖畫ナル目的物ニ包含スルモノト見ルヘキヤ否ヤ社會通念ヨリ觀察スルナラハ恐ラク問題トナラサルヘシ曰ク電報通信紙ヲ郵便ニ依ル外頒布スル事ヲ得スト云フ事ハ常識上アリ得ヘカラサル事ナルカ故ニ電報ノ事ハ勿論右取締規則第五條ノ規定ニ包含シアラスト云フヘク是ヲ論争スルカ如キ愚者ハ十人ノ中一人モアラサルヘシ即チ電報通信紙ハ國家機關力作成シ電信法ニ依テ國家機關力配達スルモノナル以上是ヲ選舉運動者カ郵便ニ託スルト云フカ如キ事ハ絕對的ニ不能ノ事ニ屬スルモノナル事ハ三歳ノ童子ト雖是ヲ知ル所ナルヘシ從テ本件被告事件ヲ目シテ衆議院議員選舉法第百條ト取締規則第五條ノ反則ト見ルハ誠ニ奇異ノ感ナキヲ得サル所ナリ換言スレハ右選舉法第百條ト取締規則第五條ハ選舉運動ノ爲ニ使用スル文書圖畫ナル有形物ヲ選舉運動者ニ於テ頒布スル場合ニ其ノ方法ニ付制限ヲ加ヘタルモノト解スヘク汎ク選舉運動ニ關スル意思若クハ觀念表示ノ方法ヲ制限シタルモノニアラサルヘキヲ感受スルニ充分ナルヘシ然カモ立憲ノ本旨ハ言論ノ自由ニアリ然シテ我選舉法カ言論自由ヲ尊重シテ原則トシテ演說文章ニ依ル選舉運動ヲ許容シアル點ニ想到スルニ於テハ直接明文ヲ以テ電報ニ依ル選舉運動ヲ禁シタルニアラサル限り殊ニ況ンヤ被告人ニ不利益ニ類推又ハ擴張解釋ヲ以テ處罰セントスルカ如キハ絕對ニアリ得ヘカラサル事ト云ハサルヘカラス極言スレハ電報ニ依ル選舉運動ヲ禁スル明文ナキ以上ハ飽ク迄モ言論自由ノ原則ニ依ラサルヘカラス徒ラニ牽強附會以テ平地ニ波瀾ヲ起スカ如キ偏狹ナル解釋ノ下ニ苟クモ良民ヲ處罰スルカ如キ事アランカ



非立憲ノ誹謗ヲ免レサルノミナラス仁愛ノ精神ニモ悖リ裁判ノ威信ヲ傷クル事甚大ナルヘシト思惟スル次第ナリト云ヒ辯護人山田半藏上告趣意書第四點原判決ハ被告人ノ本件行爲ニ對シ府縣制第三十九條第四十條ヲ以テ準用セラルル内務省令衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ヲ適用處斷シタリ然レトモ同條ニハ「選舉運動ノ爲ニ使用スル文書ハ郵便ニ依ルノ外頒布スルコトヲ得ス」ト規定シアリテ同條ニ所謂「文書」ナル中ニハ電報モ當然包含セラルルモノト認ムヘキモノニシテ特ニ電報ヲ除外スル規定ナキ同規則ニ於テハ被告人ノ本件行爲ハ右第五條第一項第一號ノ違反罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ右規則第五條第一號ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

昭和九年内務省令第三十六號衆議院議員選舉運動等取締規則第五條ニ於テ選舉運動ノ爲使用スル文書圖書ヲ頒布スル場合ハ郵便ニ依ルヘキモノナル旨ヲ定メタルハ選舉運動ニ伴フ弊害ヲ未然ニ防止シ取締上遺漏ナカラシムル目的ヲ以テ選舉運動ノ方法ヲ劃一ナラシメタルニ外ナラサルモノト解スルヲ得ヘク從テ郵便ニ依ルト云フハ郵便ノ方法ニ依ル場合ノミヲ指斥シ電報ニ依ル場合ヲ包含セサル法意ナリト解スヘク同規則中電報ニ依ルコトヲ禁止スル旨明言セサル故ヲ以テ之ヲ許容シタル趣旨ナリト解スルハ當ラス然リ而シテ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認定シ得ヘク該事實ハ郵便ニ依ラス電信官署ヲ介シテ選舉運動ノ爲使用スル文書ヲ頒布シタルニ該當シ上敘取締規則第五條ニ違反ス

ルモノトス記録ヲ精査スルモ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事平井彦三郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(九)第四二九號 棄却)  
(同年五月二十二日第四刑事判決)

【上告人】 被告人 長谷榮太郎 辯護人 森田重次郎

【第一審】 青森區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

個々面接罪ノ成立

○判決要旨

個々面接罪ノ成立



投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シタルトキハ個々面接罪成立シ當初ヨリ數人ノ選舉人ニ個々面接スルコトヲ包括豫見シタリヤ否ハ同罪ノ成立ニ影響ナキモノトス

【參照】衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖モ投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ズ

何人ト雖モ前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ

同法第九十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル青森縣會議員選舉ニ際シ同縣下北郡ヨリ立候補シタル議員候補者戸來健次郎ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

第一 同月十五日頃選舉人菊池只雄及翌十六日頃選舉人千代谷治太郎ニ對シ同縣同郡風間浦村ニ於テ連續シテ個々ニ面接シ前記候補者ノ爲投票方ヲ依頼シ

第二 同月十六日頃同村内ニ於テ非選舉人荒木ナホニ對シ右候補者ノ爲投票蒐集方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項前段第二百二十九條ニ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ各該當スルトココ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ犯情重キ無資格選舉運動ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人森田重次郎上告趣意書第二點途中テ會見シタ人ニ「此ノ度ヨロシク頼ム」ト云フタトテ衆議院議員選舉法第九十八條第二項前段ニ反スルモノテナイト思ヒマスソレハ「投票ヲ得若シクハ得シメ」ル目的ヲ以テ連續シテヤツテ居ルノテナイカラテ有リマス即チコレニハ「連續シテコレヲヤラウト云フ意圖カ包藏セラレルモノテナケレハナラヌカラテ有リマス」然ルニ本件ニ於テハ夫々偶然所用カアツテ行ツタ處又ハ道路等テ會ツタ時ニ話シタモノテ其レニハ目的ヲ抱イテ連續的ニヤラウトスル意圖

個々面接罪ノ成立



カナイカラテアリマス此ノ行爲ヲ本件ニ間擬シタノハ誤ツテキルト思ヒマスト云フニ在レトモ  
 原判決ノ事實認定ニ誤認ナキコトハ前論旨ニ對シ説明スル如シ而シテ判示ノ如ク候補者ニ當選ヲ得シ  
 ムル目的ヲ以テ事實上連續シテ數人ノ選舉人ニ個々面接ヲ爲シタル以上ハ所論ノ如ク當初ヨリ連續シ  
 テ之ヲ爲スノ包括豫見ナク偶選舉人方へ他ノ所用アリテ赴キタル際若ハ路上ニ於テ之ニ會ヒタル際面  
 接シタリトスルモ個々面接罪ヲ構成スルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ原判決カ同罪ヲ以テ之ヲ處  
 斷シタルハ洵ニ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由  
 ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事佐々波與佐次郎關與

○名譽毀損被告事件(昭和十一年(レ)第一三三四號 棄却)  
(同年五月二十三日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 丸島 誠 辯護人 黒澤松次郎

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

新聞紙ノ記事掲載ト動機ノ良否

○判決要旨

新聞紙力人ノ私行ニ渉ル記事ヲ掲載シタル場合ニ於テハ假令其ノ  
 意ハ惡ヲ意スニアリ其ノ内容ハ眞實ナルトキト雖之ヲ以テ刑法第  
 三十五條ニ所謂正當業務行爲ナリトナスコトヲ得ス

【參照】 刑法第二百三十條第一項 公然事實ヲ揭示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事  
 實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 新聞紙法第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シ  
 タル場合ニ於テ其ノ私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公  
 益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若  
 其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ  
 訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

刑法第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

新聞紙ノ記事掲載ト動機ノ良否



○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ夫々罰金二十圓ニ處ス被告人等カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人中村誠ハ昭和五年二月ヨリ新聞紙法ニ依ル週刊新聞「出版通信」ノ編輯發行兼印刷人ナルトコロ昭和七年一月十八日發行ノ出版通信第九十八號ニ「一評議員の横車から組合の内部攪亂さる」ト題シ「東京書籍商組合の本年定時總會も無事終了し改選された新評議員の初顔合せは既報の通り全然組合内部の事情に通せざる一評議員の無謀な横車から内部に蟠まる積年の暗闘は白日の下に曝け出され同時に評議員會の議事進行上にも著しき支障を來すなと兎角攪亂され勝ちて評議員間に多大の衝動を與へて居る即ち新人式正次氏の出現かそれである云々」及「新人式氏の排斥の聲揚る」ト題シ「式氏か組合評議員として何等の定見なく又書籍商として實際知識經驗なきに拘らず評議員會に出席して故意的に事毎に容喙したることか多数組合員の反感を買ふに至つた」云々ナル各記事ヲ執筆掲載シ其ノ頃約五百部ヲ東京市内外ノ讀者ニ配布シ以テ公然東京書籍商組合評議員ナル式正次ノ名譽ヲ毀損シ

第二 被告人小島新作ハ昭和六年十月ヨリ新聞紙法ニ依ル毎月三回發行スル新聞「出版タイムス」ノ編輯發行兼印刷人ナルトコロ昭和七年一月十八日附發行ノ出版タイムス第三百三十八號ニ「新評議員式君の排斥運動起る？」ナル題下ニ「今度新しく東京書籍商組合の評議員に當選した式正次君は十二月二十日評議員に立候補し猛運動を續け總會當日は多数の社員を使用し自動車を以て組合員を狩出し或は投票券入場券の〇〇及ひそれによる代人〇票等あらゆる手段を弄して遂に目的を達し評議員に列するや新參の身も顧みず事毎に最高幹部に喰つてかゝり傍若無人振りを發揮

して居るので役員一同憤慨して居る由である云々」ナル記事ヲ執筆掲載シ前後ノ文意ニヨリ式正次カ投票買収ニ因リ右評議員ニ當選シタルモノナル旨ヲ暗示シ其ノ頃約四千部ヲ東京市内外ノ讀者ニ配布シ以テ右式正次氏ノ名譽ヲ毀損シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示各所爲ハ孰レモ刑法第二百三十條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ撰擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ夫々罰金二十圓ニ處シ被告人等カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス  
尙各被告人及辯護人ハ判示各掲載事項ハ新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ニ涉ラス且惡意ニ出テス専ラ公益ノタメニシタルモノナル旨主張スレトモ右掲載事項カ式正次ノ私行ニ涉ルモノナルコト其ノ内容自體ニ徴シ明ナルヲ以テ該主張ハ之ヲ排斥ス

○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人黒澤松次郎上告趣意書第一點原判決ハ本件被告兩名ノ所爲ニ對シ刑法第二百三十條第一項ヲ適用處斷シタリ而シテ原判決ノ判示事實ニ依レハ被告人丸島誠(中村誠)ハ其ノ編輯兼發行人タル出版通信第九十八號(昭和七年一月十八日發行)ニ「一評議員ノ横車カラ組合ノ内部攪亂サル」ト題シ

新聞紙ノ記事掲載ト動機ノ良否



「東京書籍商組合ノ本年定期總會モ無事終了シ改選サレタ新評議員ノ初顔合セハ既報ノ通り全然組合内部ノ事情ニ通セサル一評議員ノ無謀ナ横車カラ内部ニ蟠ル積年ノ暗闘ハ白日ノ下ニ曝シ出サレ同時ニ評議員會ノ議事進行ノ上ニモ著シキ支障ヲ來スナト兎角攪亂サレ勝チテ評議員間ニ多大ノ衝動ヲ與ヘテ居ル即チ式正次氏ノ出現カ之テアル云々」及「新人式氏ノ排斥ノ聲揚ル」ト題シ「式氏カ組合評議員トシテ何等ノ定見ナク又書籍商トシテ實際知識經驗ナキニ拘ラス評議員會ニ出席シテ故意的ニ事毎ニ容喙シタルコトカ多數組合員ノ反感ヲ買フニ至ツタ云々」ナル各記事ヲ執筆掲載シ其ノ頃約五百部ヲ東京市内ノ讀者ニ配付シ以テ公然東京書籍商組合評議員ナル式正次ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ」トシ又被告人小島新作ハ其ノ編輯發行兼印刷人タル「出版タイムス」第三百三十八號（昭和七年一月十八日發行）ニ「新評議員式君ノ排斥運動起ル？」ナル題下ニ「今度新シク東京書籍商組合ノ評議員ニ當選シタ式正次君ハ十二月二十日評議員ニ立候補シ猛運動ヲ續ケ總會當日ハ多數ノ社員ヲ使用シ自動車ヲ以テ組合員ヲ狩出シ或ハ投票券（入場券）ノ〇〇及ヒソレニ依ル代人〇票等凡ユル手段ヲ弄シテ遂ニ目的ヲ達シテ評議員ニ列スルヤ新參ノ身モ顧ミス事毎ニ最高幹部ニ喰ツテ掛リ傍若無人振リテ發揮シテ居ルノテ役員一同憤慨シテ居ル由テアル云々」ナル記事ヲ執筆掲載シ前後ノ文意ニ依リ式正次カ投票買收ニ依リ右評議員ニ當選シタルモノナル旨ヲ暗示シ其ノ頃約四千部ヲ東京市内外ノ讀者ニ配布シ以テ式正次ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ」トセリ然レトモ敍上掲載記事ノ如キハ社會ノ正義擁護ヲ以テ任

トスル新聞紙當然ノ職務ニ屬シ之ヲ以テ名譽毀損罪ヲ構成スルモノナリト爲スハ現代法律感情ノ許ササル所ナリ抑新聞紙ハ社會ノ言論機關ニシテ苟モ社會公益上非議スヘキ行爲アレハ之ヲ排撃スヘキコト當然ニシテ正義ヲ援ケ不義ヲ撃ツ是レ新聞紙ノ本領ナリ從テ偶々其ノ説論ノ人ノ名譽ヲ毀損スルコトアルモ苟モ其ノ記述スルトコロニシテ新聞紙ノ使命ヲ完フシ其ノ本領ヲ失ハサルニ於テハ「職務上正當ノ行爲」ニシテ刑法第三十五條ニ依リ違法阻却ノ原因トナリ處罰スヘカラサルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原判決カ之ニ對シ名譽毀損罪ヲ以テ問擬シタルハ違法ノ判決タルヲ免レスト云フニ在リ然レトモ新聞紙カ其ノ使命ヲ遂行スルニ當リテモ手段方法ノ適正ヲ期スヘキハ勿論ナルヲ以テ記事ノ内容體裁モ亦公序良俗ニ及セサルコトヲ要ス新聞紙法第四十五條ノ規定モ亦茲ニ關連スルモノト謂フヘク本件ニ於テハ記事ノ内容カ私行ニ涉リ且掲載行爲カ専ラ公益ノ爲ニスルモノト認メ得サルコトハ論旨第二點第三點ニ對シテ後ニ説明スルカ如クナルヲ以テ判示行爲ハ結局違法タルニ歸シ所論ノ如キ正當性ヲ具有スルモノニ非ス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關興



○府會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(れ)第四九三號 同年五月二十五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 太田淺次郎

辯護人 藤原實昌 佐藤利雄

外二名

【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事——應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號

○判決要旨

一 控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事ハ必シモ搜查起訴又ハ公判審理ニ關與シタルモノナルコトヲ要セス【要旨第一】

二 議員候補者タリシ者力自己ノ爲應援演說ヲ爲シタル辯士ニ對シ其ノ報酬ヲ供與シタルトキハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一

項第三號ノ犯罪ヲ構成ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第三百七十六條 上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

衆議院議員選舉法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

(中略)

三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋

勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一

號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人淺次郎ヲ禁錮一月ニ同銚吉ヲ罰金二百圓ニ同清朗ヲ罰金百五十圓ニ各處ス但被告人淺次郎ニ對シ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人銚吉同清朗ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人等ヲ勞役場ニ留置ス被告人清朗ヨリ金二十五圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人太田淺次郎ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル京都府會議員選舉ニ際シ京都市下京區ヨリ立候補シタル議員候補者被告人北條銚吉ハ其ノ選舉事務長被告人龜田清朗ハ選舉委員ナリシトコロ

第一 被告人淺次郎同銚吉ノ兩名ハ共謀ノ上同年九月二十七日被告人淺次郎ノ肩書居宅等ニ於テ孰レモ同被告人ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ應援辯士タリシ妻谷猪之吉ニ對シ金百五十圓岩井勇藏

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 十二條第一項第三號

應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百

六七九

(一三)



ニ對シ金百圓藤井計吾 東光總次郎 田中寅造ニ對シ各金二十圓森田留吉ニ對シ金十圓ヲ夫々順次ニ供與シ

第二 被告人銚吉ハ被告人淺次郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年九月十三日頃同市同區東九條烏丸町長増寺内ナル選舉事務所ニ於テ選舉委員タル被告人清朗ノ要求ニ應シ同人ニ對シ右候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ貸借名義ノ下ニ金二十五圓ヲ供與シ

第三 被告人清朗ハ前記日時場所ニ於テ前記ノ如ク右選舉事務長ナル被告人銚吉ニ對シ自己カ右候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金員ヲ要求シ貸借名義ノ下ニ金二十五圓ノ供與ヲ受ケタルモノニシテ被告人淺次郎同銚吉ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人淺次郎ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號刑法第五十五條第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮一月ニ處シ尙犯情刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二百五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク被告人銚吉ノ判示所爲中第一ノ點ハ各府縣制前同條衆議院議員選舉法前同條同項同號刑法第六十條ニ第二ノ點ハ府縣制前同條衆議院議員選舉法前同條同項第一號ニ該當スルトコロ右ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條第十條ヲ適用シ一罪トシ犯情重シト認ムル後者ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ所定金額ノ範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ被告人清朗ノ判示所爲ハ府縣制前同條衆議院議員選舉法前同條同項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ所定金額ノ範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金百五十圓ニ處シ被告人銚吉及清朗ニ於テハ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二百圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人等ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人清朗ノ收受シタル判示金二十五圓ハ全部沒收スルコト能ハサルヲ以テ府縣制前同條衆議院議員選舉法第一百十四條ニ則リ同被告人ヨリ同額ノ金員ヲ追徵スヘキモノトス

本件ノ搜查及起訴ハ檢事小田原親弘ニ依リ爲サレ第一審ニ於テハ同檢事及檢事根本丈助ノ關與ニ依リ審理ヲ遂ケ控訴申立ハ檢事堀部淺ニ依リ爲サレタルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人後藤亭上告趣意書第一點檢事同一體ノ法理ヲ誤解シ直接事件ノ搜查ニモ審理ニモ干與セサル檢事ノ控訴申立ニ基イテ事件ヲ審理シタ原判決ハ檢事同一體ノ原則ヲ濫用シタ不法カアル原判決ノ冒頭ヲ閱スルト「右ノ者等ニ對スル府會議員選舉罰則違反被告事件ニ付昭和十年十月二十六日京都區裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ各被告人並被告人太田淺次郎同北條銚吉ニ對スル部分ニ付檢事堀部淺ヨリ夫々適法ナル控訴ノ申立ヲ爲シ被告人龜田清朗ニ對スル部分ニ付檢事鈴木庄太郎ヨリ適法ナル附帶控訴ノ申立ヲ爲シタルニヨリ當裁判所ハ檢事小田原親弘及根本丈助關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シトアリ被告人太田淺次郎同北條銚吉ニ對スル原判決ノ審理ハ檢事堀部淺ノ適法ナル控訴申立ニヨルモノナルコトカ明カニセラレテ居ルケレトモ本件右兩被告人ニ就テ起訴前ノ搜查處分ヲシタ檢事モ公判請求ノ起訴處分ヲシタ檢事モ小田原親弘テ且ツ第一審ノ公判ニ立會シタ檢事ハ小田原親弘ト根本丈助檢事テ堀部淺檢事テハナイ從テ前記兩被告人等ニ控訴ヲ申立タ堀部淺檢事

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百十二條第一項第三號



ハ全然本件ノ捜査處分ニモ公判審理ニモ關係シテ居ナイコトカ記録上明確テアル此ノ如ク全然事件ノ捜査ニモ審理ニモ關係シタコトノナイ堀部淺檢事カ右太田北條兩被告人ニ對スル第一審判決ヲ不服トシテ控訴ヲ申立タノハ所謂檢事同一體ノ法理ニ準據シタモノテアリ原判決モ亦其ノ法理ヲ承認シテ控訴審理ヲ進メラレタモノト考ヘルタカ然シ檢事同一體ノ法理ハ決シテシカク無制限ノ濫用ヲ許サルヘキモノテハナイト確信スル何故ナラハ漫然タル檢事同一體ノ法理ハ上大審院檢事總長ヨリ下區裁判所檢事代理ニ至ル迄之ヲ一貫シ居ルモノノ如クニ考ヘラレナイテモナイケレトモ檢事ノ職務本來ノ性質上起訴處分ノ裁斷並求刑及判決ノ刑期量定ヲ批判スル控訴申立ノ如キ事務ハ必スヤ其ノ事件ニ直接關與シタ捜査審理ノ人間の裁量ニ俟ツコトナクシテ遂行シ得ナイ事務テアルサレハコソ所謂檢事同一體ノ法理ハ形式上同檢事ニ共通スルモノノ如キ概念ヲ與ヘ乍ラモ事實的ニハ其ノ審級ニ於テ職務ノ限界ヲ定メ又同シ審級ニ於テモ地域的ト事件ノ擔任ニ限界ヲ置キ濫リニ其ノ紛交ト濫用ヲ許サナイノテアル從テ同シ檢事局ニ於ケル檢事カ同一ノ事件ニ關與スル限り其ノ關與檢事ニ付テハ所謂檢事同一體ノ法理カ適用サレルカ全然事件ニ關與シナイ檢事ト關與シタ檢事トノ間ニ於テモ檢事同一體ノ法理ヲ適用シ得ルモノノ如ク考ヘルコトハ檢事同一體ト云フ法理ノ誤解ニ基ク濫用テアル左レハ全然本件ノ審理ニ關與セサル檢事堀部淺ノ控訴ニ基イテ事件ヲ審理シタル原判決ハ結局檢事同一體ノ法理ヲ濫用シタル誤解ニ基ク不法判決トシテ破毀セラルヘキモノト思料スルト云フニ在レトモ

## 【要旨第一】

刑事訴訟法第三百七十六條ニハ檢事ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ル旨規定シアレハ京都區裁判所ノ言渡シタル判決ニ對シ同應檢事局檢事カ控訴ヲ爲スヲ得ルコト言フ俟タス而シテ檢事ハ一體ノモノナルヲ以テ右控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事ハ必スシモ捜査起訴又ハ公判審理ニ關與シタル者タルコトヲ要セス然レハ本件ニ付京都區裁判所檢事堀部淺ハ捜査起訴公判審理ノ孰レニモ關與セサリシコト洵ニ所論ノ如シト雖原審カ同檢事ノ申立テタル控訴ヲ適法ト認メ審理判決シタルハ正當ニシテ何等ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

第五點原判決ハ被告人淺次郎ニ對スル犯罪事實ノ認定ニ於テ選舉法第百十二條第一項第三號ノ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ性質ヲ誤認シタル不法ヲ免レナイモノト思料スル以下其ノ理由ヲABCニ細分シテ上告裁判所ノ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ性質ヲ究明シタ嚴正公平ノ裁判ヲ要求スルA、選舉ニ關スル罰則ノ本質カ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル社會的政治的不正ノ豫防ト懲戒ニアルコトハ學說判例共ニ一致シテ居ル定説テアル從テ選舉法第百十二條第一項第一號ニ於テ「當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲナシ又ハ響應接待其ノ申込若クハ約束ヲナシタルトキ」トアル金錢物品其ノ他ノ利益供與ニヨツテ直接選舉人ノ投票ヲ誘導シテ其ノ自由ナル投票ヲ妨ケ若ハ同様ノ方法ニヨル運動者ノ誘導ニヨリ間接ニ選舉人ノ自由ナル投票權行使ヲ妨ケルコトモ皆共ニ選舉ノ主目的タ

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百  
十二條第一項第三號



ル當選ヲ得若ハ得シメルコトヲ目的トスル不正行爲ヲ豫防懲戒スルニアリト云フ選舉罰則ノ本質的規定ハ爾餘一切ノ選舉罰則ニ共通スル基本觀念テアル從テ選舉罰則ノ凡テハ所謂選舉ノ主目的タル候補者自ラ當選ヲ得ル目的ト候補者以外ノ選舉運動者カ特定候補者ニ當選ヲ得シメル目的ヲ以テ直接選舉人ヨリ投票ヲ吸收スル積極的方法ト自ラ當選ヲ得若ハ當選ヲ得シメ度キ特定候補者ニ投票ヲ吸收スル爲ニ他ノ特定候補者ニ當選ヲ得シメサル消極的方法ノ何レタルヲ問ハス其ノ方法ノ遂行ハ常ニ或ル特定候補者自ラ當選ヲ得若ハ候補者以外ノ選舉運動者カ特定候補者ニ當選ヲ得シメル目的意思ノ實現過程テアツテ當該目的ト分離シテ思念スルコトノ不可能ナ行爲テアルト同時ニアラユル選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ハ選舉ノ主目的タル特定候補者カ自ラ當選ヲ得若ハ選舉運動者カ當該特定候補者ニ當選ヲ得シメル目的ヲ以テ行ハルル選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル行爲テアル凡ソ如何ナル選舉罰則ニ關スル犯罪ト雖其ノ本質上選舉ノ主目的タル特定候補者ノ當選ヲ得若ハ得シメル目的ニ出テサル犯罪行爲ノアリ得ヘカラサルコトハ人間生活ノ實驗則ニ照應スル社會常識ノ心理學的考察ニ於テモ選舉罰則ニ關スル選舉常識上ノ犯罪心理學的考察ニ於テモ共ニ肯定セラルヘキ條理テアル然ルニ原判決ハ被告人太田淺次郎ニ對スル第一ノ犯罪事實ニ就テ適用シタル選舉法第百十二條第一項第三號ハ候補者被告人太田淺次郎カ自ラ當選ヲ得若ハ妻谷猪之吉外六名ノ所謂辯士カ候補者被告人太田淺次郎ニ當選ヲ得シメル目的ヲ以テ授受セラレタル金錢ニアラサルコトヲ認メナ

カラ而モ尙苟モ候補者タリシ者ト運動者タリシ者トノ間ニ所謂報酬授受ノ事實アレハ當然選舉罰則ニ關スル犯罪ヲ構成スルモノトシテ之ヲ處罰スル法意ナルカ如ク解釋シ全然選舉ノ主目的タル當選ヲ得若ハ當選ヲ得シメルト云フ目的意思ノ發生シ得サル時機ニ於テ又事實上斯ノ如キ目的ヲ以テ授受セラレタルモノニモ非サル金錢ノ授受ニ對シ輒ク有罪ノ判決ヲ言渡シタ原判決ハ畢竟選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ヲ究明セスシテ其ノ擬律ヲ誤リタル不法ヲ免レサルモノト思料スルB、原判決ハ選舉法第百十二條第一項第三號「投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周施勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ」ノ法意ハ學說及判例ニ所謂事後報酬テ同第一號ハ選舉投票事前ナルカ故ニ「當選ヲ得若ハ得シメル」ノ目的ニヨツテ行ハルル利益供與タルコトヲ要スルモ第三號ノ場合ハ「第一號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタルトキ」ノ利益供與ニツイテハ何等ノ差支ナキモ其ノ供與カ「當選ヲ得若ハ得シメル」ノ目的意思ニ出ツルコトヲ要セサルモノト解釋シ被告人太田淺次郎同北條銈吉兩人ニ對スル第一事實認定ニ「所謂辯士報酬供與」ハ全然候補者被告人太田淺次郎ノ自ラ當選ヲ得若ハ演說ニヨル選舉運動者辯士妻谷猪之吉外六名カ候補者太田淺次郎ニ當選ヲ得シメル目的ニ出テタルモノニ非サルコトヲ認メナカラ尙且ツ選舉罰則違反ノ犯罪ヲ構成スルモノトシ如上第百十二條第一項第三號ヲ適用シタノハ畢竟選舉罰則ニ關スル犯罪ハ常ニ必ス選舉ノ主目的タル特定候補者カ自ラ當選ヲ得若ハ選舉運動者カ特

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百



定候補者ニ當選ヲ得シメル目的ノ實現過程ニ於テ遂行セラルル犯罪タルコトヲ理解セサル誤判テアル其ノ理由ハ前項(A)ニ詳論シタ通りテアルソシテ原判決ハ更ニサウ云フ選舉罰則ノ本質ニ關スル誤解ニ座シテ同第三號ノ法意ヲ曲解シ全然第三號ノ法意ト相合致セサル被告人太田淺次郎北條銚吉ニ對スル第一ノ犯罪事實ヲ認定シ敢テ禁錮若ハ罰金ヲ言渡シタノハ斷シテ破毀セラルヘキ不法ノ極ミナリト思料スル抑モ第一百十二條第一項第三號ノ法意ハ從來ノ學說判例ニ所謂事後報酬トシテ同第一號ノ利益供與行爲ト同一ノ利益供與行爲カ同第一號ニ於テハ選舉投票ノ事前ニ於テ候補者自ラ當選ヲ得若クハ選舉運動者カ特定候補者ニ當選ヲ得シメル目的ヲ以テスルニ對シ全然投票事前ノ「當選ヲ得若ハ得シメ」トイフ目的ヲ成立シ得サル若ハ思念シ得サル投票事後ニ於テ苟モ會テ候補者タリシ者ト若ハ選舉運動者タリシ者トノ間ニ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益供與アレハソレニヨツテ直チニ同第三號ノ選舉罰則違反ヲ構成スルト云フ趣旨テナイニモ拘ラス從來ノ判例學說カ多ク如上ノ誤解ヲ恣ニシテ居タノハ畢竟選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ヲ究明シ盡サナイ錯覺ノ淺見テアル若シモ從來ノ學說判例ニ謂フカ如ク所謂事後報酬トシテ同第一號ノ投票事前ニ於ケル利益供與ト同一ノ利益供與ハ其ノ「當選ヲ得若ハ得シメ」ル同第一號ノ目的條件ヲ缺如シテモ尙且ツ同第三號ノ選舉罰則違反ヲ構成スルト云フ法意ナラハ同第三號ノ前段「投票ヲ爲シ若ハ爲ササル」コト選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周施勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ」ト云フ文字ハ全然不必要カ又ハ不

可解ノ贅文テアル只單ニ「選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ」ノ規定ヲ以テ足リルノテアルケレトモサウ云フ漫然タル規定テハ選舉罰則ノ意義ヲ内容ツケル選舉ノ公正ト投票自由ヲ妨害汚損スル事實ヲ確定シ得ナイト同時ニ左様云フ漠然タル選舉罰則違反ノ規定ヲ必要トシナイコトハ自明テアル而已ナラス所謂事後報酬ト稱スル投票事後ノ金錢供與罪ハ如何ナル時期ニ於テ行ハルルコトヲ要スヘキカ?即チ投票ト利益供與トノ間ニ幾干ノ時間的隔ヲ限ツテ選舉罰則違反ヲ構成スヘシト爲スカ?ノ事實ヲモ確定シ得ナイコトニナルノテアル從テ從來ノ學說判例ニ所謂事後報酬ハ選舉ノ終了即チ選舉ノ投票期日ヲ起點トシテ選舉法ノ時効期間内ニ行ハルルコトヲ要スト解シ時効期間後ニ於ケル事後ハ所謂事後報酬ノ選舉罰則違反ヲ構成セスト解釋サレテキル様ニ思フタカシカシ斯ノ如キハ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ヲ究明シ盡ササル錯覺ノ誤解テアル凡ソ如何ナル選舉罰則ニ關スル犯罪ト雖選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル行爲ノ豫防懲戒ヲ法益トスル基本觀念ヲ外ニシテ選舉罰則違反ヲ構成スル謂レノナイコトハ前(A)點ニ論シタ通りテ第三號ノ法意亦コノ趣旨ニ於テ解釋セラレナケレハナラヌモノト思料スル且ツ其ノ趣旨ニ於テノミ第三號前段ノ明文カ有用トナルノテアル即チ「投票ヲ爲シ若ハ爲ササル」コト」ノ明文ハ謂フマテモナク投票事前ニ非サレハ思念シ得サル事實テアル從テ之ニ次ク「選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト」モ亦所謂選舉運動カ特定候補者ノ當選ヲ得シムルタメノ行爲ナリト解セラレル限リテ前段同様選舉終了前ニ非サレハ思念シ得サ

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 應接辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百  
十二條第一項第三號



ル事實テアルト同時ニサウ云フ「投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト」「選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト」ノ周施勸誘ヲ爲スコトモ同シク選舉運動事前ニ非サレハ絶對ニ思念シ得サル行爲タルコト甚タ自明テアルサレハサウ云フ選舉投票事前ニノミ思念シテ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ主目的タル「當選ヲ得若ハ得シメサル」目的ヲ成立シ得ル行爲ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シテ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與スル行爲ヲ處罰スル第三號ノ法意ハ必スヤ選舉投票事前ニ特定候補者自ラ當選ヲ得若ハ選舉運動者カ特定候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テソレラ特定ノ行爲ヲ敢テスル目的意思ノ成立シ得ル實現過程ニ於テ遂行セラルル行爲タルコトモ亦自明テナケレハナラナイモノト思料スル然ルニ原判決ハ全然コノ點ニ關スル同號ノ法意ヲ曲解シ被告人太田淺次郎カ自ラ當選ヲ得被告人北條銈吉ハ太田淺次郎ニ當選ヲ得シメル爲ノ目的ヲ成立シ得サル選舉投票終了落選確定後ニ於テ被告人太田淺次郎カ候補者タリシコト被告人北條銈吉カ其ノ選舉事務長妻谷猪之吉外六名カ其ノ選舉運動者タリシ事實ノミヲ認メテ如何ナル目的ニ出テタルモノナリヤヲ明示セス漫然其ノ間ノ金錢授受ヲ同第三號ノ所謂事後報酬ナリト認定シテ有罪トシタル原判決ハ擬律ノ錯誤ト共ニ理由不備ノ失當ヲ免レナイモノト思料スルC、從來ノ判例學說ニ依據シテ原判決ヲ論難シタル(A)(B)ノ上告理由ノミニヨツテ第一百十二條第一項ノ第一號ト第三號ノ規定ヲ對照スレハ第三號ハ全然不要ナルカ？ノ感ナキヲ得ナイテアラウシカシソレハ皮相ノ見テアル恐ラクハ立法者モコレヲ解釋運用スル從來ノ學

說判例モ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ヲ究明シ盡サナイ不徹底ニモ拘ラス選舉實際ノ取締上絶對ニ閑却シ得ナイ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル不正ノ選舉運動ヲ取締ル必要上一種ノ錯覺的齟齬ヲ挾ンテ稍々不明瞭ナ立法ヲ明文シ且ツ其ノ解釋ト運用ヲ誤ラシメテ居タモノト思料スル何故ナラハ最モ正シク解釋セラルヘキ第一百十二條第一項第三號ノ法意ハ決シテ第一號トノ重複ヲ規定セラレタモノテモナケレハ況ヤ重複的事實ノ選舉投票「事前」ト「事後」ノ規定ヲ二ツニセラレタ譯ノモノテモナイノテアル斷然獨立ノ必要ニ基ツク規定トシテ解釋セラレナケレハナラナイ獨自ノ法意カアルノテアル蓋シ第一號ノ法意ハ「候補者自ラ當選ヲ得若ハ選舉運動者カ特定候補者ニ直接選舉人ノ投票ヲ吸收スル積極的方法又ハ特定候補者ニ投票ヲ吸收スルタメニ他ノ特定候補者ニ投票ヲ吸收セシメサラントスル消極的方法ニヨル不正當選ヲ目的トスル利益供與ヲ處罰ノ對象トスルニアリ第三號ノ法意ハ特定候補者ノ不正當選ト云フコトヲ目的トシナイ「無効投票ヲ爲サシメ」「若ハ爲サシメサル棄權」ヲ目的トスル選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ基本的ニ妨害汚損スル選舉運動ノ不正行爲ヲ對象トシテ規定セラレタル居モノト解釋シナケレハナラナイ從テ第三號ノ法意ハ特定候補者ノ當選ヲ目的トシテハ居ナイカ如何ナル候補者モノ不當選ヲ目的トシテ居ル點ニ於テヤハリ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質上選舉投票事件ニ於テ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル目的ヲ以テ行ハルモノタルコトヲ要スル點ニ變リハナイノテアル只サウ云フ無効投票ヲ勸誘スルコトカ現行選舉制度ニ從テ立候補シタル候補者

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百



中一人ノ投票スヘキ候補者ナク現行ノ選舉制度ニ準據シテ立候補セサル人物ニ制度上ヨリ云ヘハ無効投票ヲモ眞ニ民意代表ヲ信賴スル意味ニ於テ正シイ投票タルコトヲ勸誘スル(例ヘハ立候補セサル名士ヘノ投票)選舉運動若ハ現ニ立候補シテ居タ候補者ニ當選ノ議席ヲ與フル限リ必スヤ政界ヲ汚毒シ國家ト國民ノ不利ヲ招來スルモノト認メテコレニ投票セサル棄權勸誘ノ運動ノ如キハ明カニ投票ヲ爲スコト又ハ爲ササルコト等々「選舉運動ヲナスコト若ハ止メルコト又ハソレヲ周施勸誘」等ニ該當スルノテアルケレトモソレ等ノ無効投票乃至棄權勸誘等ノ選舉運動カ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益供與ニ基カサル公共利益ノ信念ニ基クモノナル限リモトヨリ自由テコレヲ罰スル必要カナイケレトモサウ云ウ運動カ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益供與ニヨツテ行ハルルニ至ツテハ斷然コレヲ處罰スル必要カアルノテアルコレ實ニ第一百十二條第一項第三號ノ法意テアルシカク眞ニ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ法益トスル選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ヲ究明シ最モ妥當適切ナル解釋ニ依ツテノミ第三號ノ法意ヲ活現シ得ルノテアル然ルニ從來未タ曾テ第三號ノ法意ヲ以上ノ如ク解釋セス所謂事後報酬トシテ選舉罰則ニ關スル犯罪ノ目的罪タルコトヲ看過シ且ツ如何ニ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨ケタリヤノ事實確定ヲモ明示セス更ニ所謂「事後」ノ期間ノ計算ニ於テ不合理不徹底ノ時効期間ヲ限界トシテ其ノ解釋ヲ糊塗スル學說判例ニ基キ全然第三號ノ正シキ法意ニ合致セサル被告人太田淺次郎同北條銚吉ニ對シ第一ノ犯罪事實ヲ認定シテ第一百十二條第一項第三號ヲ適用シタ原判決ハ罪ト爲ラサル事實ヲ認

定シテ有罪ヲ言渡シタル不法判決テアルト云ヒ」第六點原判決ハ顯著ナル事實誤認ノ不法アルモノト思料スル原判決ノ被告人太田淺次郎同北條銚吉ニ對シテ認定シタル第一ノ犯罪事實「被告人淺次郎同銚吉ノ兩名ハ共謀ノ上同年九月二十七日被告人淺次郎ノ肩書居宅ニ於テ執レモ同被告人ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ應援辯士タリシ妻谷猪之吉ニ對シ金百五十圓岩井勇藏ニ對シ金百圓藤井計吾 東光總次郎 田中寅造ニ對シ各二十圓森田留吉ニ對シ金十圓ヲ夫々順次ニ供與シ」ハ判文ソレ自體ニ明瞭ナルカ如ク妻谷猪之吉 岩井勇造 藤井計吾 東光總次郎 田中寅造 森田留吉ハ候補者被告人淺次郎ノタメ演說ニヨル選舉運動者タリシモノテアル而シテ演說ニヨル選舉運動ハ選舉法ニ所謂選舉委員若ハ勞務者ニ非サル特殊ノ位地ヲ許サレタモノテアルコトハ現行各種選舉法ノ諸規定ニ散見スル演說ニ依ル選舉運動ト云フ概念ノ散漫ト成文ノ不整理ハ甚タ曖昧テ所謂「辯士」ト稱スル術語カソレ丈ケノ意義ニ限ツテ使用セラレテ居ナイタメニ演說會開催ノ準備ノビラ貼リ等ニ從事スル選舉法所定ノ選舉勞務者ト所謂辯士ヲ區別スル事カ出來ナイ從テソレ等演說會準備ノビラ貼リ等ニ從事スル選舉法所定ノ選舉勞務者ト同一視スル事ノ出來ナイ知名者有名家ノ選舉運動トシテ觀念セラレル所謂辯士ヲ選舉法所定ノ選舉運動者タル候補者選舉事務長選舉委員以外ノ選舉運動者ト解シ之ヲ選舉勞務者ト同列ニ置ク譯ニ行カナイ限リ選舉法第一百十二條第一項第三號ニ所謂選舉運動者ト稱スル事カ不自然ニシテ且ツ非常識ナルカ故ニ不可解テアルケレトモ飽迄嚴正公平ナル法律的研究



ト實際的考案ニ順應センコトヲ期スル辯護人ハ極メテ古イ時代カラノ判例トシテ「議員候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ選舉有權者ニ對シ投票ヲ求メントスル行爲ハ適法ナルト違法ナルトニ論ナク總テ之ヲ選舉運動ト云フヘク從テ法定ノ選舉運動員ニ非スシテ選舉有權者ニ對スル投票ノ買収及投票ノ勸誘ヲナスカ如キハ固ヨリ選舉運動ニ外ナラサレハ……」トアル通り選舉運動ハ其ノ合法タルト非合法タルトヲ問ハス又其ノ選舉運動者トハ届出テタル者ト届出テサルモノトヲ問ハス苟クモ一定候補者ニ當選ヲ得シメル目的ヲ以テ選舉人ノ投票ヲ牽引吸收スル一切ノ行爲ヲ指稱スルト云フ趣旨ヲ判示セラレタコトト且ツ一般ノ通説トシテモ選舉運動トハ(一)第一ニ特定ノ選舉ニ對スル行爲テアルコト從テ第二ニ特定ノ議員候補者ニ對スル行爲テアルコト第三ニ特定ノ議員ノ當選ヲ斡旋スル行爲テアルコト第四ニ當選又ハ當選ヲ邪魔スルタメノ「特定行爲」トシテ認識サレルコトト云フ様ニ解セラレテ居リ更ニ一般の選舉運動ノ觀念ニ於テモ又政治ト云ヘハ選舉ノ演說會選舉ノ演說會ト云ヘハ華カナル辯士ノ演說ヲ聯想スル位所謂辯士ト選舉運動トノ觀念ハ引離シ難イモノニセラレテ居ル事實ニ依リ法規ノ曖昧ニモ拘ラス所謂辯士ノ所謂選舉運動タルコトハ之ヲ肯定シ所謂辯士ハ同シクソノ選舉運動者タルコトハ之ヲ肯定シテモ所謂法定ノ選舉運動者タラサルモノテアルコトハ斷シテ之ヲ看過シテハナラナイ第三者ノ推薦又ハ演說ニヨル選舉運動ノ許容サレテ居ル解釋上甚タ明白テアル從テ演說ニヨル選舉運動者ハ同シク選舉運動者テモ所謂辯士トシテ選舉委員若ハ勞務者タル報酬ノ規定ニ囚ハレナ

イ立場ニ置カレテ居ルノテアルソシテ更ニ所謂辯士ノ報酬ハ辯士ノ社會的位置ニヨツテ決定セラルヘキモノタルコトハ昭和十年九月十月施行ノ府縣選舉取締方針ニ於テ辯士報酬ニ付何等ノ制限ヲ加ヘス辯士ノ社會的位置ト候補者ノ社會的位置ト對照其ノ他ノ諸條件ヲ考慮スル社會通念ノ決スルコロニ任セタ事實ニヨツテモ明白テアル從テ候補者タリシ被告人太田淺太郎ト妻谷以下五名ノ辯士タリシ者ノ位置對照上原判決認定ノ金錢授受カ所謂辯士報酬トシテ一般の社會通念ト選舉界實際ノ常識慣例ニ於テモ妥當公正ナル限リ斷シテ犯罪ヲ構成スヘキ所以ノモノテハナイノテアルト同時ニ當該金錢ノ授受ニツイテ之ヲ提供シタル候補者被告人太田淺太郎ノ心事ト態度ニ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル意思ナク之ヲ享受シタル辯士等ニ於テモ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル心事態度ナク被告人太田淺太郎ハ專ラ社會通念上ノ謝禮トシテ之ヲ提供シ妻谷猪之吉ハ固辭シツツ之ヲ受ケタト云フ事實關係ハ「十月三日附藤井計吾聽取書ニハ「九月二十五日投票カ行ハレ二十六日開票ノ結果太田サンカ落選サレマシタノテ十月一日ニ太田方ヘオ悔ニ行キマシタ九月二十七日私カ夕方午後六時頃歸宅暫クスルト太田サンノ使ト云フ人カ見エ其ノ使ノ方ハ今度ハエライ御苦勞サンテシタ之ハ少ナイテスカ電車賃テアリマスカラ御受取下サイト云フテフクサ包ヲ私ノ前ニ出サレマシタ處ヨリオ金カフクサニ包ンテアルコトハ克ク判斷出來マシタカラ私ハ左様ナオ禮ヲシテ戴ク考テハ居マセスカラオ持歸リ下サイト再三辭退致シマシタカ使ノ方ハ強ヒテ取ツテ吳レト云ツテ私カ受取ラナイノテフクサヲ開

控訴ヲ申立テ得ヘキ檢事 應援辯士ニ對スル報酬ノ供與ト衆議院議員選舉法第百  
十二條第一項第三號



キ中カラ新聞包ノオ金ヲ取り出シ疊ノ上ニ置キ逃ケル様ニシテ歸ツテ了ハレタノテ私モ不本意ナカラ  
 受取ツテ置キマシタ使ノ方カ歸ラレテカラ新聞包ヲ開イテ見マスト更ニ奉書ノ金子包カアリ表ニ薄謝  
 太田ト書イテ水引カ掛ケテアリマシタ其ノ包ヲ開イテ見ルト現金十圓札二枚カ這入ツテ居リマシタ  
 トアルカ如ク記録上甚タ明白テアルコレニ依ツテ之ヲ見ルニ原判決ノ被告人淺次郎同銚吉ニ對スル第  
 一事實ノ有罪認定ハ顯著ナル誤判トシテ斷然破毀セラルヘキモノト思料スルト云ヒ第七點原判決ハ  
 選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質ト國家ノ選舉罰則ニ關スル法定規範ニツイテ未タ罪トスヘカラサル法定  
 規範ヲ被告等ニ強ヒテ處罰シタル擬律錯誤ノ不法ヲ極メテ居ルモノト思料スル選舉罰則ニ關スル犯罪  
 ヲ衆議院議員選舉法施行令若ハ施行規則或ハ衆議院議員選舉運動等取締規則等ニ存スル形式違反ト同  
 様例ヘハ看板ノ寸法違反ノ如ク寸法ノ度量ヲ誤レル事實上ノ寸法違反アレハ其ノ原因ト事情原因ヲ問  
 ハス直チニ取締規則違反ニナルト同様所謂辯士報酬ノ供與ハ所謂辯士ニ對シ所謂報酬ト云フ金錢  
 供與ノ事實アレハ其ノ目的如何ヲ問ハス又其ノ事實ニヨツテ選舉ノ公正若ハ投票ノ自由カ妨害汚損  
 セラレタリヤ否ヤヲ問ハスコレヲ處罰セラルルモノノ如ク解釋スルモノカアルタカシカシ前者ノ立看  
 板寸法違反ノ如キハ寸法違反ノ事實認識ノ有無如何ニ拘ラス現實ノ寸法違反寸法ノ統制ニヨツテ確保  
 セラレル選舉ノ公正ト投票自由ノ選舉秩序カ妨害汚損セラレルト云フ事實カアルノテ之ヲ處罰スルノ  
 テアル從ツテ主觀的ナ行爲者ノ意思ヨリモ客觀的ナ現實ノ選舉秩序紊亂カ處罰セラルルモノトイフ

選舉罰則ニ關スル犯罪ノ本質的考察ヲ忘レテハナラナイト同時ニ所謂選舉法第百十二條ノ選舉罰則違  
 反ハ事實上選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損シタル現存ノ事實アリヤ否ヤト云フコトト更ニサウ云  
 フ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル認識アリタルヤ否ヤト云フ主觀的意思ヲ究明シ其ノ二ツナ  
 カラ存在セサル場合ニ於テハ如何ナル視角カラノ觀察ニ於テモ選舉罰則違反ノ犯罪ヲ構成セサルハ勿  
 論更ニ假リニ事實上選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル客觀的事態ヲ現象スルモ尙且ツ一般刑法  
 上ノ犯罪理論ニ於ケル認識ノ欲如犯意ノ阻却ト云フ問題カアリ得ルノテアルタカシカシ本件ハソレヲ  
 後者ノ問題ニ就テ論及スルマテモナク寧ロ本件ニ於ケル被告等ノ行爲ハ客觀的ニモ選舉ノ公正ト投票  
 ノ自由ヲ妨害汚損シタル事態ノ現象ナク主觀的ニモ選舉ノ公正ト投票ノ自由ヲ妨害汚損スル認識ヲ以  
 テ行ハレタモノテナイコトカ被告人太田淺次郎ノ上申書中「法律ノコトハ判ラナイト言ハレナカラモ  
 私ノ黙止シ得ナイコトハ道德的ニ見テ正シイコトヲ法律カ見テ罰スルモノトハ絶對ニ考ヘラレナイト  
 云フ人間の信念テ御座イマス寧ロ不都合ナコトテモ法律ハ罰シナイ場合ノアルコトサヘ聞イテキマス  
 ニモ拘ラス私ノ本件ニ付テハ只一言法律ト道德トハ違フト云フ言葉テ道德的ニ正シイト考ヘタ私ノ行  
 爲カ法律テハ正シクナイ行爲トシテ處罰セラレルコトハ絶對ニ私ノ首服シ得ナイ事柄テコサイマス萬  
 一道德的ニ正シイト思フ行爲テモ法律的ニハ正シクナイ行爲トシテ處罰セラレルヤウナコトカアルト  
 シタラコノ者ハ皆法律家ニナラナケレハナラナイト思ヒマスケレトモンレハ絶對ニ不可能ナコトテ法



律家ニナラナクモ人間ノ良心ニ問フテ見テ道德的ニ正シイト思フ行爲ハ法律のニモ正シイ行爲トシテ之ヲ罰シナイコトニ依ツテノミ國家ノ法律ニ私共ノ生活支配ヲ安心シテ一任スルコトカ出來ルモノト考ヘマス今人各々良心ニ問フテ耻ナイ行爲テモ法律ニ叛ク場合カアルト言ハレタラ何人ト云ヘトモ只法律ノ恐ロシサニ慄ヘ上ラセラレルノミタラウト思ヒマス尤モ人各々ノ良心ニ問フテ見テ正シイト思フタ事テモソレカ一般ニ通用シナイ自分限リノ特殊事情ニ基ク仇討其ノ他ノ良心的満足ニ過キナイモノナラハ勿論格別テスケレトモ良心ニ問フテ見テ正シイト同時ニ一般社會通念ニ於テモコレヲ正シイト見ラレル事カ法律的ニ於テノミ正シクナイト云ハレルコトハ決シテ司法裁判ノ嚴正公平ヲ發揮スル所以テナイト考ヘマス「萬一ニモ官憲當局ニ於テ所謂辯士報酬ニ就テ今日ヨリ願レハ禁止スヘキテアツタト云フ建前ノ下ニ禁止シナイテ置イタ不注意ヲ顧ミス選舉終了後ノ事態カラ見テ之ヲ處罰スルカ如キモノトシタラ私共選舉關係者ハ斷シテ其ノ不當ニ抗議セサルヲ得ナイト考ヘマスソノ點ニ付テハ今後禁止シテ處罰スルニモセヨ今度タケハ禁止セサリシカ故ニ處罰シナイト云フ態度ヲ取ラレルコトコソ官憲ノ態度テナケレハナラナイト思ヒマス然ルニ前ニハ禁止セス自由ニ任セテ置イテ後ニハ是ハ宜クナカツタト云フ建前テ處罰シヤウトスルコトハ絕對ニ司法裁判ノ嚴正公平ヲ内外ニ宣揚スル所以ニ非スト確信シマステ其ノ行爲カ正面カラ法律ニ觸レナクトモ良心的ニ許サレナイ行爲ナラハ格別良心的ニ疚シクナク一般社會通念カラ見テ妥當タトセラレルコトヲ強ヒテ法律的ノ解釋ニ於テコレ

テ罔スル様ナ所謂辯士報酬供與ノ有罪ヲ認定セラレルコトハ絕對ニ私ノ首服シナイ衷心ノ叫ヒヲ告白シテ嚴正公平ナル司法裁判ノ權威ヲ宣揚セラルル控訴裁判所各位ノ御明鑑ニ訴ヘマス」トアルニ徵シ客觀主觀兩様何レカラノ考察ニヨルモ原判決認定第一ノ犯罪事實ハ被告人等ノタメニ選舉罰則違反ノ犯罪ヲ構成スル謂レカナインテアル左レハ原判決ハ爰ノ點ニ於テモ罪トナラサル事實ニ有罪ヲ科刑シタル誤謬ノアルモノト思料スルト云ヒ「各被告人辯護人大原實昌禱上告趣意書第一點原判決ハ慣習上正當ノ不問ノ行爲ヲ有罪ニ處斷シタル違法アリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「第一被告人淺次郎同銜吉ノ兩名ハ共謀ノ上同年九月二十七日被告人淺次郎ノ肩書居宅等ニ於テ執レモ同被告人ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トナス目的ヲ以テ應援辯士タリシ妻谷猪之吉ニ對シ金百五十圓岩井勇藏ニ對シ金百圓藤井計吾 東光總次郎 田中寅藏ニ對シ各金二十圓森田留吉ニ對シ金十圓ヲ夫々順次ニ供與シ」ト判示シ其ノ有罪ヲ認定シタリ然シテ一件記録上明瞭ナル通り妻谷猪之吉ハ兵庫縣川邊郡立花村塚口六九三番地岩井勇藏ハ東京市下谷區西町四六番地藤井計吾ハ京都市右京區太秦垣内町三番地東光總次郎ハ京都府愛宕郡岩倉村田中寅藏ハ京都市伏見區深草大内町二十三番地ニシテ被告人太田淺次郎ノ立候補シタル下京區ノ有權者ハ森田留吉ノミニシテ執レモ演說ニヨル應援ヲナシタル者ニ對スル金錢授受所謂辯士報酬供與ナリトス然ルニ辯士報酬ハ昭和三年三月二十三日大審院第二部ノ御判決ニ於テ「演說ニヨル選舉運動ヲ委託シ兩名之ヲ承諾シタルコト明カナレハ即兩名ヲ選舉事務員ニ選任シ



タルモノニ外ナラスシテ孰レモ其ノ選任ニ基キ演説ニ選舉運動ヲナシ之カ報酬ヲ受ケタルモノト云フヘキヲ以テ被告等ノ行爲ハ犯罪ヲ構成スヘキモノニ非ストシテ判治ニ對シテ金三百圓秀曉ニ金百五十圓ヲ交付シタル事案ニ無罪ヲ言渡サレタリ蓋シ大審院第二部御係ニ於ケル右昭和三年三月二十三日言渡ノ判決ハ應援辯士ヲ選舉事務員ニ認定シテ無罪ヲ言渡サレタルモ選舉界一般ノ慣習ハ遠路應援シタル所謂應援辯士ニ對シテハ一般道徳上正シク法律上モ不問放任行爲タリシモノニシテ被告人太田淺次郎カ東京ヨリ應援シタル岩井勇藏ニ對シ兵庫ヨリ應援シタル妻谷ニ對シ又其ノ他ノ應援辯士ニ對シ社會通念ニ基キ一方的謝禮ヲ爲シタルニ過キス全ク慣習上不問放任行爲ヲ有罪ニ認定シタルハ重大ナル事實誤認アル判決ニシテ破毀スヘキモノト思料スト云ヒ各被告人辯護人佐藤利雄上告趣意書第三點原判決ハ「被告人太田淺次郎ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル京都府府會議員選舉ニ際シ京都市下京區ヨリ立候補シタル議員候補者北條銆吉ハ其ノ選舉事務長ナリシトコロ第一被告人淺次郎同銆吉ノ兩名ハ共謀ノ上同年九月二十七日被告人淺次郎ノ肩書居宅等ニ於テ孰レモ同被告人ノ爲演説ニヨル選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ應援辯士タリシ妻谷猪之吉ニ對シ金百圓藤井計吾東光總次郎田中寅藏ニ對シ各二十圓森田留吉ニ對シ金十圓ヲ夫々順次ニ供與シト認定シ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第三號ヲ適用處斷シタリ然レトモ選舉法ハ選舉ノ公正ヲ維持スル爲苟モ其ノ公正ヲ害スル者ニ對シテハ之ヲ處罰スヘキハ勿論ナリト雖選舉ノ公正ヲ害セサル

一般社會ノ儀禮ニ對シテ迄モ之ヲ禁スルモノニ非ス從テ選舉終了後而モ落選シタル候補者カ選舉當時ノ應援辯士ニ對シ其ノ勞ヲ感謝シ金品ヲ贈與シタリトスルモ選舉當時報酬ヲ與フルノ約束若ハ申込ナキ以上選舉ノ公正ハ之カ爲毫モ侵害セラレタルモノト認ムルニ由ナク這ハ一般社會ノ儀禮ニ過キスシテ選舉法ニ所謂報酬ノ供與ト云フヲ得サルモノトス本件ニ就キ之ヲ觀ルニ被告人淺次郎ハ判示選舉ニ於テ九月二十六日既ニ落選確定シ其ノ翌二十七日殘務整理トシテ判示ノ辯士等ニ判示金員ヲ交付シタリト云フニ止マリ判示選舉ノ終了前ニ於テ右各辯士ニ對シ報酬供與ノ約束ヲ爲シ又ハ之カ申込ヲ爲シタリト認ムヘキ何等ノ證據ナキ本件ニ於テハ被告人淺次郎銆吉ノ本件行爲ハ一般的ノ儀禮ヲ盡シタルニ過キサルモノニシテ毫モ選舉ノ公正ハ之カ爲害セラレタルモノニアラサルヲ以テ前示法條ノ罪ヲ構成スヘキモノニ非サルナリ從テ本件ノ場合被告淺次郎及銆吉ヲ同罪ニ問擬セントスルニハ同被告人等ハ其ノ選舉終了前判示ノ應援辯士ニ對シ報酬ヲ供與スヘキ旨ノ約束ヲ爲シタルカ又ハ之カ申込ヲ爲シタルコトヲ證據ニ基キテ事實ヲ認定セサルヘカラサルモノナリトス然ルニ原判決ハ何等此ノ事實ヲ明示スル所ナク單ニ被告人等ハ選舉終了後應援辯士ニ對シ金錢ヲ交付シタルノ一事ヲ捉ヘ直チニ前記法條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルカ又ハ事實理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

特定ノ候補者ノ爲推薦演説ヲ爲ス者ハ候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ有スルコト言ヲ俟タス而シテ推



【要旨第二】

薦演説ニ依ル運動モ亦一種ノ選舉運動タルモノナレハ府縣會議員ノ選舉ニ關シ候補者選舉事務長選舉委員カ共謀ノ上應援辯士タリシ者五名ニ對シ各其ノ應援演説ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ選舉期日後ニ於テ夫々金員ヲ供與シタル以上府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第三號刑法第五十五條第六十條ノ犯罪ヲ構成スヘキヤ言フ俟タス原判決カ右各法條ニ問擬シタルハ正當ナリ論旨ハ獨自ノ見解ニ立脚シテ原判決ノ擬律錯誤又ハ理由不備ヲ主張スルニ過キス原判決ハ所論ノ違法アルモノニ非サルヲ以テ論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○印紙稅法違反被告事件

(昭和十一年(れ)第五四二號  
同年五月二十五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 茂呂益太郎

【第一審】 橫濱區裁判所 【第二審】 橫濱地方裁判所

○判示事項

送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ト印紙稅法ニ所謂受取書

○判決要旨

荷物受領書ニ單價及個數ヲ記入シタルニ過キスシテ直接金錢ノミヲ目的トシタル受取書ニアラストスルモ苟モ營業ニ關スル受取書ニシテ金高十圓以上ノ記載アルトキハ印紙稅ヲ納付スルヲ要ス

【參照】 印紙稅法第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一册一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

(中略)

二十九 受取書 三錢

同法第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

(中略)

十四 記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書  
同法第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ税印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ證書、帳簿一箇毎ニ脱稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脱稅高二十倍ノ金額三圓ニ達セサルトキハ三圓ノ科料ニ處ス

送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ト印紙稅法ニ所謂受取書



## ○ 事 實

問屋ヨリ小賣商へノ荷物引渡ノ際荷受人ヨリ調印ヲ受ケ持歸ル送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ニ單價及個數ヲ記入シタル書類ニ付第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ受取書十三通ニ付各一通毎ニ各料料三圓ニ處ス被告人ニ於テ右料料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日金一圓五十錢ノ割合ニ依リ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ横濱市中區大岡町千三百四番地ニ於テ酒類ノ販賣ヲ業トシテ營ムモノナルトコロ昭和十年一月二十三日ヨリ同年六月一日ニ至ル間十三回ニ互リ右店舗ニ於テ雇人鈴木清次ヲシテ酒卸商合資會社北浦商店ニ對スル孰レモ記載金高十圓以上ノ營業ニ關スル受取書十三通(昭和十一年押第一〇號ノ一乃至一三)ヲ作成セシメ孰レモ之ニ相當印紙ヲ貼用セスシテ右北浦商店ニ對シ各交付セシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ印紙稅法第四條第十一條第十四條ニ該當スルヲ以テ被告人ヲ受取書十三通ニ付各一通毎ニ各料料三圓ニ處シ被告人ニ於テ右料料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第二項第四項ニ則リ一日金一圓五十錢ノ割合ニ依リ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

## ○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

## ○ 理 由

被告人上告趣意書ハ送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ハ問屋ヨリ小賣商へノ荷物引渡シノ際荷受人ヨリ

調印ヲ受ケ持チ返ル書類ニシテ之レニ對シ印紙貼用如何ニ就キ意見ノ相違ヲ來シ係爭問題トナリタリ右受取書ハ前記ノ如ク買人ヨリ賣人ニ對シ差出シタル荷物受取書ニシテ金錢受授ノ領收書ニアラス單ニ荷物ノ收受ヲ證明スルニ止マリ金錢受授ノ證書ニ非ラサル事ハ明白ナリ之レニ單價等ノ記入アリトスルモ夫ハ問屋側ノ原簿整理照合等ノ必要記入ト見ルヘク其ノ單價記入ノ故ヲ以テ金錢受授ノ證書ト變質スルモノト認ムル能ハス荷物受取書ハ送荷計算書ト同一形式ヲ普通トス之ハ手合商品カ單ナル場合別々ニ記入スルヲ煩ハシトセサルモ品目ノ多數煩雜ナルニ於テ複寫式ニ依ルハ當然ナリ然シテ記入セラルル品目數量單價代金即チ送荷計算書ト同一ノモノトナル荷受人ハ送荷傳票ヲ計算書トシテ帳簿記入ニ使用シ問屋ハ荷受書ニヨリ同様帳簿記入對照ニ使用ス現時ノ帳簿様式ニ於テ荷受書カ重要ナル事ハ言フ俟タサルノ處若シ印紙稅法ニ煩ワセラレテ荷受書ニ單價代金ヲ記載シ得ストセハ別箇記入ノ煩雜荷受書トシテノ價値ヲ失スル等實ニ商人ノ手ヲ束縛スルモノトナルヘシ印紙稅法(印ノ五ノ一四號)末項ニ營業ニ關スル受取書ト雖要スルニ常識ヲ以テ判斷スルモノテアリ法ノ適用ハ時運ノ進展ニ從ヒ之レニ順應スルモノト信ス現今中小業者ノ境遇ヲ見ルニ一方大百貨店ノ進出地方產業組合カ政府ノ庇護ニヨル目覺シキ發展ニヨリ中小業者ハ日ニ月ニ其ノ領域ヲ狭メラレ其ノ收益ハ其ノ生活ヲ滿スニ足ラス凋落衰微ノ一途ヲ辿リツツアリ之カ保護ノ必要ヲ認メラルル時機ニ際シテハ一層從來ノ商習慣ノ慣例ヲ擴大シ充分ナル考慮ヲ以テ賢明ナル司官ノ裁定ヲ希フ爲茲ニ大審院ニ上告シ賢明ナル再



審ヲ俟タントス幸ニ送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ハ印紙貼用ヲ要セストノ新判例ヲ得ハ全國幾百萬ノ當業者ハ手足ノ束縛ハ解除セラレ明朗活潑ナル取引ヲナシ得ヘク實ニ二月二十九日香椎戒嚴司令官ノ爲サレタル兵ニ告クノ諭告ト相竝ンテ歴史の感激ヲ社會ニ與フヘシト信スルモノナリ御參考迄ニ荷物受取書ニ附隨セル問屋ヨリノ送荷傳票竝ニ荷受人ニ於テ問屋ニ對シ代金支拂方法ニ關スル爲替手形等同封申上候ヘハ何卒御照合御賢察賜度候ト云フニアレトモ

【要旨】

印紙稅法第四條第二十九條第五條第十四ニ依レハ荷モ營業ニ關スル受取書ニシテ金十圓以上ノ記載アルトキハ印紙稅ヲ納付スルヲ要シ假令荷物受領書ニシテ直接金錢ノミヲ目的トシタル受取書ニアラスシテ之ニ單價及個數ヲ記入シタルニ過キササルモノナリトスルモ右印紙稅法ノ條件ヲ具備スル以上ハ之ヲ受取書ト云フニ妨ナキヲ以テ原判決カ本件ノ印紙不貼用ヲ目シテ印紙稅法違反トシテ處斷シタルハ相當ニシテ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○不法監禁被告事件

(昭和十一年(九)第二〇一號  
同年五月三十日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】

被告人

三重野要平

辯護人

津川彌三郎  
鶴澤總三郎  
赤井幸夫

【第一審】

佐世保區裁判所

【第二審】

長崎地方裁判所

○判示事項

脅迫ニ因ル不法監禁罪ノ成立

○判決要旨

他人ヲ脅迫シテ一定ノ場所ヨリ去ルコト能ハサラシメ直接監視ノ下ニ其ノ身體ヲ抑留シタル場合ニ於テハ不法監禁罪ヲ構成スルモノニシテ別ニ脅迫罪ヲ構成セサルモノトス

【參照】 刑法第二百二十條

不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ

懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

同法第二百二十二條

生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人

脅迫ニ因ル不法監禁罪ノ成立



ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル  
者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決  
勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ三十數年前ヨリ佐世保市ノ興業街(通稱夜店通り)ニ居宅ヲ構ヘテ興業ニ従事シ香具師爲職ノ出入多ク所謂  
親分トシテ知ラレ居ルモノナルカ昭和九年十月頃右夜店通り所在ノ映畫常設館千日劇場ニ配達セラルヘキ「フィルム  
ム」ノ謄可證及筋書臺本カ同業者ニシテ而モ競業ノ間柄ニ在ル第三中央館ニ誤配セラレタルコロヨリ兩者ノ間ニ紛  
議ヲ生シタルモ第三中央館ノ事務員今村一カ千日劇場經營主ニ謝罪シタル爲圓滿解決シタルコトヲ知悉セルニ拘ラス  
豫テ千日劇場ニ好意ヲ有シ第三中央館ニ不快ノ念ヲ有シ居タルヲ以テ其ノ當日午後十時過頃故ラニ今村ヲ自宅ニ呼寄  
セ表十疊ノ間ニ於テオ前ハ主人ト共謀ノ上千日劇場ノ營業ヲ妨害スル意思ニテ「フィルム」ノ謄可證ヲ受取居タルナ  
ラン等種々難詰シ今村カ謝罪スルヲモ顧ミス同人ニ對シ「今夜ハ誰カ何ト云ツテ來テモ歸サヌ」ト申向ケ強イテ歸宅  
セントセハ暴行ニモ及ヒ兼ネサル氣勢ヲ示シ以テ之ヲ恐レタル同人ヲシテ翌日午前二時頃迄歸宅スルヲ得サラシメ同  
所ニ抑留シ以テ不法ニ監禁シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百二十條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役  
三月ニ處ス可ク但シ被告人ニ對シテハ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘ  
キモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人要平辯護人津川彌三郎上告趣意書原判決理由ニ「同人ニ對シ同夜ハ誰カ何ト云ツテ來テモ歸  
サヌト申向ケ強ヒテ歸宅セントセハ暴行ニモ及ヒ兼ネサル氣勢ヲ示シ以テ之ヲ恐レタル同人ヲシテ翌  
日午前二時頃迄歸宅スルヲ得サラシメテ同所ニ抑留シ以テ不法ニ監禁シ」トアリ被告カ積極的ニ被害  
者ノ自由ヲ抑壓シタルニ非ス單ニ「申向ケ」「氣勢ヲ示シ」タル結果被害者カ自ら恐怖シテ自由ヲ失ヒ  
タルモノノ如ク判示セリ然ルニ法律ニ所謂監禁ナルモノハ何等カ物理的ニ他人ノ自由ヲ束縛抑壓スル  
ヲ要シ單ニ「言語」「氣勢」等ヲ用キ他人ノ精神ヲ壓迫シテ其ノ自由ヲ奪フカ如キ場合ヲ包含セサルハ  
明白ナリト信ス從テ本件ヲ脅迫罪トシテ罰スルハ別格ナルモ監禁罪トシテ罰シタルハ擬律ノ錯誤アリ  
ト信スト謂フニ在リ

【要旨】  
按スルニ原判決カ證據ニ依リ認定セル事實ノ概要ハ被告人三重野要平ニ於テ第三中央館ノ事務員今村  
一ヲ自宅ニ呼寄セ表十疊間ニ於テ千日劇場ニ配達セラルヘカリシフィルムノ謄可證等カ第三中央館ニ  
誤配セラレタル件ニ關シ同人ヲ種々難詰シタル上「今夜ハ誰カ何ト云ツテ來テモ歸ヘサヌ」ト申向  
ケ強ヒテ歸宅セムトセハ暴行ニモ及ヒ兼ネマシキ氣勢ヲ示シ以テ之ヲ恐レタル同人ヲシテ歸宅スルヲ

脅迫ニ因ル不法監禁罪ノ成立



得サラシメテ同所ニ抑留シタリト謂フニ在ルトコロ不法監禁罪ハ必スシモ有形的障碍ヲ以テ手段トスルコトヲ要セス敍上ノ如ク他人ヲ脅迫シテ一定ノ場所ヨリ去ルト能ハサラシメ以テ其ノ身體ヲ抑留スル場合ニ於テモ亦成立スルモノナルヲ以テ原審カ敍上ノ事實ヲ問擬スルニ不法監禁罪ヲ以テシタルハ洵ニ正當ニシテ斯カル場合ニ於ケル脅迫ハ不法監禁罪自體ノ手段トシテ同罪中ニ包攝セララルモノナレハ原判決ニハ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法存スルコトナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○都市計畫法違反被告事件(昭和十一年(れ)第六五九號 棄却)

(昭和十一年(れ)第六五九號 同年六月一日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 岡本武雄 辯護人 柳川小太郎

【第一審】 米子區裁判所 【第二審】 鳥取地方裁判所

○判示事項

都市計畫法第十二條耕地整理法第九十條ノ罪ノ成立

○判決要旨

土地區劃整理組合ノ成立シタル以上組合長選任ニ關スル地方長官ノ告示前ト雖組合ニ於テ設置シタル標識ヲ除却スル行爲ハ都市計畫法第十二條耕地整理法第九十條ノ犯罪ヲ構成ス

【參照】 都市計畫法第十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲メ土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得  
前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

耕地整理法第九十條 耕地整理施行ニ關シ設ケタル標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第五十一條 耕地整理組合ハ前條地方長官ノ認可ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨ヲ告示スヘシ  
組合ハ前項ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

同法第七十三條第一項 組合ニ組合長一人及組合副長一人又ハ數人ヲ置ク

都市計畫法第十二條耕地整理法第九十條ノ罪ノ成立



七二〇 (一四)  
組合長、組合副長又ハ臨時代理者ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ  
對抗スルコトヲ得ス

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト  
能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス  
ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書地境町ニ土地區劃整理ノ施行セラルルヤ之ニ反抗シ自己ノ借地ナル同町日の出町五番地カ其ノ施行區域  
内ニ編入セラレ居ルコトヲ知り乍ラ強ヒテ右地上ニ家屋ヲ建築セントシ昭和十年十月六日同町復興土地區劃整理組合  
ノ許諾ヲ得スシテ同組合カ土地區劃整理施行ノ必要上前記日の出町五番地上ニ打込ミ居タル換地豫定ノ標識杭ノ内一  
本ヲ拔捨テ尙ホ右杭ト他ノ杭トノ間ニ張渡サレタル横板ヲ取外シ以テ右區劃整理施行ニ關スル標識杭ヲ除去シタルモ  
ノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ都市計畫法第十二條耕地整理法第九十條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額ノ範圍内  
ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタ  
ル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘ  
キモノトス

### ○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

### ○理由

辯護人柳川小太郎上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル  
事由アルモノト信ス原判決ハ被告ハ整理組合長松下道藏ノ指揮ニ依ル組合ノ技術員ト稱スル小山茂樹  
吉川弘泰カ施シタル境町復興土地區劃整理施行ニ關スル標識ヲ毀壞シタルモノトシテ處罰セラレタリ  
然レトモ都市計畫法第十二條ニハ都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進  
スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除  
クノ外耕地整理法ヲ準用ストシ而シテ耕地整理法第七十三條第三項ハ組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ  
解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ第五項地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ指定シタル時ハ  
其ノ旨ヲ告示スヘシ第六項組合長組合副長又ハ臨時代理者ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄ハ之ヲ  
以テ他人ニ對抗スルコトヲ得スト規定シタリ而シテ組合長松下道藏副組合長渡邊英吉カ昭和十年十月  
十五日鳥取縣告示第六一五號ヲ以テ告示セラレタルコトハ本件記録境警察署警部補森夫壽ヨリ檢事依  
岡勇吉宛ノ報告書ニ依リテ明カナリ然ラハ右告示アル迄即チ昭和十年十月十五日以前ニ於ケル松下道  
藏等ノ行爲ハ他人ニ對シテ對抗スルコト得サルモノナル正ニ上記ノ如シ而モ本件ハ昭和十年十月六日  
以前ニ爲シタル松下道藏等ノ行爲カ合法ニシテ他人之ヲ犯スヘカラサルモノト誤認シ以テ昭和十年十  
月六日所謂標識抗ナルモノニ上告人カ觸レタリトノ微々タル事實ヲ捉ヘテ公訴ヲ提起シ遂ニ有罪ノ判



決ヲ下サレタルハ重大ナル事實ノ誤認ナルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信スト云  
 ヒ」第二點耕地整理法第七條ハ主務大臣又ハ地方長官耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要ナルトキハ  
 官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシム  
 ルコトヲ得但之ニ依リテ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ  
 之ヲ通知ス可シ前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得第八條前  
 條ノ規定ハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セントスル者又ハ整理施行者カ整理施行  
 ノ爲必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス前項ノ場合ニ於テハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシトアリ然ル  
 ニ本件整理施行者ハ整理施行ノ爲トスルモ上告人占有中ナル境町日の出町五番地ニ立入ルニ昭和十年  
 十月六日薄幕竊ニ侵入シ木片ヲ地上ニ打込ミタルモノニシテ事前ニ於テモ事後ニ於テモ何等ノ通知ヲ  
 爲シタルコトナキハ一件記録上明白ナリ然ラハ整理施行者ト稱スル者ノ所爲違法ナルニ原判決ハ反テ  
 之ヲ是認シ上告人ヲ處罰セラレタルハ法令違反ノ判決ナリト信ス要スルニ毫末ノ實害ナキニ拘ラス上  
 告人カ松下道藏等ノ横暴ヲ矯正セントスル有志團體ノ頭目タルヨリ整理施行ニ何等ノ關係ナキ木片ヲ  
 地上ニ打チ込ミ強ヒテ事ヲ構ヘタルモノニ外ナラス候ト云フニ在レトモ  
 原判示事實及舉示ノ證據ニ依レハ原判決ハ被告人カ土地區畫整理組合ニ於テ昭和十年十月五日設置シ  
 タル標識ナルコトヲ知りナカラ翌六日之ヲ除却シタル事實ヲ認定シタル趣旨ナリト解スヘキヲ以テ右

## 【要旨】

被告人ノ行爲カ都市計畫法第十二條耕地整理法第九十條ノ犯罪ヲ構成スヘキヤ言フ俟タス耕地整理法  
 第七十三條第六項ノ規定ハ組合長又ハ代理者等カ諸般ノ取引ヲ爲シタル場合ニ關スル民事的對抗條件  
 ノ規定タルニ過キサレハ之ヲ刑事事件殊ニ昭和十年九月中既ニ組合設立ノ認可及其ノ告示アリテ組合  
 ハ完全ニ成立シ且適法ニ組合長等役員ノ選任アリタルコト記録上明白ナル本件ニ援用シ偶組合長就任  
 ノ告示カ犯罪ノ日時後ナルカ爲犯罪成立ヲ阻却ストナス所論ハ不當ニシテ之カ爲ニ原判決ニ重大ナル  
 誤認アルモノトナシ難ク論旨ハ孰レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事池田克關與



○治安維持法違反強盜強盜豫備住居侵入私文書偽造行使竊盜被告事件

(昭和十一年五月二十八日第一第二第三第四刑事聯合部判決)

【上告人】 被告人 久喜勝一 辯護人

(鈴木重光  
赤井幸夫  
島野武)

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

竊盜罪又ハ強盜罪ノ謀議ト共同正犯

○判決要旨

竊盜罪又ハ強盜罪ニ付テ其ノ謀議ニ與リタル者ハ實行行為ヲ分擔セサルモ共同正犯タル責ヲ負フヘキモノトス

【参照】 刑法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下竊盜罪又ハ強盜罪ノ謀議ト共同正犯



ノ懲役ニ處ス

七一六 (110)

同法第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

同法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十二年ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ埼玉縣立川越工業學校卒業後早稻田第一高等學院文科ヲ經テ昭和五年四月早稻田大學文學部ニ入學シ同學部第三學年ヲ中途退學シタルモノナルカ右學院在學ノ頃ヨリ同學院辯論部内研究會早稻田自治學生會ニ加ハリ社會科學ノ研究ニ從ヒ瀧波博其ノ他ト親シムニ及ヒ遂ニ共產主義ニ共鳴シ昭和五年十二月頃ヨリ右瀧波ニ對シ左翼運動資金トシテ同學内同志ヨリ蒐集シタルモノ及自己ノ分ヲ合セ毎月數十圓宛提供シ居タルカ其ノ間日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命手段ニヨリ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアートノ獨裁ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ計ランコトヲ決意シ

第一 昭和六年四月ヨリ同年十月迄右瀧波博ノ依頼ニヨリ自ラ出金シ及友人ヲシテ出金セシメ合計約百八十圓ヲ同人ヲ通シ同黨ニ其ノ活動資金トシテ提供シ

第二 同年十月中前記瀧波博ヨリ宮石三郎ニ紹介セラレ右早稻田大學附近ニ於テ同人ヨリ同黨ニ入黨スヘキ旨ノ勸誘ヲ受ケ之ヲ承諾シ同月末頃同人ヨリ入黨許可ノ決定ヲ通達サレテ同黨ニ加入シ

第三 同年十一月頃ヨリ昭和七年四月頃迄同黨中央委員會技術部責任者長谷川茂ノ指導下ニ同部住宅部員トナリ同黨員ノ住宅集會場アドレスノ設定等ニ努メ

第四 同年五月以降同年六月中旬迄ノ間右長谷川指導ノ下ニ同技術部印刷部責任者トナリ三ツ木金藏 百瀬某 西村な 外二名ヲ其ノ部員トシ右百瀬ト共ニ當時今泉善一カ責任者タリシ同黨第一秘密印刷所建設ニ援助ヲ與ヘ第二、第三秘密印刷所建設計畫ニ關與シ印刷技術者養成ノ計畫ヲ建テ尙當時偶々入手シタル多數ノ古金銀ヲ右秘密印刷所建設ノ資ニ充テシメンカ爲ニ右今泉ニ交付シ

第五 同年六月中旬ヨリ同年七月中旬ニ至ル迄前記長谷川指導下ニ同技術部内特別資金局責任者トナリ右三ツ木 百瀬 竝西村等ヲ部員トシ同黨ノ爲其ノ活動資金殊ニ大口資金ノ獲得ニ努メ尙右長谷川ノ示唆ニヨリ富豪ノ子弟等ヲシテ父兄ノ資財ヲ持逃ケセシムル等其ノ他夫レ自體犯罪ニ互ル手段ヲモ敢テスル方針竝同技術部各部内ニ大口資金係ヲ置キ其ノ係ヨリ出金資格者ノ紹介ヲ受ケ各個別ニ適當ノ方策ヲ用キテ之ヲ指導スル方針ヲ樹テテ活動シ其ノ間

(一) 昭和七年六月下旬頃舟橋事船橋四郎ト共謀シ同人ヲ指導シテ其ノ實父ナル東京市淀橋區大久保町舟橋事船橋喜一方ニ於テ同人所有ニ係ル日本毛織會社外四社ノ株券七十枚(六百七十株)竝同人ノ實印一箇ヲ竊取セシメ其ノ頃省線大久保驛附近某家ニ於テ該株券ヲ石井正義ニ三ツ木金藏ニ交付シ之ヲ處分シ黨資金ヲ調達スヘキ旨ヲ命シ尙其ノ頃右兩名ト共謀シ右株券ヲ賣却スル爲ニ必要ナル右船橋喜一名義ノ白紙委任狀ヲ偽造センコトヲ企テ三ツ木金藏ニ於テ右委任狀用紙ヲ用意シタル上前同所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ石井正義ヲシテ白紙委任狀用紙十數通ニ順次船橋喜一名義ヲ冒署シ其ノ名下ニ前記船橋喜一ノ印章ヲ擅ニ押捺セシメ以テ同人名義ノ白紙委任狀十數

竊盜罪又ハ強盜罪ノ謀議ト共同正犯

七一七 (111)



通ヲ順次偽造シ即日三ツ木金藏並石井正義ヲシテ同市日本橋區南茅場町株式現物店福一事黒野福太郎方ニ到リ同  
家店員永田彌七ト前記株券ヲ代金合計金四萬七千五百圓ニ賣却スル旨契約シ同人ニ該株券ヲ交付シ且之ニ添ヘ右  
偽造委任狀ヲ一括シテ同人ニ交付行使セシメ其ノ頃同人ヨリ右代金内名義ノ下ニ右兩名ヲ經テ金三萬圓ヲ受取  
リ前記長谷川ヲ經テ同黨ニ其ノ活動資金トシテ供與シ

(二) 同年七月上旬富豪ノ子弟ニ接近シ黨活動資金ヲ獲得スル目的ヲ以テ三ツ木金藏ノ内縁ノ妻對島久子ヲ東京市  
日本橋區蠅殼町所在忠勇ビルディング内巴里社交俱樂部ニダンサートシテ入所セシメタルカ其ノ頃右久子カ同所  
ニ出入スル武村誠一郎ト情交ヲ結フニ至リタル旨ヲ聞知スルヤ之ヲ利用シ同人ヨリ金員ヲ出捐セシメ黨活動資金  
ニ充當センコトヲ企テ同年八月上旬同市京橋區銀座六丁目三番地銀線館ビルディング三階東商美社名義ノ黨事務  
所ニ於テ今泉善一ニ對シ其ノ旨ヲ傳ヘ右久子ヲ指導シ相手方ヨリ金員ヲ交付セシメラレ度キ旨ヲ依頼シ其ノ頃前  
記西村なかヲシテ右久子ヲ今泉善一ニ紹介セシメ

第六 同黨内ニ於テハ昭和六年九月以降相續テ勃發セル滿洲事變並上海事變ヲ契機トシテ國際並國內ニ醸サレタル諸  
情勢カ必然第二次世界戰爭及國內革命ニ至ルモノナリトノ盲信彌漫シ之ヲ世界サヴェエト革命ノ勝利の遂行ニ導ク  
ヲ同黨ノ重大任務ナリト爲シ此ノ任務ニ適應スル諸闘争展開ノ爲膨大ナル費用ヲ必要トシ黨費黨出版物購料同情  
者ノ寄附等從來ノ同黨ノ收入ニ依リテハ容易ニ此ノ必要ニ應スルコト能ハサリシトコロヨリ一層收入ヲ増加スルニ  
焦燥シ殊ニ大口資金ノ獲得ニ狂奔スル状態ナリシ際偶々今泉善一カ昭和七年五月頃前記技術部責任者長谷川ヨリ革  
命前ノロシヤ共産黨内ニ各種非常手段ニ依リ其ノ活動資金ヲ獲得スル目的ヲ以テ「レーニン」親ヲ組織統率シ居リタ  
ル戰闘的技術團ナル秘密組織存在シタル理由ヲ告ケラレ且之ニ模シテ同様ノ目的名稱ヲ有スル組織ヲ確立スヘキ旨  
懲慙セラレ遂ニ右懲慙ニ賛同シ爾來右長谷川指導ノ下ニ前記石井正義ヲ語ラヒ外面同黨ト無關係ヲ裝ヒ極メテ秘密

ニ強盜恐喝等破廉恥罪ニモ互ル非常手段ニ依リ同黨ノ爲其ノ活動資金ヲ獲得ヲ計ルヲ方針トスル戰闘的技術團組織  
ニ著手シ右長谷川並石井ト協議ヲ重ネ更ニ右石井ノ友人ナル伊藤淺雄並中村經一ヲ誘ヒテ此ノ組織ニ加ヘ一應戰闘  
的技術團ノ形態ヲ整ヘタルモ其ノ活動ノ進展抄々シカラス一方被告人モ亦同年六月以來前記ノ如ク持迷ケ其ノ他夫  
レ自體犯罪ニ互ル手段ヲモ敢テスル方針ヲ執リテ同黨ノ爲大口資金ヲ蒐集シ居リタル中同黨中央委員松村事某ノ指  
導ヲ受クルニ及ヒ同人ヨリ客觀的情勢カ戰爭ト革命トノ時期ニ入ルタルコト此ノ時期ニ於テ同黨活動資金ヲ得ル爲  
表面同黨ト無關係ヲ裝ヒ強盜恐喝其ノ他ノ非常手段ヲ辭セサル黨内ニ於ケル秘密組織ヲ必要トスルコト右ノ如キ組  
織ノ活動ニ依リ第二次的ニハ一層社會不安ヲ醸成シ切迫セル情勢ヲ益々激化シ得ルコト並右今泉カ戰闘的技術團ト  
稱スル一組織ヲ有スルコトヲ説明シ且同人ト共同シテ活動センコトヲ勸誘セラレ之ニ賛同シ茲ニ被告人ハ右松村事  
某並今泉ト數回會談ノ結果前記松村事某ノ意見方針及被告人並右今泉ノ從來執リ來レル意見方針相合シ同年七月下  
旬前記技術部解消後被告人ハ前記松村事某指導下ニ右今泉ト相謀リ右意見方針ニ適合スル活動ヲ爲ス爲ノ一形態ト  
シテ被告人ノ下部組織ノ一部ト前記戰闘的技術團トヲ合セタル特別資金部ヲ結成シ同人ト協力シテ大口資金獲得ニ  
努メ居リタルモ間モ無ク右松村事某並右今泉ト相謀リ被告人ヲ責任者トシ知能的犯罪ヲモ其ノ一手段トシテ同黨ノ  
爲大口資金ヲ獲得スルコトヲ任務トスル組織並右今泉ヲ責任者トシ表面同黨ト無關係ヲ裝ヒ同黨ノ爲強盜恐喝其ノ  
他非常手段ヲモ辭セスシテ大口資金ヲ獲得スルコトヲ任務トスル黨内秘密組織ヲ確立シ兩組織相助ケテ活潑ナル活  
動ヲ行ヒ膨大ナル同黨ノ資金ノ需要ニ應スルコトニ決定シタル上同年八月十六日前記銀線館ビルディング三階東商  
美社名義ナル黨事務所ニ於テ前記松村事某今泉並被告人ハ當時ノ同黨中央委員會家屋資金局ノ局員タル杉之原輝一  
等ノ參加ヲ得テ協議ノ上同局並前記特別資金部ヲ解消シ新ニ廣汎ナル同委員會家屋資金局ヲ組織シ之ヲ右松村事某  
指導下ニ置キ同局内ニ資金部家屋部其ノ他ノ各部ヲ置キ資金部ヲ更ニ資金部經營部並事業部ニ分チ殊ニ經營部ハ知

竊盜罪又ハ強盜罪ノ謀議ト共同正犯



能の犯罪ヲモ其ノ手段トシテ同黨ノ爲大口資金ヲ獲得スルコトヲ其ノ任務タラシメ事業部ハ前記特別秘密組織ト同一任務ヲ有セシメ被告人ヲ同局内資金部及同部内資金部並經營部ノ各責任者今泉ヲ右家屋部並右事業部ノ各責任者トスルコト其ノ他各部内間ノ事務分配及人員ノ配置等ヲ決定シ爾後毎週二回右松村事某右今泉其ノ他ト前記東商美社名義ノ事務所又ハ同市日本橋區江戸橋二丁目八番地松慶ビルディング内效果建築事務所名義ノ家屋資金局事務所ニ於テ開カレタル同局會議ニ列席シ前記松村事某等ト同局諸般ノ活動方針等ニ就キ協議シ次テ同年九月二十七日前記家屋資金局事務所ニ於ケル同局會議ニ於テ前記松村事某今泉其ノ他ト同局一部組織ノ編成替並ニ之ニ伴フ人員配置並異同ヲ協議シ其ノ結果被告人ハ同局資金部責任者タル地位ヲ右今泉ニ同部經營部責任者ノ地位ヲ百瀬某ニ夫々譲リ同局地方部責任者ニ就任シ

(一) 同局資金部及同部内經營部責任者トシテハ經營部ヲ拐帶部銀行會社部俱樂部結婚部資料調查部ノ四部ニ分チ拐帶部ハ富豪ノ子弟又ハ銀行會社ノ使用人ニ黨ノ爲大口ノ資金ヲ拐帶セシムルコトヲ目的トシ前記百瀬ヲ其ノ責任者トシ銀行會社部ハ黨資金ヲ地方小銀行ニ預金シ急激ニ之ヲ取立テテ取付方等ヲ惹起セシメ銀行重役ヲ窮地ニ陥レテ金員ヲ交付セシメ或ハ富豪ノ子弟ヲシテ小切手等ヲ亂發セシメ其ノ整理ニ名ヲ藉リ黨資金ヲ獲得スルコトヲ目的トシ美作太郎ヲ其ノ責任者トシ俱樂部結婚部ハ社交俱樂部ノ經營並黨關係ノ富豪ノ子弟ノ結婚ヲ仲介シ婚資ヲ黨ニ沒收シ黨資金ニ充ツルコトヲ目的トシ北川事某ヲ其ノ責任者トシ資料調查部ハ以上三部ノ活動ヲ援助スル爲資料ノ蒐集調査ヲ目的トシ三ツ木金藏ヲ其ノ責任者トシ同年八月下旬頃ヨリ毎週一回同市京橋區木挽町六丁目二番地香蘭ビルディング内ルノン圖案社名義ノ經營部事務所ニ於テ經營部會ヲ開キ同部内各部責任者並今泉等ト會合シテ同部當面種々ノ問題ニ就キ協議決定シ同部員等ヲ指導シ右今泉ノ主催スル事業部會ニモ出席シテ同部トノ聯絡ヲ圖リ同局資金部内各部ノ目的達成ニ努メ

(二) 地方部責任者トシテハ其ノ部員今泉善一 渡邊惣助 美作太郎 柴田和夫ト共ニ屢々地方部會ヲ開キ巡回オラグノ派遣京阪神ヲ中心トスル地方組織ノ強化其ノ他ノ事項ヲ協議決定シ其ノ頃右任務ヲ帶ヒテ地方ニ出張シ

(三) 調査情報部員トシテハ同年十月初頃前記松慶ビルディング内ノ事務所ニ於テ右渡邊今泉ト共ニ調査情報部會ヲ開キ其ノ活動方針ヲ協議決定シ

(四) 同年十月十日今泉善一カ逮捕サレタル以後同月三十一日被告人カ檢舉セララル迄ハ家屋資金局ノ組織ヲ再建強化スル爲前後三回ニ互リ同市淺草區淺草橋附近ノ某アパート内外二ヶ所ニ於テ開カレタル同局指導部會ニ出席シ前記松村事某 渡邊 百瀬及根岸長三 奥田民雄 北條四男等ト共ニ同局組織ノ一部變更及之ニ伴フ人事異動等ニ就キ協議シ以テ黨資金獲得等ノ爲廣汎ナル活動ヲ爲シ

(五) 以上特別資金部員及同年八月十六日以降ノ前記家屋資金局資金部並地方部ノ各責任者タリシ間特ニ

(イ) 同年七月中旬頃前記技術部内住宅部員某ヨリ静岡方面ニ大口資金提供資格者アル旨ノ報告ヲ受ケ同人ヲ田代事百瀬幸夫ニ紹介シテ右百瀬ヲシテ專ラ右資金獲得ニ當ラシメタル結果同人ハ右資格者タル青島トよヲ指導シ同年八月十三日其ノ實父ナル静岡市吳服町三丁目十七番地青島藤次郎名義ノ銀行預金四千七百圓ヲ静岡市静岡銀行ヨリ拂戻サシメ被告人ハ其ノ頃今泉善一ニ依頼シテ東海道線國府津驛迄黨自動車ヲ差廻シ右トよ等ヲ逃走セシメ前記銀線館ビルディング内ノ事務所ニ於テ右百瀬ヨリ右金員ノ内四千圓ヲ受取り同黨ニ供與シ

(ロ) 同年八月中旬頃前記銀線館ビルディング内ノ事務所ニ於テ今泉善一ニ對シ東京市小石川區白山上不動貯金銀行白山支店ニ勤務スル木村信次カ作成シタル同銀行圖面並調査書類ヲ交付シ銀行ノ襲撃ヲ決行スヘキ事ヲ密憑シ右今泉ハ之ニ應シテ其ノ頃ヨリ大塚有章 中村經一等ト屢々同市神田區駿河臺附近ノ某喫茶店其ノ他ニ於テ右襲撃方法ニ就キ協議シ同月三十一日夜半ヲ期シ大塚有章指揮ノ下ニ中村經一ヲシテカ實行ヲ擔當セシム

竊盜罪又ハ強盜罪ノ謀議ト共同正犯



ルコトニ決定シ其ノ頃前記銀線館ビルディング内ノ事務所ニ於テ開カレタル家屋資金局會議ニ右計畫ヲ報告シ前記松村事某並被告人其ノ他ノ承認ヲ得大塚有章中村經一ハ更ニ同月三十日迄ノ間同市内省線巢鴨驛附近某家其ノ他ニ於テ數回會合協議シタル結果中村經一カ豫テ手馴ツケ置キタル無賴漢數名ヲシテ各自拳銃ヲ携ヘテ前記銀行白山支店ニ到リ同銀行員ヲ脅迫シテ行金ヲ強取スヘキコト並之カ實行方法部署等其ノ他ニ就キ協議シ其ノ頃右大塚及中村ハ同市芝區芝公園内鹽澤巖方ニ於テ右犯行ニ使用スヘキ拳銃數挺ヲ準備シ尙中村ハ其ノ他ノ準備ヲ爲シ以テ被告人等ハ強盜ノ豫備ヲ爲シタルモ其ノ直前ニ至リ右無賴漢等カ指定ノ日時場所ニ集合セザリシ爲右計畫ノ實行ニ入ラスシテ終リ

(ハ) 同年八月十九日頃前記銀線館ビルディング内ノ事務所ニ於テ今泉善一ニ對シ前記銀行襲撃ノ實行ニ先チ前記木村信次ヲシテ同人ノ宿直ノ夜ヲ利用シ同銀行金庫内ノ現金ヲ竊取セシメシコトヲ提案シ同人ノ協力ヲ求メ翌二十日頃同市京橋區銀座附近ノ某喫茶店ニ於テ同人ニ右木村信次ヲ紹介シ同所ニ於テ右兩名ト共ニ同月二十五日頃今泉カ責任者トナリ其ノ指導下ニ右木村ヲシテ行金ヲ竊取セシムルコトヲ協議シ共謀ノ上今泉善一ニ於テ爾後銀座四丁目附近木村屋喫茶店其ノ他ニ於テ數回右木村ト連絡シ其ノ實行方法等ニ就キ同人ト打合せタル上同人ヲシテ同月二十五日前記銀行白山支店ニ於テ同銀行金庫内ニ在リタル行金一萬百七十四圓ヲ取出サシメ以テ被告人等カ竊取ヲ遂ケ習日右今泉カ之ヲ受取り同市京橋區寶町一丁目一番地東京ビルディング内高野計理士事務所名義ノ黨事務所ニ於テ被告人之ヲ受取り之ヲ同黨ノ活動資金ニ供與シ

(ニ) 同年八月中旬頃同市京橋區銀座裏通ニ於テ前記長谷川茂ヨリ等原潤二郎ノ妹ヲ紹介セラレ同女ヨリ右潤二郎ニ關スル財産分與問題ヲ聞キ其ノ頃更ニ同女及同人ノ招キニ應シ上京シタル右潤二郎ト同市日本橋區内昭和通りニ於テ連絡シ同人等ヲ伴ヒ前記銀線館ビルディング内ノ事務所ニ到リ今泉善一ト會同シ右潤二郎カ其ノ實

兄ナル新潟縣中蒲原郡村松町笠原藤七ヨリ數萬圓ノ財産ノ分與ヲ受ケテ之ヲ黨ニ提供スル意思アルコトヲ確メタル上當時右今泉ト協議シ右潤二郎ヲ指導シ其ノ實兄ヨリ財産ノ分與ヲ受ケ之ヲ黨ニ提供セシムルコトヲ右今泉ニ一任シ同年九月中同人ヨリ笠原潤二郎カ提供シタルモノトシテ金千圓ヲ受取り之ヲ同黨ニ供與シ

(ホ) 同年九月二十七日前記松慶ビルディング内ノ家屋資金局事務所ニ於テ開カレタル同局會議ニ出席シタル際今泉善一ヨリ前記事務所ニ於テ同月三十日夜半ヲ期シ大塚有章カ責任者トナリ中村經一西代義治及石井正義配下ノ櫻井功等ヲシテ再ヒ前記不動貯金銀行白山支店ヲ襲撃シ前同様ノ方法ヲ以テ同銀行員ヲ脅迫シ約三萬圓ノ行金ヲ強取セシムルコトノ計畫アル旨報告ヲ受ケ同會議ニ列席シタル前記松村事某等一同ト共ニ之ヲ承認シ茲ニ右今泉外數名ト共謀ノ上其ノ後右大塚石井及右實行擔當者ニ於テ數回其ノ實行方法ニ就キ協議シタル結果同月三十日午後十一時三十分頃右石井中村西代及右櫻井ニ代リタル大木利雄等ニ於テ同市四谷區新宿遊廓入口附近ニ集合シタル上田村芳麿ノ操縱スル黨所有ノ自動車ニ塔乗シ各自變裝シタル上一同實彈ヲ裝填シタル拳銃各一挺ヲ携ヘ翌十月一日午前一時二十分頃ヨリ同二時頃迄ノ間三回ニ互リ前記銀行白山支店前ニ到リ計畫實行ノ機ヲ窺ヒ以テ被告人等ハ強盜ノ豫備ヲ爲シタルモ其ノ機ヲ失ヒ實行ニ入ルヲ得スシテ終リ

(ハ) 同年十月四日午前中前記松村事某等ト共ニ今泉善一ヨリ前記松慶ビルディング内ノ事務所ニ於テ開カレタル家屋資金局會議ニ於テ近々同市大森區入新井町五丁目三百六十二番地所在川崎第百銀行大森支店ニ侵入シ同支店員ヲ脅迫シテ其ノ行金ヲ強奪スル計畫ナル旨ヲ報告セラレ被告人ハ松村事某等ト共ニ之ヲ承認シ依テ被告人ハ右今泉等ト共謀ノ上更ニ右今泉ニ於テ同日午後前記東京ビルディング内ノ事務所ニ於テ大塚有章石井正義根岸長三西代義治等ト右計畫ニ就キ協議シタル結果大塚有章ヲ一切ノ責任者トシ中村經一ヲ實行擔當ノ責任者トシ西代義治伊藤淺雄ヲ實行擔當者トシ同月六日午後四時頃ヲ期シ右計畫ヲ遂行スルコトト決定シ別ニ







第五十五條第五十四條第一項第十條ニ則リ結局最モ重キ國體變革ヲ目的トスル結社ニ加入シ其ノ役員トシテ指導的任務ニ從事シタル罪ニ付定ムル前記法條所定刑ニ從ヒ其ノ中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十二年ニ處スヘク但シ刑法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

被告人ハ上告ヲ爲シ辯護人ハ上告趣意書ニ於テ事實ノ誤認刑ノ量定等ニ關スル原判決ノ不當ヲ攻撃シタル外竊盜又ハ強盜ノ謀議ニ與リタルニ止マル被告人ニ對シ其ノ共同正犯タル罪責アルモノト爲シタル第二審判決ハ從來ノ大審院ノ判例ニ抵觸スルモノナリト主張シタルヲ以テ右法律點ノミニ付刑事總部ノ聯合審判ヲ爲シ他ノ上告論旨ニ付テハ事件ノ繫屬シタル第一刑事部ニ於テ審判ヲ爲シタリ

### ○主 文

竊盜罪又ハ強盜罪ニ付テ其ノ謀議ニ與リタル者ハ實行行爲ヲ分擔セサルモ共同正犯タル責ヲ負フヘキモノトス

### ○理 由

辯護人鈴木重光上告趣意書第一點原判示第六ノ五ノ(ハ)ニ依レハ被告人ハ昭和七年十月四日午前中松村事某等ト共ニ今泉善一ヨリ松慶ビルデング内ノ事務所ニ於テ開カレタル家屋資金局會議ニ於テ近近東京市大森區入新井町五丁目三百六十二番地所在川崎第百銀行大森支店ニ侵入シ同支店員ヲ脅迫シ其ノ行金ヲ強奪スル計畫ナル旨ヲ報告セラレ云々被告人ハ右今泉等ト共謀ノ上更ニ右今泉ニ於テ同日

午後東京ビルデング内ノ事務所ニ於テ大塚有章 石井正義 根岸長三 西代義治等ト右計畫ニ就キ協議シタル結果大塚有章ヲ一切ノ責任者トシ中村經一ヲ實行擔當ノ責任者トシ西代義治 伊東淺雄ヲ實行擔當者トシ同月六日午後四時ヲ期シ右計畫ヲ遂行スルコトト決定シ云々中村經一 西代義治 立岡正秋ニ於テ各々拳銃ヲ携帯シテ同銀行裏口ヨリ營業室ニ入り以テ被告人等ハ同支店ニ侵入シ云々支店長深海熊次外其ノ場ニ居合セタル同支店員數名ヲ脅迫シ云々行金三萬一千七百七十九圓ヲ強取シ云々ト認定シ刑法第二百三十六條ヲ適用セラレタリ然レトモ御院ニ於テ大正三年判例(同年判決錄一二五八丁)トシテ示サル所ニ依レハ竊盜罪ノ實行ヲ謀議シタル事實ノミヲ掲ケ其ノ實行行爲若クハ之ニ密接且必要ナル行爲ニ加擔シタル事實ヲ明示セスシテ輒ク竊盜ノ實行正犯ニ問擬シタル原判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス爾來智能犯及放火犯ニ付テハ謀議シタル事實アル以上實行行爲ナキモ共同責任ヲ以テ問擬セルニ拘ラス強竊盜ニ付テハ未タ右判例ヲ變更サレタルヲ見ス現ニ昭和十年六月二十五日御院宣告ノ判決ニ於テ多數人カ強盜ノ罪ヲ爲スコトヲ共謀シ各自其ノ實行行爲若クハ實行行爲ニ密接スル行爲ノ一部ヲ分擔セルトキハ共同責任ヲ問フヘキ趣旨(判例集昭和十年度七三六丁)ヲ明示サレ單ニ謀議ノ一事ノミヲ以テ共同責任ヲ問ヒタル事例ナシ然ラハ原判決ハ理由不備ノ違法アルカ又ハ擬律ノ錯誤アルト同時ニ重大ナル事實ノ誤認アルモノト思料スト云ヒ」同第十二點原判決第五ノ(一)ニ依レハ被告人ハ昭和七年六月下旬船橋四郎ト共謀シ同人ヲ指導シテ其ノ實父ナル東京市淀橋區大久保百人町



舟橋事船橋喜一方ニ於テ同人所有ニ係ル日本毛織會社外四社ノ株券七十枚(六百七十株)竝同人ノ實印一個ヲ竊取セシメ云々ト認定シ刑法第二百三十五條第六十條ヲ適用セラレタリ然レトモ右判示ニ依レハ被告人ノ行爲ハ教唆犯ト解スヘキカ又ハ船橋四郎ニシテ器械的ノ行爲ヲ爲シタルニ過キストセハ間接正犯ト解スヘキカ原判示ニ依リテハ理由不備ナルノミナラス擬律モ正當ナラス且又竊盜犯ハ第一點ニ論セルカ如ク共謀ノ事實ノミアリトスルモ實行行爲ナキトキハ共同責任ヲ問フコト能ハサルモノト思料ス此ノ點ニ於テ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリ破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ』同第十六點原判決第六ノ五ノ(ハ)ニ依レハ被告人ハ同年八月十九日頃前記銀絲館ビルデング内ノ事務所ニ於テ今泉善一ニ對シ前記銀行襲撃ノ實行ニ先チ前記木村信次ヲシテ同人ノ宿直ノ夜ヲ利用シ同銀行金庫内ノ現金ヲ竊取センコトヲ提案シ同人ノ協力ヲ求メ翌二十日頃同市京橋區銀座附近ノ某喫茶店ニ於テ同人ニ木村信次ヲ紹介シ同所ニ於テ右兩名ト共ニ同月二十五日頃今泉之カ責任者トナリ其ノ指導下ニ右木村ヲシテ行金ヲ竊取セシムルコトヲ協議シ共謀ノ上今泉善一ニ於テ爾後銀座四丁目附近木村屋喫茶店其ノ他ニ於テ數回右木村ト連絡シ云々不動貯金銀行白山支店金庫内ニ在リタル行金一萬百七十四圓ヲ取出サシメ以テ被告人等之カ竊取ヲ遂ケ翌日今泉カ之ヲ受取り同市京橋區寶町一丁目一番地東京ビルデング内高野計理士事務所名義ノ黨事務所ニ於テ被告人之ヲ受取り同黨ノ活動資金ニ供與シト認定サレタルモ第一點第七點ト同一ノ違法アルモノト思料スト云ヒ』同赤井幸夫上告趣意旨第一點原判決ハ

其ノ事實理由第六ノ(五)ノ(ハ)ニ於テ被告人勝一ハ昭和七年十月四日午前中松村事某等ト共ニ今泉善一ヨリ前記松慶ビルデング内ノ事務所ニ於テ開カレタル家屋資金局會議ニ於テ近々同市大森區入新井町五丁目三百六十二番地所在川崎第百銀行大森支店ニ侵入シ同支店員ヲ脅迫シテ其ノ行金ヲ強奪スル計畫アル旨ヲ報告セラレ被告人ハ松村事某ト共ニ之ヲ承認シ依ツテ被告人ハ右今泉等ト共謀ノ上更ニ右今泉ニ於テ同日午後前記東京ビルデング内ノ事務所ニ於テ大塚有章 石井正義 根岸長三 西代義治等ト右計畫ニ就キ協議シタル結果大塚有章ヲ一切ノ責任者トシ中村經一ヲ實行擔當ノ責任者トシ西代義治 伊藤淺雄ヲ實行擔當者トシ同月六日午後四時頃ヲ期シ右計畫ヲ遂行スルコトト決定シ別ニ右伊藤不參加ノ場合ヲ慮リテ之ニ代ルヘキモノヲ石井正義ニ於テ物色スルコトニ決定シ其ノ後右決定當日迄ノ間大塚 石井 根岸 中村 西代ニ於テハ數回會合シテ右計畫ノ實行方法ニ就キ詳細ノ打合ヲ爲シタル上同月六日午後四時頃中村經一 西代義治及石井正義ノ勸誘ニ依リ參加シタル立岡正秋ノ三名ニ於テハ各々拳銃ヲ携帯シテ同銀行裏口ヨリ營業室ニ入り以テ被告人等ハ同支店ニ侵入シ次テ右中村カ先ツ拳銃ニ發射シタル上右立岡ト共ニ其ノ出入口ニ立塞カリ夫々同銀行支店長深海熊次外其ノ場ニ居合セタル同支店員數名ニ銃口ヲ向ケテ之ヲ脅迫シ同人等ヲ右營業室ノ一角ニ集合セシメ其ノ抵抗ヲ抑ヘ其ノ間ニ右西代カ同室内計算係机上ニアリタル同銀行行金三萬千七百七十九圓ヲ所携ノ赤革製折鞘ニ取入レ以テ被告人ハ之カ強取ヲ遂ケ云々』ト判示シ此ノ點ニ付刑法第二百三十六條第一項第六十



條ヲ適用處斷シタリ然レトモ強盜ノ實行正犯タルカ爲ニハ各共犯者カ各自強盜ノ實行行爲若クハ實行行爲ニ密接セル行爲ノ一部ヲ分擔シタルコトヲ要スルモノトス(御院判例昭和十年(れ)第五九五號同年六月二十五日第四刑事部言渡判決理由「數人カ強盜ノ罪ヲ犯スコトヲ共謀シ各自其ノ實行行爲若クハ實行行爲ニ密接セル行爲ノ一部ヲ分擔シタルトキハ其ノ分擔實行シタル行爲ハ共謀者全員ノ意思ヲ遂行シタルモノニシテ他ノ者ハ其ノ者ニヨリ自己ノ意思ヲ實行シタルモノナルヲ以テ共謀者全員ハ孰レモ強盜ノ實行正犯トシテ其ノ責ニ任スヘク云々」尙竊盜罪ニ對スル大正三年(れ)第九三九號同年六月十九日第一刑事部言渡判例被告カ竊盜罪ノ實行ヲ謀議シタル事實ノミヲ掲ケテ其ノ實行行爲若クハ之ニ密接且必要ナル行爲ニ加擔シタル事實ヲ明示セスシテ輒ク竊盜ノ實行正犯ニ問擬シタル判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス(大審院判決錄第二〇輯一二五八頁參照)原判決事實理由ニ判示スル處ニヨレハ前示ノ如ク上告人ハ唯單ニ抽象的ニ「今泉善一ヨリ銀行ニ侵入シテ行員ヲ脅迫シ其ノ行金ヲ強奪スル計畫アル旨ノ報告ヲ受ケテ之ヲ承認シ」タルニ止マリ(其ノ後ニ於テ今泉等ニ於テ具體的方法ヲ計畫實行シタルモノナリ)上告人ハ判示強盜ノ實行行爲又ハ之ニ密接セル行爲ヲ分擔實行シタル事實ナキハ勿論其ノ具體的謀議ニスラ關與セサルモノナリトス然ルニ原判決カ右ノ如ク判示セルノミニシテ強盜ノ實行正犯ヲ以テ論シタルハ理由不備ノ違法アルカ若クハ罪トナラサル所爲ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アルモノナリト云ヒ」同第三點原判決ハ今泉善一ニ對スル第九回豫審訊問調書ヲ引用シテ「被

告人勝一ハ昭和七年十月四日午前中松村事某等ト共ニ今泉善一ヨリ松慶ビルデング内ノ事務所ニ於テ開カレタル家屋資金局會議ニ於テ近々東京市大森區入新井町五丁目三百六十二番地所在川崎第百銀行大森支店ニ侵入シ同支店員ヲ脅迫シテ其ノ行金ヲ強奪スル計畫ナル旨ヲ報告セラレ被告人ハ松村事某ト共ニ之ヲ承認シ依テ被告人ハ右今泉等ト共謀シ云々」(判示第六ノ(五)ノ(一))ト事實ヲ認定シ此ノ事實ヲ捉ヘ以テ上告人ヲ同事實後段判示ノ強盜ノ實行正犯ナリト斷定シタリ而シテ此ノ斷定ノ法律上正當ナラサルコトハ既ニ第一點ニ於テ論述シタル處ナリト雖更ニ記錄ニ付此ノ事實關係ヲ檢討スルニ原判決ニ引用セラレタル今泉善一ニ對スル第九回訊問調書ニハ「一四問被告人等ハ其ノ翌日(十月四日ニ當ル)東京ビルデング内高野計理士事務所ニ集ツテ其ノ事ニ付テ更ニ協議シタカ答其ノ翌日(四日ニ當ル)午後三時頃ヨリ大塚石井根岸及私ノ四名カ集ツテ前日ノ事ニ付テ更ニ協議シマシタ(中略)問其ノ時ノ會合ノ結果ドウ云フ話ニナツタカ答其ノ時ハ大塚カラ調査ノ結果カ報告サレマシタカカ病院ヤカフエーハ駄目タト云フ事ヲ結局石井カ出シタ案ニ依ル事ニナリマシタソウシテ其ノ目標ノ銀行ニ就テモ私ヤ大塚カラ案ヲ出シマシタカ之モ結局石井ノ提案シタ同人ノ知ツテ居ル川崎第百銀行大森支店ヲ目標トスル事ニ決定シマシタ其處テ石井カ同銀行並其ノ附近ノ圖面ヲ書キ銀行内部ノ模様ヤ銀行ノ周圍ノ狀況等ヲ詳シク説明シタ上襲撃スルモノノ人選襲撃ノ日取襲撃ニ使用スル自動車ノ調達等ニ就テ一同ニテ協議シタ上大體次ノ様ニ決定致シマシタ(中略)問被告等ハ其ノ晚決定サレタ



事ニ就キMヤ久喜ト更ニ協議シタコトアルカ答其處ノ會合ヨリ以前同日午前私ハ松慶ビルノ事務所ニ於テ開カレタ家屋資金局會議ニ出タ際其ノ會議ノ席上ニ於テ九月三十日ノ不動貯金銀行白山支店襲撃計畫カ失敗ニ終ツタ事ヲ報告シ事業部ノ責任上此ノ次ノ會議迄ニ責任額ヲ作ラウト思フテ居ルカ夫レニ就テハ近々又銀行襲撃ヲ決行スル心算テアルト申シマシタ處列席シタ一同ノ者モ夫ヲ承認シ久喜竝ニMカラ成ル可ク犠牲者ヲ出サナイ様ニトノ注意カアリマシタ間其ノ會議ニ出席シテ居ツタ者ハ被告人トMト久喜ノ他ニ誰々カ答渡邊 桃瀬 北條ノ三名カ出席シテ居リマシタ」(記録三五〇丁以下)ナル記載アリテ之ニ依レハ判示川崎第百銀行大森支店襲撃ノ事實ノ具體化シタルハ判示昭和七年十月四日午後東京ビルディング内ノ事務所ニ於ケル事業部員ノ決定ニシテ其ノ以前ニ於テハ銀行ヲ所謂襲撃スヘキカ病院或ハ喫茶店ヲ襲撃スヘキカ等ノ諸案アリテ而モ其ノ實行方法ニ就キテモ何等ノ具體案ナカリシモノニ係リ從テ同四日午前ニ於ケル判示松慶ビルディング内ノ事務所ニ於テ開カレタル家屋資金局會議ニ於テ判示銀行襲撃ニ付キテハ何等具體的計畫ノ報告アリテ其ノ承認ヲ得ラルヘキ理由ナキモノナリ右事實ニ就キテハ原判決引用ニ係ル大塚有章ニ對スル豫審訊問調書石井正義ニ對スル同上西代義治ニ對スル同上ノ記載モ全く一致スル處ニシテ(上告人ハ右計畫ニ付承認ヲ與ヘ賛成シタル事實ナキコトハ終始一貫主張スル處ナリ)殊ニ右ノ計畫實行ハ事業部三部の屋係ノ責任ニ於テ爲サルモノニ係リ(大塚有章第四回豫審訊問調書參照)而シテ上告人ハ當時地方部ノ責任者ナリシヲ以テ(上告人

ニ對スル第一審公判準備調書ノ記載等ノ參照)右事業部ニ於テ爲スヘキ事項ニ付具體的事實ノ報告ヲ受ケ之ニ對スル許否ノ意見ヲ發表スヘキ謂ナカリシモノナリ左レハ上告人勝一ニ於テ假リニ判示十月四日午前中判示松慶ビルディング内ノ事務所ニ於テ開カレタル會議ニ於テ判示今泉善一ヨリ次ノ會議迄ニ大口ノ資金ノ調達ヲ爲スヘキ旨ノ報告ヲ受ケタリトスルモ右計畫ノ内容ハ極メテ漠然タルモノニシテ何等具體的ノモノニアラサリシモノナルコト明ナリト謂ハサルヘカラス而シテ唯漠然犯罪ヲ爲スヘキ旨ノ報告ヲ受ケテ之ヲ承認シタリトスルモ其ノ共犯タリ得ヘキモノニアラサルヲ以テ(大正十三年(レ)第一二一號同年三月三十一日言渡事實審理決定理由教唆犯ノ成立ニハ教唆者カ被教唆者ニ對シテ一定ノ犯罪行為ヲ爲スヘキコトヲ指示スルコトヲ要スルモノナルカ故ニ他人ニ對シテ其ノ如何ナル犯罪行為ヲ爲スカニ付特定セル認識ナク漫然犯罪ヲ爲スヘシ若クハ竊盜罪ヲ犯スヘシト命スルカ如キハ教唆犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルモノトス云々參照)原判決カ今泉善一ニ對スル第九回豫審訊問調書ニヨリテ論旨冒頭ニ掲クルカ如キ事實ヲ認定シテ以テ上告人ヲ判示強盜ノ實行正犯ナリトシテ刑ヲ科シタルハ事實ノ誤認アルト同時ニ罪トナラサル所爲ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ敍上論旨中竊盜罪又ハ強盜罪ニ付テハ其ノ謀議ニ與ルモ實行行為ヲ分擔セサル者ハ正犯タルノ責ヲ負フヘキモノニ非ストスル點ニ付テ案スルニ凡ソ共同正犯ノ本質ハ二人以上ノ者一心同體ノ如ク互



ニ相倚リ相援ケテ各自ノ犯意ヲ共同的ニ實現シ以テ特定ノ犯罪ヲ實行スルニ在リ共同者カ皆既成ノ事實ニ對シ全責任ヲ負擔セサルヘカラサル理由茲ニ存ス若シ夫レ其ノ共同實現ノ手段ニ至リテハ必スシモ一律ニ非ス或ハ俱ニ手ヲ下シテ犯意ヲ遂行スルコトアリ或ハ又共ニ謀議ヲ凝シタル上其ノ一部ノ者ニ於テ之カ遂行ノ衝ニ當ルコトアリ其ノ態様同シカラスト雖二者均シク協心協力ノ作用タルニ於テ其ノ價值異ナルトコロナシ從テ其ノ孰レノ場合ニ於テモ共同正犯ノ關係ヲ認ムヘキヲ以テ原則ナリトス但シ各本條ノ特別ノ規定ニ依リ之ト異ナリタル解釋ヲ下スヘキ場合ノ存スルハ言ヲ須タサルトコロナリ而シテ竊盜罪竝強盜罪ノ共同正犯關係ハ殺人傷害及放火等ノ罪ニ於ケルト同シク上敍原則ニ從フヘキモノニシテ之カ例外ヲ爲スヘキ特質ヲ存スルモノニ非ス即チ二人以上ノ者竊盜又ハ強盜ノ罪ヲ犯サンコトヲ謀議シ其ノ中或者ニ於テ之ヲ實行シタルトキハ爾餘ノ者亦由テ以テ自己ノ犯意ヲ實現シタルモノトシテ共同正犯タルノ責ヲ負フヘキモノト解セサルヘカラスト本院從來ノ判例ハ初メ所謂知能犯ト實力犯トヲ區別シ前者ニ付テハ實行ヲ分擔セサル共謀者ヲモ共同正犯トシ後者ニ付テハ實行ヲ分擔シタル者ニ非サレハ共同正犯ト爲ササルノ見解ヲ採リタルモ近來放火罪殺人罪等ノ如キ所謂實力犯ニ付テモ概ネ上敍原則ノ趣旨ヲ宣明セルニ拘ラス竊盜罪竝強盜罪ノ共同正犯ニ付テハ寧ロ例外の見地ヲ採用シ實行分擔者ニ非サレハ之カ共同正犯タルヲ得サルモノト爲シタルコト所論ノ如シト雖之ヲ維持スヘキニ非ス然レハ則チ原判決カ被告人ニ對シ所論ノ如キ事實ヲ認定シ竊盜罪ノ共同正犯及強盜罪ノ

【要旨】

共同正犯トシテ處斷シタルハ寔ニ正當ニシテ之ヲ攻撃スル論旨ハ理由ナキモノナリトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○治安維持法違反強盜強盜豫備住居侵入私文書偽造行使竊盜被告事件

(昭和十年(九)第一七九一號 棄却)  
同十一年五月二十八日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 久喜勝一 辯護人 鈴木重光  
赤井幸夫  
鳥野武

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ意義

○判決要旨

結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ意義



一 日本共産黨ノ爲ニ資金ヲ獲得スル行爲ハ其ノ得タル金員ヲ未タ同黨ニ供與セサルモ治安維持法第一條ニ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタリト云フニ該當スルモノトス【要旨第一】

二 日本共産黨ノ爲ニ資金獲得ノ手段ヲ講セシムル目的ヲ以テ他人ヲ黨員ニ紹介スルコトハ同黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ該當スルモノトス【要旨第二】

【参照】治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ノ爲シタル事實ノ認定及法律ノ適用ハ本件ニ付爲シタル刑事聯合部判決ノ要旨ヲ掲出スルニ當リ記載シタルトコロノ如シ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告審未決勾留日數百八十日ヲ本刑ニ算入ス

○理 由

辯護人鈴木重光上告趣意書第七點原判決ハ被告人ニ強竊盜ノ罪アリトシ一面ニ於テ其ノ獲得シタル金員ヲ日本共産黨ニ其ノ活動資金トシテ供與シタル事實ニ對シ刑法第二百三十六條ト治安維持法第一條ヲ適用シタル上一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項ヲ適用セラレタリ然レトモ強盜罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル時ヲ以テ完了シ又治安維持法ノ指導的任務ニ從事シ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲トシテ原判決ノ認メタル所ハ資金ヲ供與シタルノミノ點ニ存シ資金獲得ノ手段タル強盜ノ行爲トハ全ク別個ノ行爲ニシテ刑法第五十四條第一項ニ所謂一個ノ行爲ニ非ス同條項ニ所謂行爲トハ犯意ノ意思實行ト其ノ意思實行ニ基ク結果トヲ包括シテ算定スヘク其ノ結果ヨリ更ニ他ノ行爲ヲ演出シタルトキハ一個ノ行爲ニ非ス(明治四十二年九月二十三日休暇部同年十月十四日第二刑事部同四十三年四月二十六日第一刑事部判決參照)換言スレハ原判決ハ強盜ノ行爲ハ一面治安維持法ニ該當ストシテ擬律シタル不法アリ假ニ然ラストスルモ御院大正二年十一月二十一日第一刑事部ノ判例ニ依レハ一ノ連續犯ヲ構成スヘキ數行爲中ニ數個ノ同一罪名ニ觸ルル行爲

結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ意義



ヲ包含スル場合ニ於テハ先ツ該行爲ニ付刑法第五十四條第十條ニ依リ孰レノ罪名ヲ以テ重シト爲スヘキヤヲ説示シ而シテ後同法第五十五條ヲ適用シ他ノ數行爲ト共ニ一個ノ連續犯ヲ構成スル旨ヲ判示スヘキモノトスト然ルニ原判決ハ此ノ例ニ倣ハサルモノナリ或ハ曰ハン法律ノ適用ニ於テ牽連犯トシテ擬律スルモ想像的一罪トシテ擬律スルモ將又連續犯トシテ擬律スルモ等シク一罪タルカ故ニ被告人ノ利害ニ影響スル所ナシト然レトモ擬律ノ錯誤アルニ依リ原判決ノ破毀サルト否トニ依リ被告人カ刑ノ執行ヲ受クルニ當リ未決勾留日數ヲ算入スルト否トノ相違ヲ生スヘク原判決ニ影響ナキ瑕疵トシテ埋リ去ルヘキモノニ非スト思料スト云フニ在レトモ

## 【要旨第一】

治安維持法第一條ニ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト云フハ結社ノ目的遂行ニ資スヘキ一切ノ行爲ヲ指稱スルモノナルカ故ニ被告人カ日本共産黨ノ爲ニ資金ヲ獲得センカ爲ニ犯シタル判示強盜及竊盜ノ行爲ハ刑法所定ノ當該法條ニ觸ルルト同時ニ由テ以テ其ノ資金ヲ獲得セル點ニ於テモ治安維持法第一條第一項後段及第二項ニ該當スルモノニシテ所論ノ加ク資金供與ノ點ノミヲ分離シテ觀察スヘキモノニ非ス而シテ刑法第五十四條ノ條件ト第五十五條ノ條件トヲ具備スル數個ノ行爲ニ付テハ同時ニ兩法條ヲ適用シ一罪トシテ處斷スヘキモノニシテ兩法條ヲ各別ニ適用シ其ノ順序ヲ定ムルコトヲ要セサルモノナルコト當院ノ判例トスルトコロ(大正十一年(れ)第二〇五一號大正十二年二月二十八日判決參照)ナリ所論本院判例ハ何レモ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ

同第十四點原判決第五ノ(二)同年七月上旬富豪ノ子弟ニ接近シ黨活動資金ヲ獲得スル目的ヲ以テ三ツ木金藏ノ内縁ノ妻對馬久子ヲ東京市日本橋區蠣殼町所在忠勇ビルデング内巴里社會俱樂部ニダンサトトシテ入所セシメタルカ其ノ頃右久子カ同所ニ出入スル武村誠一郎ト情交ヲ結フニ至リタル旨ヲ聞知スルヤ之ヲ利用シテ同人ヨリ金員ヲ出捐セシメ黨活動資金ニ充當センコトヲ企テ同年八月上旬同市京橋區銀座六丁目三番地銀綠館ビルデング三階東商美社名義ノ黨事務所ニ於テ今泉善一ニ對シ其ノ旨ヲ傳ヘ右久子ヲ指導シ相手方ヨリ金員ヲ交付セシメラレタキ旨ヲ依頼シ其ノ頃前記西村なかヲシテ右久子ヲ今泉善一ニ紹介セシメ云々ト認定セラレタルモ該紹介行爲ハ黨ノ擴大強化ヲ計ル行爲ト云フヘカラス更ニ進ンテ久子カ武村誠一郎ヨリ金員ヲ獲得シテ之ヲ黨ニ供與シタル事實アルニ非サレハ以テ擴大強化ヲ計リタリト云フヘカラス刑法ハ既遂罪ノ外豫備罪ヲ處罰スルニハ各本條ニ規定セリ之ト同一系統ニ屬スル治安維持法ニ於テモ亦其ノ解釋ヲ二三ニスヘキ理據ナシ然ラハ原判決ハ罪トナラサル行爲ヲ罪トシテ認定シテ擬律シタル不法アルモノト思料スト云フニ在レトモ

## 【要旨第二】

治安維持法第一條ニ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト云フハ結社ノ目的遂行ニ資スヘキ一切ノ行爲ヲ包含スルモノナルカ故ニ被告人カ日本共産黨ノ支持強化ニ要スル資金獲得ヲ企テ對馬久子ヲシテ判示ノ方法ニ因リ金員ヲ取得セシムルヘク同人ヲ其ノ指導ニ任スヘキ黨員ニ紹介シタルハ即チ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ナルコト勿論ナルヲ以テ其ノ趣旨ヲ判示シタル原判決ハ正當ニシテ論旨ハ理由ナ



シ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條刑法第二十一條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事秋山要關與

○放火詐欺被告事件(昭和十一年(九)第五〇四號 棄却)

(昭和十一年五月二十九日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 黄 壬 模

(根本仙三郎  
金子勝藏  
石原市二)

辯護人

【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

共同正犯ノ態様

○判決要旨

甲乙兩名カ保険ニ付シアル家屋ヲ燒燬シテ保険金ヲ騙取センコト

ヲ共謀シ甲ハ放火ノ行爲ヲ乙ハ詐欺ノ行爲ヲ各分擔實行シタルト  
キハ甲乙兩名ハ共ニ放火及詐欺ノ兩罪ニ付共同正犯者トシテ其ノ  
責ヲ負フヘキモノトス

【参照】 刑法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

同法第八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦

船若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期著クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

同法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同  
シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役七年ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留  
日數中四百日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和五年五月頃ヨリ東京府豊多摩郡中野町(現在東京市中野區)ニ於テ自轉車屋兼古物商ヲ營ミ居リタルモ  
ノナルカ昭和七年九月沈在郁カ金俊植ト共同シテ被告人名義ニテ同町宮園通二丁目三番地所在長江彌市所有ニ係ル木  
造亞鉛板葺平家一棟ヲ賃借シ新京ナル名稱ノ下ニカフェーヲ經營シ居リタルヲ同年十一月下旬頃右兩名ヨリ其ノ儘讓  
受ケ其ノ妾赤木モト子ヲシテ同名義ニテ之ヲ經營セシメ來リタルトコロ被告人ハ同年暮以來賭博ノ爲金錢ニ窮シ且  
沈在郁モ金錢ニ窮シ居リタル結果兩名共謀ノ上赤木モト子ノ住居ニ使用セル前記家屋內動産ニ付既ニ東京動産火災保

共同正犯ノ態様



險株式會社及大成火災海上保險株式會社トノ間ニ孰レモ赤木モト子名義ニテ各保險金額千圓ノ動産火災保險契約ヲ締結セルニ加ヘテ東京動産火災保險株式會社トノ間ニ赤木モト子名義ニテ金一千圓ノ火災保險契約ヲ締結シアルヲ奇貨トシ該被保險動産類ヲ燒燬シ因テ之カ保險金ヲ領得センコトヲ企圖シ同八年四月十日更ニ前記動産類ニ付英國ローヤル火災保險株式會社トノ間ニ被告人名義ニテ金五百圓ノ火災保險契約ヲ締結シ沈在郁ニ於テ放火行爲ヲ被告人ハ右保險金騙取行爲ヲ各分擔スルコトヲ約シ同年四月二十三日豫テ打合セヨリ被告人ハ赤木モト子ヲ引連レ花見ニ出掛ケカフエー新京方全家不在トナルヤ沈在郁ハ午後三時三十分頃同家四疊ノ間ニ於テマツチ軸數本入レアリタル煙草バツト空箱ヲ以テ造リタル圓筒型煙草灰容器ヲ同室ノ東隣四疊ノ間トノ間ノ襖四枚ノ一枚ノ中央邊ヨリ約一尺五寸離レタル疊ノ上ニ置キ之ヲ塵紙二三枚ト煙草朝日一本ノ半分位吸ヒタル殘リノ火ノ點キタルモノヲ押込ミ其ノ上ニ新聞紙數枚ヲ置キテ右灰容器ト襖トノ間ヲ連結シ煙草ノ火カ右新聞紙襖ヲ通シテ該家屋ニ延燒スヘキ裝置ヲ爲シ以テ前記居室ニ放火シ因テ同日午後四時過頃迄ノ間ニ同家表店舗及四疊室二室等ヲ燒キテ同家ヲ半燒セシメ更ニ其ノ東隣小田覺ノ住家ニ延燒セシメテ同家ヲ半燒セシメ以テ住宅放火ノ目的ヲ遂ケ次テ被告人ニ於テ同月下旬東京市日本橋區通三丁目二番地東京動産火災保險株式會社外同市内二ヶ所ニ於テ前記各會社ニ對シ夫々右火災カ被告人等共謀ノ放火ニ因ルモノナルコトヲ祕シ恰モ沈在郁ノ煙草ノ火ノ不始末ニ基ク失火ニ因ルモノノ如ク裝ヒ被告人又ハ赤木モト子名義ヲ以テ前記各契約火災保險金ノ支拂ヲ請求シテ各會社係員ヲ欺罔シ因テ同年五月二日東京動産火災保險株式會社ヲシテ二口ニテ合計金一千六百八十二圓同市麴町區丸ノ内日清ビル内大成火災海上保險株式會社ヲシテ金六百六十七圓ヲ右各會社ニ於テ同年同月八日頃同市同區丸ノ内三菱二十一號館内ニ於テ英國ローヤル火災保險株式會社ヲシテ金五百圓ヲ孰レモ火災保險金支拂名義ノ下ニ被告人ニ交付セシメ以テ合計金二千八百四十九圓ノ騙取ヲ遂ケタルモノニシテ右詐欺ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノナリ

○主 文

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中放火ノ點ハ刑法第百八條第六十條ニ該當スルトコロ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニヨリ重キ前者ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第十四條ノ制限内ニ於テ被告人ヲ懲役七年ニ處スヘク同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中四百日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人根本仙三郎 金子勝藏上告趣意書第五點原判決ハ「被告人ハ同年暮以來賭博ノ爲金錢ニ窮シ且沈在郁モ金錢ニ窮シ居リタル結果兩名共謀ノ上……該被保險動産類ヲ燒燬シ因テ之カ保險金ヲ領得セシコトヲ企圖シ……沈在郁ニ於テ放火行爲ヲ被告人ハ右保險金騙取行爲ヲ各分擔スルコトヲ約シ」トシ上告人及沈在郁兩名ハ該被保險動産類ヲ燒燬シ因テ之カ保險金ヲ領得セント企圖シ沈在郁ニ於テ放火行爲ヲ上告人ハ保險金騙取行爲ヲ分擔スヘク謀議シ各其ノ謀議ニ從ヒ分擔行爲ヲ遂行シタル事實ヲ認定シ而モ各實行行爲ニ對シ漫然刑法第六十條ヲ適用シ其ノ實行ニ與ラサル者ヲモ共同正犯トシテ處斷シタリ惟フニ共犯ハ數人ノ共同加工ニヨリテ同一犯罪事實ヲ成立セシムルノ謂也其ノ客觀的條件トシテ云フ所ノ共同加工ハ同一犯罪事實ノ範圍内ニ限定サルルヲ要スルナリ換言スレハ一個ノ犯罪事實

共同正犯ノ態樣



ノ實行ヲ數人カ分擔スル場合ナラサルヘカラス假令行爲者ノ主觀ニ於テ意思ノ聯絡アリトスルモ其ノ實行スル所別個ノ犯罪ニ係ル時ハ二者ノ間ニ共犯關係ヲ認ムルヲ得ス此ハ二者カ所謂共謀ニ出テタル時ト雖理ヲ異ニスルコトナシ而シテ御院既ニ判示スル如ク本件ノ放火行爲ト保險金騙取行爲トノ間ニハ牽連關係ヲ認メ難キヲ以テ右二個ノ行爲ハ別個ノ犯罪事實ニ屬スルモノナリ然レハ上告人ト沈在郁ハ法律上全然別異獨立ノ二個ノ犯罪ヲ遂行スヘク謀議シ而シテ夫々各一個ノ犯罪事實ノ實行ヲ引受ケタルモノナリトイハサルヘカラス二個ノ犯罪事實ノ全部ニ互リテ共犯關係ヲ認定シ得サルハ言ヲ俟タサル所ナリ若シ沈在郁ノ放火行爲ニ付上告人ニ對シテ共犯トシテノ責任ヲ負ハシメントスルナラハ其ノ放火行爲ヲ獨立シタルモノトシテ觀察シ其ノ放火行爲ノ範圍内ニ於テ謀議ノ事實ヲ擧ケ其ノ分擔行爲ヲ指示セサルヘカラス原判決カ事茲ニ出テス冒頭説示ノ如ク判示シ其ノ各行爲ニ對シ漫然判決摘示ノ法條ヲ適用シタルハ理由不備審理不盡又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決ニハ論旨所掲ノ如ク事實ノ判示ヲ爲シアリテ之ニ依レハ被告人カ沈在郁ト原判示ノ如ク放火及詐欺ノ行爲ヲ爲サントコトヲ共謀シ放火ノ行爲ハ沈在郁ニ於テ詐欺ノ行爲ハ被告人ニ於テ各其ノ實行ヲ爲スコトヲ約シ因テ以テ所期ノ如ク原判示放火及詐欺ノ兩行爲ヲ各分擔實行シタルモノナルコト明瞭ナリトス而シテ此ノ種ノ犯罪ニ在リテハ直接ニ實行ノ局ニ當リテ手ヲ下ス者ハ共謀者中ノ一人ナリト

スルモ此ノ場合ハ他ノ者ハ其ノ一人ノ手ヲ藉リテ自己ノ意思ヲ實行シタルニ外ナラサルヲ以テ等シク共同實行正犯ノ罪責ニ任スヘキモノナリ然レハ本件ノ如ク被告人等兩名カ共謀シテ敍上原判示ノ如ク放火及詐欺ノ行爲ヲ爲シタル事實アル以上ハ其ノ分擔行爲ノ如何ヲ論セス又自ラ實行ニ關與シタルト否トヲ問ハス共ニ放火及詐欺ノ實行正犯タルノ罪責ヲ免ルルヲ得サルヲ以テ既ニ敍上原判示ノ如ク事實ノ判示アル以上其ノ判示ニ缺クル所アルコトナク記録ニ徵スルモ所論ノ如ク理由不備審理不盡又ハ擬律錯誤ノ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事佐々波與佐次郎關與

○村會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(一九三六年)五月二十九日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 村川 傳 周 辯護人 川 淵 千 藏  
 外一名 小 林 田 保 治  
 【第一審】 中田區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所  
 戸別訪問及個個面接ノ連續行爲ト擬律



○判示事項

戸別訪問及個個面接ノ連續行為ト擬律

○判決要旨

戸別訪問及個個面接ノ連續行為ニ對シテハ衆議院議員選舉法第九十八條ヲ包括適用スルヲ以テ足り同條第一項及第二項ヲ各別ニ適用スルヲ要セサルモノトス

【參照】衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス  
何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人傳周ヲ罰金三百圓ニ被告人作次郎ヲ罰金五十圓ニ各處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人傳周ニ付テハ金三圓ヲ一日ニ被告人作次郎ニ付テハ金二圓ヲ一日ニ各換算シタル期間各被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ之ヲ二分シ其ノ一宛ヲ各被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十年七月十日愛知縣知多郡三和村村會議員總選舉施行セラレタルカ

第一 被告人村川傳周ハ右選舉ニ際シ立候補ヲ決意シ其ノ當選ヲ期センコトヲ企テ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ

(一) 同年七月一日頃自己ノ弟ニシテ選舉人ナル被告人村川作次郎ノ肩書居宅ニ同人ヲ訪問シタル上同人ニ對シ「自分ハ今回ノ選舉ニ立候補ヲ爲スニヨリ自己ニ投票シ吳レ度旨」依頼シ且被告人村川作次郎ノ近親ニシテ選舉人ナル水谷重平 芳山佐治郎 皆川守 水谷初次郎 皆川佐助ヲシテ自己ニ投票セシムル様運動方ヲ依頼シ

(二) 同年同月五日頃前記被告人村川作次郎方ニ於テ繼母ノ俗ニ「日明ケ」ト稱スル佛事供養ノ行ハレタル際其ノ席ニ居合セタル選舉人村川和四郎 水谷重平ニ連續シテ面接シタル上夫々自己ニ投票方ヲ依頼シ以テ戸別訪問並個個面接ニヨル選舉運動ヲ爲シ

第二 被告人村川作次郎ハ被告人村川傳周ノ實弟ニシテ右選舉ニ際シ其ノ選舉人ナルトコロ 同年七月一日頃前記被告人村川傳周ヨリ前掲ノ如キ依頼ヲ受ケタルヨリ同人ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ

(一) 同年同月三日頃愛知縣知多郡三和村大字矢田字東根組百十五番地ナル選舉人皆川佐助方ニ同人ヲ同所二百二十九地戸ナル選舉人水谷初次郎方ニ同人及其ノ子ニシテ選舉人ナル水谷重平ヲ各訪問シ同人等ニ對シテ今回ノ議員選舉ニ兄傳周カ立候補スルニヨリ同人ニ投票セラレ度旨依頼シ

(二) 同日頃前記被告人村川作次郎方ニ於テ選舉人村川守ニ面接シ同人ニ對シ前同様傳周ニ對シ投票方ヲ依頼シ

(三) 同年同月四日頃同縣同郡同村大字矢田字東根組六十番地ナル選舉人芳山佐治郎方ニ到リ同人ニ對シ前同様傳周ニ對シ投票方ヲ依頼シ

以テ戸別訪問及個個面接ニヨリ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示各所爲ハ何レモ町村制第三十六條ノ二衆議院議員選舉法第九十八條ニ違反シ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第二十九條ニ該當スルヲ以テ各罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人村川傳周ヲ罰金

戸別訪問及個個面接ノ連續行為ト擬律



三百圓ニ同村川作次郎ヲ罰金五十圓ニ處シ各罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間ニ付刑法第十八條第一項第四項ヲ訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ各適用シテ之ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人川淵千藏 楠田仙次 小林保治上告趣意書第一點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルカ故ニ破毀セラレ可キモノト思料ス原判決摘示ノ犯罪事實ニ依レハ「昭和十年七月十日愛知縣知多郡三和村村會議員總選舉施行セラレタルカ(第一)被告人村川傳周ハ右選舉ニ際シ立候補ヲ決意シ其ノ當選ヲ期センコトヲ企テ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ(一)同年七月一日頃自己ノ弟ニシテ選舉人ナル被告人村川作次郎ノ肩書居宅ニ同人ヲ訪問シタル上同人ニ對シ「自分ハ今回ノ選舉ニ立候補ヲ爲スニヨリ自己ニ投票シ吳レ度キ旨」依頼シ且被告人村川作次郎ノ近親ニシテ選舉人ナル水谷重平 芳山佐治郎 皆川守 水谷初次郎 皆川佐助ヲシテ自己ニ投票セシムル様運動方ヲ依頼シ(二)同年同月五日頃前記被告人村川作次郎方ニ於テ繼母ノ俗ニ「日明ケ」ト稱スル佛事供養ノ行ハレタル際其ノ席ニ居合セタル選舉人村川和四郎 水谷重平ニ連續シテ面接シタル上夫々自己ニ投票方ヲ依頼シ以テ戶別訪問竝ニ個個面接ニヨル選舉運動ヲ爲シ(第二)被告人村川作次郎ハ被告人村川傳周ノ實弟ニシテ右選舉ニ際シ其ノ選

舉人ナルトコロ同年七月一日頃前記被告人肩書居宅ニ於テ被告人村川傳周ヨリ前掲ノ如キ依頼ヲ受ケタルニ依リ同人ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ(一)同年同月三日頃愛知縣知多郡三和村大字矢田字東根組百十五番地ナル選舉人ナル皆川佐助方ニ同人ヲ同所二百二十九番戶ナル選舉人水谷初次郎方ニ同人及其ノ子ニシテ選舉人ナル水谷重平ヲ各訪問シ同人等ニ對シ今回ノ議員選舉ニ兄傳周カ立候補スルニ依リ同人ニ投票セラレ度旨依頼シ(二)同日頃前記被告人村川作次郎方ニ於テ選舉人皆川守ニ面接シ同人ニ對シ前同様傳周ニ投票方ヲ依頼シ(三)同年同月四日頃同縣同郡同村大字矢田字東根組六十六番地ナル選舉人芳山佐治郎方ニ到リ同人ニ對シ前同様傳周ニ投票方ヲ依頼シ以テ戶別訪問及個個面接ニヨル選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」ト云フニ在リ即チ之ニ依レハ上告人村川傳周ハ己ニ投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ判示第一ノ(一)摘記ノ如ク村川作次郎ヲ戶別訪問シ且同一目的ヲ以テ同人ヲシテ連續シテ個々ノ選舉人タル水谷重平 芳山佐治郎 皆川守 水谷初次郎 皆川佐助ニ面接ノ上選舉運動ヲ爲サシメ次テ判示第一ノ(二)摘記ノ如ク連續シテ個々ノ選舉人村川和四郎 水谷重平ニ面接ノ上選舉運動ヲ爲シタル各事實ヲ肯認シ得可ク又上告人村川作次郎ハ村川傳周ニ投票ヲ得シムルノ目的ヲ以テ判示第二ノ(一)摘記ノ如ク皆川佐助 水谷初次郎 水谷重平ヲ戶別訪問シ續テ判示第二ノ(二)摘記ノ如ク選舉人皆川守ニ面接ノ上選舉運動ヲ爲シ更ニ判示第二ノ(三)摘記ノ如ク選舉人芳山佐治郎ヲ戶別訪問シタル各事實ヲ明認シ得ルニ拘ラス原判決ハ其ノ擬律ニ當リ「法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示

戶別訪問及個個面接ノ連續行爲ト擬律



各行爲ハ何レモ町村制第三十六條ノ二衆議院議員選舉法第九十八條ニ違反シ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第二十九條ニ該當スルヲ以テ各罰金刑ヲ選擇シ云々ト判示シタルニ止マリ毫モ上告人村川傳周同村川作次郎ノ前掲摘示ニ係ル各個ノ行爲ニ對シ戸別訪問ヲ禁止セル衆議院議員選舉法第九十八條第一項各個面接ニ依ル選舉運動ヲ禁止セル同條第二項ヲ夫々明瞭ニ區別シテ擬律セサルノミナラス刑法總則第五十四條ノ適用ヲモ閑却シタル違法アルカ故ニ此ノ點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト思料スト謂フニ在レトモ

【要旨】

原判決ノ認定シタルトコロハ判示村會議員選舉ニ當リ被告人傳周ハ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ又被告人作次郎ハ相被告人傳周ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ連續シテ判示戸別訪問及各個面接ノ行爲ヲ爲シタリト謂フニ在ルコト判文上明白ナレハ各被告人ノ行爲ハ夫々町村制第三十六條ノ二衆議院議員選舉法第九十八條ニ違反スル單純一罪ヲ構成スルモノニシテ所論ノ如ク戸別訪問及各個面接ノ二罪成立スルモノトシテ之ニ對シ衆議院議員選舉法第九十八條第一項及第二項ヲ各別ニ擬律スヘキモノニ非サルハ勿論其ノ間所論ノ如ク刑法第五十四條ヲ適用スヘキ餘地亦存スルコトナキカ故ニ原審カ衆議院議員選舉法ノ前示條項ヲ區別スルコトナク之ヲ包括シテ單ニ同法條ニ擬シタルハ相當ナリ然レハ原判決ニハ所論ノ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○贈賄收賄賂投票被告事件 (昭和十一年(九)第二二三號 棄却)

(同年五月三十日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 八木橋 正 辯護人 (阿保淺次郎 外三名 竹田藤吉)

【第一審】 弘前區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

舊刑法第二百三十四條ノ罪ノ成立

○判決要旨

村長選舉ノ村會ニ於テ選舉權ヲ有スル村會議員カ村長タラムコトノ希望ヲ有スル者ノ請託ニ應シ賄賂ヲ收受シナカラ之ニ投票ヲ爲ササリシトキハ賄賂投票罪ヲ構成スルモノニ非ス

【參照】 舊刑法第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ

舊刑法第二百三十四條ノ罪ノ成立



爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人八木橋正 工藤岩藏 福井圭逸 中山專太郎ヲ各懲役六月ニ處ス(押收物沒收ノ點省略)被告人八木橋正ヨリ金三百六十圓ヲ被告人工藤岩藏ヨリ金四百四十圓ヲ被告人福井圭逸ヨリ金三百四十五圓ヲ被告人中山專太郎ヨリ金二百四十五圓ヲ各追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人中山喜代吉 八木橋正 工藤豐太郎 金枝作之丞 三浦由太郎 成田末太郎 成田長一郎 工藤岩藏 福井圭逸 中山專太郎ハ青森縣南津輕郡光田寺村會議員ニシテ村長ヲ選舉スヘキ職務ヲ有スルモノナルトコロ同村長ナル被告人八木橋友太郎カ昭和十年八月二十四日任期滿了スルニ付同月二十一日同村會ニ於テ後任村長ヲ選舉スルニ當リ右被告人八木橋友太郎及同村會議員ナル被告人中山喜代吉 八木橋正ノ三名夫々立候補ヲ爲シ三派鼎立シ互ニ激烈ナル競争ヲ爲スニ至リタルカ

第一 被告人友太郎ハ他ノ候補者ニ於テ村會議員ヲ買收シ居ルヲ聞キ不安ヲ感シ茲ニ實弟ナル被告人友次郎ト共謀ノ上村會議員ヲ買收シテ所期ノ目的ヲ遂ケントシ友太郎又ハ友次郎ニ於テ昭和十年七月下旬頃ヨリ八月中旬頃迄ノ間ニ居村内ニ於テ被告人豐太郎 岩藏 作之丞 專太郎 由太郎 圭逸 末太郎ニ對シ友太郎ニ投票方ヲ請託シ其ノ頃居村内ニ於テ其ノ報酬トシテ被告人友次郎ノ手ヨリ被告人豐太郎 作之丞 末太郎ニ各金三十圓 被告人岩藏ニ金百四十圓 被告人專太郎ニ金七十五圓 被告人由太郎ニ金五十圓 被告人圭逸ニ金四十五圓ヲ交付シテ贈賄シ以テ豐太郎 作之丞

丞 末太郎ヲシテ後記ノ如ク選舉當日右友太郎ニ投票ヲ爲サシメ

第二 被告人中山喜代吉ハ

一 昭和十年七月上旬頃村會議員ヲ買收シテ自己ニ投票セシメンコトヲ企テ同年七月上旬頃ヨリ八月中旬頃迄ノ間ニ被告人喜代吉ノ肩書居宅ニ被告人岩藏 圭逸 專太郎ヲ各招致シ同人等ニ對シ夫々村長選舉ノ際ハ自己ニ投票セラレンコトヲ請託シ其ノ頃同所ニ於テ其ノ報酬トシテ圭逸ニ對シ二回ニ合計金三百圓 岩藏ニ對シ三回ニ合計二百圓 專太郎ニ對シ二回ニ合計金百五十圓ヲ交付シテ贈賄シ以テ右被告人等ヲシテ後記ノ如ク選舉當日喜代吉ニ投票ヲ爲サシメ

二 居村高橋啓治ヨリ被告人正ニ對シ金六百圓ヲ提供スルニ於テハ立候補ヲ斷念シ喜代吉ヲ支持應援スル旨ヲ聞知スルヤ被告人正ヲシテ立候補ヲ斷念セシメ同人及同人ノ支持者タル被告人長一郎ヲ買收シテ自己ニ投票セシメン事ヲ決意シ右長一郎ヲ自宅ニ招致シ同人ニ對シ被告人正ニ於テ立候補ヲ斷念シ長一郎ト共ニ自己ニ投票セラレ度旨ヲ請託シ其ノ報酬トシテ昭和十年八月上旬頃ヨリ中旬頃迄ノ間ニ同所ニ於テ被告人長一郎ヲ通シテ二回ニ合計金六百圓ヲ被告人正及長一郎ニ交付シテ贈賄シ以テ同人等ヲシテ後記ノ如ク選舉當日喜代吉ニ投票ヲ爲サシメ

第三 被告人正及其ノ應援者ナル被告人長一郎ハ共謀ノ上村會議員ヲ買收シテ自己ニ投票セシメンコトヲ企テ被告人長一郎ハ七月下旬頃青森縣南津輕郡光田寺大字前田屋敷山谷傳四郎方ニ於テ被告人岩藏及圭逸ニ對シ右正ニ投票方ヲ請託シ其ノ報酬トシテ各金百圓宛ヲ交付シタル外同月下旬頃被告人專太郎ノ肩書居宅ニ於テ同人ニ對シ前同様ノ懇請ヲ爲シ其ノ報酬トシテ酒代名義ノ下ニ金二十圓ヲ贈賄シ

第四 被告人岩藏 圭逸 專太郎ハ被告人友次郎 喜代吉 正ノ三名ヨリ被告人豐太郎 作之丞 由太郎 末太郎ハ被告人友次郎ヨリ前掲第一第二ノ一第三記載ノ如ク懇請ヲ受ケタル上其ノ報酬トシテ提供セラレタル情ヲ知悉シ乍ラ前示金

舊刑法第二百三十四條ノ罪ノ成立



員ノ交付ヲ受ケ被告人正及長一郎ハ共謀ノ上前示第二ノ二記載ノ如ク被告人喜代吉ヨリ前記ノ如キ請託趣旨ノ下ニ其ノ報酬トシテ前示金員ノ交付ヲ受ケテ孰レモ村會議員タル自己ノ職務ニ關シテ收賄シ以テ昭和十年八月二十一日ノ同村役場内ニ於ケル同村會ノ村長選舉ニ當リ被告人豐太郎 末太郎 作之丞ハ被告人友太郎ニ被告人正長一郎岩藏 圭逸 專太郎ハ被告人喜代吉ニ投票ヲ爲シ

タルモノニシテ右被告人正ノ贈收賄ノ所爲及被告人岩藏 圭逸 末太郎ノ各收賄ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス法律ニ照スニ被告人正ノ判示所爲中贈收賄ノ點ハ刑法第九十八條第一項第九十七條第一項前段第五十五條第六十條ニ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル點ハ舊刑法第二百三十四條刑法施行法第二十五條第二條第十九條第二十條ニ被告人岩藏 圭逸 專太郎ノ各判示所爲中收賄ノ點ハ刑法第九十七條第一項第五十五條ニ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル點ハ舊刑法第二百三十四條刑法施行法第二十五條第二條第十九條第二十條ニ各該當スルところ右贈賄ト賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル所爲贈收賄ノ連續又ハ收賄ト賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル所爲トハ孰レモ一個ノ所爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條刑法施行法第十九條ヲ適用シ被告人正 岩藏 圭逸 專太郎ニ對シテハ重キ收賄罪ノ刑ニ從ヒ夫々其ノ刑期範圍内ニ於テ主文掲記ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙被告人正ニ於テ長一郎ト共同收受シタル賄賂金中被告人正ノ分配ヲ受ケタル内金三百六十圓被告人岩藏ノ收受シタル賄賂金四百四十圓被告人圭逸ノ收受シタル賄賂金四百四十五圓ノ内金三百四十五圓被告人專太郎ノ收受シタル賄賂金二百四十五圓ハ孰レモ全部費消ニ係リ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項後段ヲ適用シ右各被告人ヨリ夫々主文掲記ノ金額ヲ追徴スヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

### ○理 由

被告人工藤岩藏 福井圭逸 中山專太郎辯護人阿保淺次郎上告趣意書第二點原判決ノ事實理由中被告等三名ニ關スル部分ヲ摘録スレハ一、被告人岩藏ハ光田寺村會議員トシテ村長ヲ選舉スヘキ職務ヲ有スルモノナルところ八木橋友太郎又ハ八木橋友次郎ヨリ友太郎ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ友次郎ノ手ヨリ金百四十圓同シク中山喜代吉ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ三回ニ金二百圓同シク八木橋正ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ成田長一郎ノ手ヨリ金一百圓ヲ受取二、被告人圭逸ハ光田寺村會議員トシテ村長ヲ選舉スヘキ職務ヲ有スルモノナルところ八木橋友太郎又ハ八木橋友次郎ヨリ友太郎ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ友次郎ヨリ友太郎ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ友次郎ノ手ヨリ金四十五圓同シク中山喜代吉ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ二回ニ金三百圓同シク八木橋正ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ成田長一郎ノ手ヨリ金百圓ヲ受取三、被告人專太郎ハ光田寺村會議員トシテ村長ヲ選舉スヘキ職務ヲ有スルモノナルところ八木橋友太郎又ハ八木橋友次郎ヨリ友太郎ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ友次郎ヨリ金七十五圓同シク中山喜代吉ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ二回ニ金百五十圓同シク八木橋正ニ投票方ヲ請託セラレ其ノ報酬トシテ成田長一郎ノ手ヨリ金二十圓ヲ受取タルコト即チ被告人等三名ハ各々八木橋友太郎並八木橋正ニモ投票スヘク請託ヲ受ケ其ノ報酬トシテ右ノ如ク金員ヲ受領シタルコト明瞭ナリ而シテ最後ニ被告人岩藏 圭逸 專太郎ハ中山喜代吉ニ投票ヲ爲シタリト



判示セリ由是觀之原判決ノ確定セル事實ヲ要約スレハ八木橋友太郎竝其ノ實弟友次郎カ被告人等三名ヲシテ友太郎ニ投票セシム可ク又八木橋正ノ後援者成田長一郎ハ被告人等三名ヲシテ八木橋正ニ投票セシムヘク各其ノ報酬トシテ前述ノ如ク被告人等三名ニ對シ金員ヲ交付シ被告人等三名モ夫々金員ヲ受領シ而シテ右兩名ニハ投票ヲ爲サスシテ中山喜代吉ノミニ投票ヲ爲シタルモノナル趣旨ニ事實ヲ確定セルコト明瞭ナルヲ以テ原判決ノ趣旨ニ依レハ被告人等三名カ八木橋友太郎竝八木橋正ニ對スル投票ノ報酬ナリトシテ各自友次郎竝長一郎ヨリ前述ノ金員ヲ受領シタルモノナル故右兩名ニ對スル報酬トシテ金員ヲ受取リタル事實ニ付テハ舊刑法第二百三十四條ヲ適用スヘカラサルナリ蓋シ同條ニハ「賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタルモノハ云々ニ處ス」ト規定シ在リテ賄賂ヲ收受シ以テ投票ヲ爲シタル事實ニ對シテノミ適用スヘキモノナレハ八木橋友太郎竝八木橋正ニ對シテハ投票ヲ爲ササルモノナル故是等ノ側ヨリ受取リタル事實ニ付テハ同條ノ規定ヲ適用スヘカラサルモノナリ然ルニ原判決ハ該事實ニ對シテモ舊刑法第二百三十四條等ヲ適用處斷セルハ明カニ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法施行法第二十五條ニ依リ現時尙ホ未タ效力ヲ有スル舊刑法第二百三十四條ニ所謂賄賂投票罪ハ犯人カ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ公選ノ投票ヲ爲シタル場合ニ於テ始メテ成立スヘキ犯罪ナレハ村長選舉ノ村會ニ際シ其ノ村長選舉ノ職務權限ヲ有スル村會議員カ特定ノ候補者ヨリ豫メ

自己ニ投票セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ因テ職務上之ニ投票ヲ爲シタルトキハ賄賂投票罪ヲ構成スルト同時ニ一面ニハ刑法第九十七條第一項前段ノ收賄罪ヲ構成シ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷スヘキモノナルモ其ノ投票ヲ爲ササリシトキノ如キハ單ニ刑法第九十七條第一項前段ノ收賄罪ヲ構成スルニ止マリ舊刑法第二百三十四條ノ賄賂投票罪ヲ構成スルモノニ非サレハ原判決カ被告人等ノ行爲ニ付所論ノ如ク判示事實ヲ確定シ之ニ舊刑法第二百三十四條ヲ適用セサリシハ固ヨリ其ノ所ニシテ毫モ擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事佐々波與佐次郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(九)第五四四號 棄却)  
(同年六月二日第四刑事部判決)

衆議院議員選舉法第一百七條ニ所謂被選舉人ノ氏名ノ推測 被選舉人ノ氏名ノ表示方



【上告人】 被告人 相良源治 辯護人 佐久間 渡  
【第一審】 足利區裁判所 【第二審】 宇都宮地方裁判所

○ 判示事項

衆議院議員選舉法第一百七十七條ニ所謂被選舉人ノ氏名ノ推測——被選舉人ノ氏名ノ表示方

○ 判決要旨

一 選舉事務ニ關係アル官吏等力選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ推測シテ之ヲ表示スルトキト雖衆議院議員選舉法第一百七十七條ノ犯罪ヲ構成ス【要旨第一】  
二 衆議院議員選舉法第一百七十七條ノ犯罪ノ成立ニ付テハ選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ何人ナルカヲ推知セシメ得ル程度ニ於テ氏名ヲ表示スルヲ以テ足ル【要旨第二】

【參照】 衆議院議員選舉法第一百七十七條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛偽ナルトキ亦同シ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十二日施行セラレタル栃木縣縣會議員選舉ニ際シ足利郡選舉區内富田村投票區ニ於ケル投票立會人ニシテ選舉當日同村役場内ニ設ケラレタル投票場ニ立會ヒタルトコロ翌二十三日被告人肩書居宅ニ於テ同村和田榮三郎ニ對シ選舉人大澤龍太郎及太田和一郎ノ投票ヲ注視シ居タルカ同人等ハ候補者穴原彌助ニ投票ヲ爲シタル模様ナリシ旨語リ以テ選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百七十七條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニヨリ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人佐久間渡上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ昭和十年九月二十二日施行セラレタル栃木縣縣會議員選舉ニ際シ足利選舉區内富田村投票區ニ於ケル投票立會人ニシテ選舉當日同役場内ニ設ケラレタル投票場ニ立會ヒタルトコロ翌二十三日被告人肩書居宅ニ於テ同村和田榮三郎ニ對シ

衆議院議員選舉法第一百七十七條ニ所謂被選舉人ノ氏名ノ推測 被選舉人ノ氏名ノ表示方



選舉人大澤龍太郎及太田和一郎ノ投票ヲ注視シ居リタルカ同人等ハ候補者穴原彌助ニ投票ヲ爲シタル模様ナリシ旨語リ以テ選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタルモノナリト判示シタルトモ衆議院議員選舉法第十七條ハ選舉ノ祕密ヲ嚴守スルコトヲ以テ目的トシ何人ヨリ何人ニ投票シタルカヲ表示スルコトヲ禁シ以テ選舉ノ祕密主義無記名投票主義ヲ貫徹スル趣旨ノ下ニ規定セラレタルコト何等疑ヲ容レサルトコロナリ而シテ同條ノ規定ニ依レハ同條違反タルカ爲ニハ故意ニ自己ノ職務上認識セル被選舉人ヲ表示スルカ又ハ自己ノ認識セル被選舉人ト異ルモノヲ被選舉人ナリト故意ニ事實ニ反スル虚偽表示ヲ爲スニヨリテ初メテ違反行爲トナルモノナリ從テ投票人ノ手ノ動キ方ヨリ見テ何人ニ投票シタル模様ナリトノ被告人ノ單ナル想像ヲ表示スルカ如キ所爲ハ犯罪ノ成立ヲ來ササルモノナリ此ノ區別ヲ無視シ被告人ニ刑ヲ科シタル原判決ハ擬律ノ錯誤ヲ免レサルモノナリト謂フニ在リ

## 【要旨第一】

仍テ按スルニ衆議院議員選舉法第十七條ハ投票ノ祕密ヲ保持シ選舉人ヲシテ其ノ自由ナル意思ニ依リ投票ヲ爲サシメントスル趣旨ノ規定ニ外ナラサルヲ以テ同法意ニ鑑ミ同條ニ所謂被選舉人ノ氏名ハ同條所定ノ官公吏立會人又ハ監視者ニ於テ之ヲ的確ニ認識セルモノナルト將又同人等ノ單ナル推測ニ出テタルモノナルトハ敢テ之ヲ問ハサルノミナラス該氏名ヲ表示スルニ當リテハ必スシモ之ヲ斷定的ニ確言スルヲ要セス苟モ選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ何人ナルカヲ推知セシメ得ル程度ニ於テ其ノ

## 【要旨第二】

氏名ヲ表示スル限リ茲ニ同條違反ノ犯罪成立スルモノト解スヘキモノトス本件ニ於テ原判決ノ認定スルトコロニ依レハ被告人ハ判示投票立會人トシテ投票場ニ立會ヒタルトコロ其ノ翌日和田榮三郎ニ對シ選舉人大澤龍太郎外一名ノ投票ヲ注視シ居リタルカ同人等ハ候補者穴原彌助ニ投票シタル模様ナリシ旨語リタリト謂フニ在ルヲ以テ被告人カ被選舉人ノ氏名ヲ所論ノ如ク單ニ投票人ノ手ノ動キ方ニ依リ推察シタルト將又其ノ氏名ヲ表示カ判示ノ如ク推測ニ基クトヲ論セス前段説明ニ照シ前示法條ニ所謂選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタル場合ニ該當スルモノト謂フヘク從テ原審カ之ヲ同條ニ問擬處斷シタルハ固ヨリ正當ニシテ所論ノ如ク何等擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事黒川涉關與

○愛知縣令紹介營業取締規則違反被告事件 (昭和十一年(九)第七〇三號 棄却)

他ノ紹介營業者ノ介在シタル紹介營業行爲



【上告人】 被告人 佐原清江 辯護人 加藤正衛

【第一審】 岡崎區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○ 判示事項

他ノ紹介營業者ノ介在シタル紹介營業行爲

○ 判決要旨

愛知縣令紹介營業取締規則ニ依リ其ノ藝娼妓紹介營業ノ許可ヲ受ケサル者力自己ノ業トシテ藝妓ノ紹介行爲ヲ爲ストキハ他ノ紹介營業者力其ノ間ニ介在シタリトスルモ同規則第三條ノ違反タルヲ免レサルモノトス

【參照】 愛知縣令藝娼妓紹介營業取締規則第三條 紹介業者タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署長ニ願出テ紹介營業許可證ヲ受クヘシ(以下省略)

第二十二條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反セル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ拘留十日ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ藝娼妓紹介營業ノ許可證ヲ受ケスシテ昭和十年六月二十日岡崎市松本町中村はつノ依頼ヲ受ケ同家抱藝妓山内マツノ(當時十六歲)ヲ愛知縣寶飯郡蒲原町紹介營業通稱三豐ナル者ニ紹介シ同人ノ手ニ依リ同縣幡豆郡西尾町會

生千田屋事千田むら方ニ前借金六百五十圓ニテ住込マシメ前記三豐ヨリ手数料分配金十五圓ヲ收受シタル外昭和十年六月頃岡崎市松本町磯村實太郎ヨリ藝妓ノ求人依頼ヲ受ケ知人ナル東京市本所區横網町藝妓紹介業小堤道之助ニ其ノ旨照會シ同人ヨリ埼玉縣浦和町四〇番地浦次郎長女中島文(當十七歲)ノ紹介ヲ受ケ同女ヲ右磯村實太郎方へ前借金千百圓ニ住込マシメタル結果右道之助ヨリ手数料分配金五十五圓ヲ收受シタル等無免許ニ依ル紹介營業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示無免許ニ依リ紹介營業ヲ爲シタル所爲ハ愛知縣令紹介營業取締規則第三條ニ違背シ同規則第二十二條ニ該當スルヲ以テ所定刑中拘留刑ヲ選擇シ被告人ヲ拘留十日ニ處スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人加藤正衛上告趣意書第一點愛知縣令ニ依ル紹介營業者トハ手数料ヲ得テ藝娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者ノ紹介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂ヒ(同令第一條第三條第十四條第十五條)其ノ紹介業者ノ手下トナリテ働ク者ヲ紹介業從業者ト謂フ(同令第十條第十一條第十二條)然リ而シテ被告ノ爲シタル本件行爲中其ノ前者ハ中村はつノ依頼ニ依リ同家抱藝妓山内マツノヲ紹介業者通稱三豐ニ依頼シ同人ノ手ニ依リマツノヲ千田むらニ抱ヘシメタルモノ其ノ後者ハ磯村實太郎ヨリ藝妓ノ求人依頼ヲ受ケ紹介業者小堤道之助ニ紹介シ同人ノ手ニ依リ中島文ヲ磯村方ニ抱ヘシメタルモノニシテ各其ノ手数料ハ

他ノ紹介營業者ノ介在シタル紹介營業行爲



紹介業者ニ於テ收受シ被告ハ其ノ幾分ヲ紹介業者ヨリ受取リタルモノニシテ其ノ抱主ヨリ共同シテ之ヲ受取リタルモノニ非スサレハ被告ノ行爲ハ或ハ紹介業者ノ行爲ト謂ヒ得ヘケンモノ之ヲ紹介業者爲ト云フハ當ラサルヘシ寧ロ被告ノ行爲中其ノ前者ハ中村はつノ代理トシテマツノノ住替ヲ三豊ニ依頼シタルモノト見ルヘク又其ノ後者ハ磯村實太郎ノ代理トシテ小堤道之助ノ紹介ニ依リ中島文ヲ抱ヘタルモノト見ルヲ相當トセン果シテ然ラハ原判決ハ事實ニ對シテ法ノ適用ヲ誤リタルモノト謂フヘク然ラサレハ理由不備ノ判決ト見ルヲ相當トセント云フニ在レトモ

【要旨】

被告人ハ中村はつ及磯村實太郎ノ代理トシテ紹介業者ノ手下トナリテ働キタリトノ所論ハ原判示ニ副ハサル主張ナリトス而シテ原判決ノ認メタル事實ハ之ヲ要スルニ被告人ハ藝娼妓紹介營業許可證ヲ受ケスシテ中村はつノ依頼ヲ受ケ同家抱藝妓山内マツノヲ紹介營業者通稱三豊ニ依頼シ同人ノ手ニ依リマツノヲ千田むら方ニ前借金六百五十圓ニテ住込マシメ三豊ヨリ手數料分配金十五圓ヲ收受シタル外磯村實太郎ヨリ藝妓ノ求人依頼ヲ受ケ藝妓紹介業小堤道之助ニ紹介シ同人ヨリ中島文ノ紹介ヲ受ケ同人ヲ磯村實太郎方へ前借金千百圓ニテ住込マシメタル結果右道之助ヨリ手數料分配金五十五圓ヲ收受シタル等無免許ニ依リ紹介營業ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ該事實ハ原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ之ヲ證明スルニ足り被告人ノ行爲ハ藝娼妓紹介營業ノ許可證ヲ受ケスシテ自己ノ業トシテ藝妓ノ紹介ヲ爲シタルモノナルコト洵ニ明カナルヲ以テ假令所論ノ如ク他ノ紹介業者カ其

ノ間ニ介在シタリトスルモ被告人ノ敍上紹介ノ行爲ヲ紹介業者ノ行爲ト目スヘキニ非ス蓋紹介業者ハ紹介業者ノ手足トナリテ作爲スルモノニ過キサレハナリ故ニ原判決ニハ所論ノ如ク理由不備ノ違法ナキト同時ニ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事池田克關與

○放火被告事件 (昭和十一年(れ)第六八八號 棄却)

(昭和十一年(れ)第六八八號 同年六月八日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 西村好尚 辯護人 盛川 康

【第一審】 青森地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

未遂既遂ト公訴ノ範圍



未遂既遂ト公訴ノ範圍

○ 判決要旨

基本タル事實關係ヲ同シウスル場合ニハ未遂ノ公訴事實ヲ既遂ト認定スルモ起訴ノ範圍ヲ逸脱シテ審判ヲ爲シタル違法アリト謂フヘカラス

【參照】 刑事訴訟法第二百九十一條

公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及

罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌體格其ノ他ノ徵表ヲ以テス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五年ニ處ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ青森縣下北郡田名部町大字田名部字本町二十一番地ニ於テ村上嘉藏所有ノ家屋ヲ借受ケ履物小賣商ヲ營ミ居リタルモノナルトコロ近時營業不振ナルノミナラス家庭ニ風波絶エス昭和十年九月中妻コトヲ離別シ更ニ同年十月二十一日長男好悦ニ出奔セラレタルヨリ痛ク悲觀シ他ニ轉業シ更生ノ途ヲ講セント苦慮シ居リタル折柄豫テ自ラ多額ノ資本ヲ投シ同縣同郡川内町ニ支店ヲ經營セシメ居リタル戸澤豐逸ニ於テ前同日被告人方ニ來リ債權者ヨリ嚴重ナル債務履行ヲ迫ラレ居ル窮情ヲ訴ヘタルヲ以テ深く同人ニ同情シ茲ニ同人ノ窮境ヲ救ヒ且自己ノ轉業資金ヲ得ンカ爲糞ニ

自宅内ノ自己所有ノ商品ニ對シ日本動産火災保險株式會社ト保險金二千圓ノ火災保險契約ヲ締結シ居ルヲ奇貨トシ隣家ナル同町大字田名部字本町二十二番地中島常治方居室ニ放火シ因テ自宅ニ延燒セシメ右商品ヲ燒燬シテ前記保險金ヲ獲得センコトヲ企テ同月二十二日午後十時頃「セルロイド」ヲ「ボール」紙ニテ圓筒狀ニ包ミ其ノ一端ニ刻煙草ニ三匁ヲ充填シ煙草ニ火ヲ點スルトキハ暫時ニシテ「セルロイド」ニ引火スルカ如キ裝置ヲ施シタルモノヲ作り該煙草ニ點火シテ之ヲ布片ニ包ミタル上直ニ右物件ヲ自宅裏ニ携行シ前記中島常治方住宅ノ一部ヲ成ヌ同家炊事場ノ葦葦屋根ニ投ケ上ケ之ヨリ發火セシメ因テ以テ該屋根ノ一部東西一尺六寸南北一尺ヲ燒燬シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第八條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

尙豫審終結決定書ノ公訴事實ハ被告人ハ判示日時判示家屋ニ放火シタルモ通行行人及隣人ノ發見消止ムルトコロトナリ僅ニ右放火個所ノ葦葦若干ヲ燒キ且其ノ下部張板ノ一部ヲ燻燒セシメタルノミニシテ右住家燒燬ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリト謂フニ在リテ放火未遂ノ事實ヲ認定シタリ

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人盛川康上告趣意書第二點ハ原審第一回公判調書(十一年二月二十二日)ヲ閱スルニ「長宗檢事

未遂既遂ト公訴ノ範圍



ハ豫審終結決定ニ基キ陳述シタリトアリ(記録四〇九丁)更ニ豫審判事山岸龍作成豫審終結決定書(記録三五七丁以下)ニハ被告人ノ所爲ヲ刑法第一百十二條同百八條ニ基キ處斷シタリトアルモノナリ  
 刑法第八條ノ未遂ヲ以テ公判ニ付シタルモノナルコトハ前敍ノ趣旨ヨリシテ一點ノ疑ノ餘地ナシ然ルニ原審判決ハ放火罪ノ未遂ニアラスシテ同第八條ノ既遂ヲ以テ律シタルモノナルコトハ之レ又疑フノ餘地ナシ左レハ究極ニ於テ原審ハ放火未遂ヲ以テ起訴シタルニ不拘被告人ニ不利益ナル既遂罪ヲ以テ處斷シタルハ起訴ノ範圍ヲ超脱シテ違法ニモ被告人ニ不利益ナル事實ヲ認定シ法條ヲ適用シタルモノニシテ審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲ササルハ違法不當ナリ若シ原審ニ於テ既遂ヲ以テ論セントセハ須ラク判決理由ノ内容ニ於テ未遂ヲ以テ擬律スヘカラサルモノナル旨ヲ緊説シ併セテ起訴事實ノ同一性ヲ説明セサルヘカラス故ニ原審判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルカ又ハ公訴ノ範圍ヲ無視シタル違法アルモノニシテ何レニシテモ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リテ

【要旨】

豫審終結決定書ニハ本件ヲ放火未遂罪ト認メ原判決カ本件ヲ放火既遂罪ト認定シタルコト洵ニ所論ノ如シト雖記録ヲ精査スルニ豫審終結決定書記載ノ本件公訴事實ト原判決認定ノ犯罪事實トハ其ノ基本タル事實關係ヲ同シウスルモノト認メ得ルカ故ニ原判決ハ起訴ノ範圍ヲ逸脱シ請求ヲ受ケタル事實ニ付審判ヲ爲ササル違法アリト謂フヘカラス又原判決カ本件ニ付放火既遂ノ事實ヲ判示シ證據ニヨリ之ヲ認メタル理由ヲ説明シタル以上ハ所論未遂罪ニ非サル理由並敍上基本タル事實關係ノ同一ナルコト

ヲ説明スルノ必要ナキヲ以テ論旨ハ理由ナキニ歸ス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事秋山要關與

○印紙税法違反被告事件 (昭和十一年(レ)第六九八號 棄却)  
(同年六月八日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 大平清太郎

【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

印紙税法ニ所謂受取書ノ性質

○判決要旨

印紙税法ニ所謂受取書トハ金錢タルト其ノ他ノ物品タルトヲ問ハ

印紙税法ニ所謂受取書ノ性質



又受領ヲ證明スル書面ナリ

七七〇 (K3)

【參照】印紙税法第四條第一項 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ  
(中略)  
二十九 受取書 三錢

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ昭和十年一月三十一日附同年四月五日附同年六月六日附受取書三通(押收ニ係ル昭和十一年地押第九號ノ一、二、五)ニ付一通毎ニ各料料三圓ニ處ス右料料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ其ノ肩書居宅ニ於テ酒商ヲ營ムモノナルトコロ昭和十年一月三十一日同年四月五日同年六月六日ノ各日ニ右店舗ニ於テ被告人又ハ其ノ家族ハ横濱市中區石崎町一丁目十四番地酒卸商合資會社北浦商店宛被告人ノ營業ニ關スル記載金高十圓以上ノ受取書各一通(昭和十一年地押第九號ノ一、二、五)ヲ夫々作成シ執レモ之ニ相當印紙ヲ貼用セシテ右北浦商店ニ交付シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ印紙税法第四條第一項第二十九號第二項第五條第十四號第十一條第十四條ノ二ニ該當スルヲ以テ右受取書三通ニ付一通毎ニ被告人ヲ各料料三圓ニ處スヘク右料料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第五十八條ニ則リ金一圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書一、送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ハ問屋ヨリ小賣商ヘノ荷物引渡シノ際荷受人ヨリ調印ヲ受ケ持チ歸ル書類ニシテ之ニ對シ印紙貼用如何ニ就キ意見ノ相違ヲ來シ係争問題トナリタリ右受取書ハ前記ノ如ク買人ヨリ賣人ニ對シ差出シタル荷物受取書ニシテ金錢授受ノ領收書ニ非ス單ニ荷物ノ引受ヲ證スルニ止マリ金錢授受ノ證書ニ非サルコトハ明白ナリ之レニ單價等ノ記入アリトスルモ夫レハ問屋側ノ原簿整理照合等ノ必要記入ト見ルヘク其ノ單價記入ノ故ヲ以テ金錢授受ノ證書ニ變質スルモノト認ムル能ハス荷物受取書ハ送荷計算書ト同一形式ヲ普通トス之レハ手合商品カ單ナル場合別々ニ記入スルヲ煩ハシトセサルモ品目ノ多數煩雜ナルニ於テ復寫式ニ依ルハ當然ナリ然シテ記入セラルルハ品目數量單價代金即チ送荷計算書ト同一ノモノトナル荷受人ハ送荷傳票ヲ計算書トシテ帳簿記入ニ資シ問屋ハ荷受書ニ依リ同様帳簿記入對照ニ使用ス現時ノ帳簿様式ニ於テ荷受書カ重要ナルコトハ言フ俟タサル處若シ印紙税法ニ煩セラレテ荷受書ニ單價代金ヲ記載シ得ストセハ別個記入ノ煩雜荷受書トシテノ價值ヲ失スル等實ニ商人ノ手ヲ束縛スルモノトナルヘシ印紙税法(印五ノ十四號)末項ニ營業ニ關スル受取書ト雖要スルニ常識ヲ以テ判斷スルモノテアリマストアリ法ノ適用ハ時運ノ

印紙税法ニ所謂受取書ノ性質

七七一 (K4)



進展ニ從ヒ之レニ順應スルモノト信ス現今中小業者ノ境遇ヲ見ルニ一方大百貨店ノ進出地方産業組合カ政府ノ庇護ニヨリ目覺マシキ發展ニヨリ中小業者ハ日ニ月ニ其ノ領域ヲ狹メラレ其ノ收益ハ其ノ生活ヲ滿タスニ足ラス凋落衰微ノ一途ヲ辿リツツアリ之レカ保護ノ必要ヲ認メラルル時機ニ際シテハ一層從來ノ商習慣ノ慣例ヲ擴大シ充分ナル考慮ヲ以テ賢明ナル再審ヲ俟タントス幸ヒニ送荷傳票ニ附隨スル荷物受取書ハ印紙貼用ヲ要セストノ新判例ヲ得ハ全國幾百萬ノ當業者ハ手足ノ束縛ハ解除セラレ明朗活潑ナル取引ヲ爲シ得ヘク實ニ二月二十九日香椎戒嚴司令官ノ爲サレタル兵ニ告クノ諭告ト相並ンテ歴史的感激ヲ社會ニ與フヘシト信スルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

印紙税法ニ所謂受取書トハ金錢其ノ他ノ物品ノ受領ヲ證明スル書面ナルヲ以テ本件受取書カ所論ノ如ク問屋ヨリ小賣商ヘ荷物引渡ノ際小賣商ヨリ調印ヲ受ケ持チ歸ル書類ナリトスレハ即チ小賣商タル荷受人カ問屋ニ對シテ荷物ヲ受領シタルコトヲ證明スル書面ニシテ印紙税法ニ所謂受取書ニ該當スルコト明白ナリ而シテ判示ノ如ク右受取書ニ物品ノ金高十圓以上ナルコトノ記載アル以上ハ印紙税法所定ノ印紙ヲ貼用セサルヘカラサルコト勿論ナリ論旨理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事秋山要關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(九)第七二二號 同年六月八日第一刑事部決定 事實審理)

【上告人】 被告人 鎮目 彌作 辯護人 小齋甚治郎  
外二十二名

【第一審】 飯山區裁判所 【第二審】 長野地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第七十一條及同法第四百五十一條ノ適用

○決定要旨

判決書ニ判事ノ契印ヲ缺ク故ヲ以テ被告人一人ノ上告論旨ヲ容レ  
原判決ヲ破毀スヘキトキハ上告趣意書ヲ提出セサル他ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場  
刑事訴訟法第七十一條及同法第四百五十一條ノ適用  
七七三 (一七)



合テ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ  
書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

同法第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

(中略)

二十一 判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

同法第四百五十一條 被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由

上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破

毀スヘシ

同法第四百二十七條 上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判

所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人鎮目彌作ヲ禁錮三月ニ被告人幸野儀平ヲ禁錮二月ニ處ス被告人若林巳喜太郎ヲ罰金百五十圓ニ被告人畔上敦忠ヲ罰金百三十圓ニ被告人田中佐右衛門同山田稔同小林滿雄ヲ各罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓五十錢ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人淺沼周平同松井貞一同塚田逸藏同春原威男同大谷角市同竹内金治郎ヲ各罰金八十圓ニ被告人小林俊造ヲ罰金七十圓ニ被告人小林金五郎同小林繁信同樋口市治郎同養田信成同宮澤惣治郎同梅松卯吉ヲ各罰金五十圓ニ被告人高橋萬壽治同山田彌之助同

田中傳司ヲ各罰金四十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置ス(沒收並追徴ノ點省略)スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人宮崎與兵衛ハ長野縣下高井郡政友俱樂部ノ副幹事長被告人鎮目彌作同若林巳喜太郎ハ同俱樂部員ニシテ昭和十年九月二十七日施行セラレタル同縣縣會議員選舉ニ際シ孰レモ同俱樂部候補者詮衝委員ノ一員トシテ小林治雄ノ擁立ヲ決議シ其ノ立候補ニ際リ被告人宮崎與兵衛ハ同月十三日同被告人名義ニテ其ノ推薦届出ヲ爲シタルモノニシテ右選舉ニ際シ被告人等ハ孰レモ選舉人ニシテ被告人鎮目彌作ハ右候補者ノ選舉委員ト爲リタルモノナルモ爾餘ノ被告人等ハ法定ノ選舉運動員ニ非サリシモノナルトコロ

第一 被告人畔上敦忠ハ同月十七日頃同郡倭村小學校ニ於テ右候補者ノ選舉委員保科了介ヨリ同候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金二十圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第三 被告人田中佐右衛門ハ同月二十四日頃肩書居宅ニ於テ右了介ヨリ同候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金二十圓ノ供與ヲ受ケ

第四 被告人幸野儀平ハ

(一) 同月二十一日頃肩書居宅ニ於テ同郡穂高村山浦喜義ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金四十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同日ヨリ同月二十三日頃迄ノ間同村等ニ於テ孰レモ選舉人ナル小林昌司山崎徳太郎及佐藤清ニ對シ同候補者ノ爲投票並投票取纏方ノ依頼ヲ爲シ其ノ費用並報酬トシテ昌司及徳太郎ニ

刑事訴訟法第七十一條及同法第四百五十一條ノ適用



對シ各金五圓清ニ對シ金十五圓ヲ供與シテ選舉運動ヲ爲シ

第五 被告人鎮目彌作ハ

(一) 同月十八日頃同郡中野町ナル候補者ノ選舉事務所ニ於テ候補者ノ選舉事務長頃所實治及選舉委員 西川和  
一ノ兩名ヨリ候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ同日ヨリ同月二十四日頃  
迄ノ間孰レモ同所ニ於テ三回ニ合計金百十五圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 候補補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ其ノ頃右中野町等ニ於テ被告人塚田逸藏同春原威男同大碓角市及孰レ  
モ選舉人ナル春原茂作竹節定吉ニ對シ夫々前同趣旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ費用並報酬トシテ各金十圓ヲ供與シ

第六 被告人塚田逸藏ハ同月二十五日頃右中野町ニ於テ右第五ノ(二)記載ノ如ク被告人鎮目彌作ヨリ前同趣旨ノ依  
頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第七 被告人春原威男ハ同月二十四日頃同郡平穩村ニ於テ前記第五ノ(二)記載ノ如ク被告人鎮目彌作ヨリ前同趣旨  
ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第八 大碓角市ハ同月十六日頃同村ニ於テ前記第五ノ(二)記載ノ如ク被告人鎮目彌作ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ  
之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第九 被告人田中藤太郎ハ

(中略)

(二) 候補補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月二十五日ヨリ翌二十六日迄ノ間同郡平野村ニ於テ被告人山田稔同  
山田彌之助及選舉人山田彌太郎ニ對シ夫々前同趣旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ費用並報酬トシテ被告人稔ニ對シ金二十圓  
被告人彌之助ニ對シ金三圓彌太郎ニ對シ金五圓ヲ各供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第十 被告人山田稔ハ同月二十六日右平野村ニ於テ右第九ノ(二)記載ノ如ク被告人田中藤一郎ヨリ前同趣旨ノ依頼  
ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金二十圓ノ供與ヲ受ケ

第十一 被告人山田彌之助ハ同月二十六日同村ニ於テ前記第九ノ(二)記載ノ如ク被告人田中藤一郎ヨリ前同趣旨ノ  
依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用報酬トシテ金三圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

第十四 被告人若林巳喜太郎ハ

(一) 同月十六日前記中野町旅人宿中野館ニ於テ前記頃所實治ヨリ候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承  
諾シ其ノ費用並報酬トシテ金三十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 候補補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ  
(イ) 同月十九日頃同郡長丘村選舉人青木仁市方ニ於テ同人ニ對シ候補者ノ爲選舉運動方ノ依頼ヲ爲シ其ノ費  
用並報酬トシテ後日應分ノ金員ヲ供與スヘキ旨ノ約束ヲ爲シ

(ロ) 被告人養田信成ト共謀ノ上同月二十日頃肩書居宅ニ於テ選舉人松山治良左衛門ニ對シ前同趣旨ノ依頼ヲ爲  
シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ヲ供與シ

以テ選舉運動ヲ爲シ

第十五 被告人養田信成ハ

(一) 同月十七日頃前記中野町ニ於テ前記頃所實治ヨリ候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費  
用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 候補補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人若林巳喜太郎ト共謀ノ上同月二十日頃同被告人肩書居宅ニ於テ



右第十四ノ(二)ノ(ロ)記載ノ如ク選舉人秋山治良左衛門ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動方ノ依頼ヲ爲シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第十六 被告人小林金五郎ハ同日十九日頃同郡夜間瀬村ニ於テ同候補者ノ選舉運動員畔上古壽ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

第十七 被告人小林繁信ハ同月二十二日頃同村ニ於テ右畔上古壽ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

第十八 被告人淺沼周平ハ同月下旬頃前記長丘村ニ於テ前記保科了介ヨリ同候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第十九 被告人高橋萬壽治ハ前同日頃同村ニ於テ右保科了介ヨリ同候補者ノ爲選舉運動方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金三圓ノ供與ヲ受ケ

第二十 被告人松井貞一ハ前同日頃同村ニ於テ右保科了介ヨリ同候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第二十一 被告人小林俊造ハ同月二十三日頃前記倭村ニ於テ右保科了介ヨリ同候補者ノ爲選舉運動方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金七圓五十錢ノ供與ヲ受ケ

第二十二 被告人田中傳司ハ同月十四日頃平野村ニ於テ同候補者ノ選舉委員坂口文夫ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

第二十三 被告人樋口市次郎ハ同月二十一日頃同郡高丘村ニ於テ右坂口文夫ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

第二十四 被告人小林滿雄ハ同月十七日頃前記中野町ニ於テ右坂口文夫ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十五圓ノ供與ヲ受ケ

第二十五 被告人竹内金治郎ハ  
(一) 同月二十日頃同町ニ於テ右坂口文夫ヨリ同候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同日同町ニ於テ選舉人岸田浩ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動方ノ依頼ヲ爲シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第二十六 被告人原虎久ハ  
(中略)

(三) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月二十一日頃被告人阿部龍藏肩書居宅ニ於テ同被告人ニ對シ同月二十三、四日頃同郡延徳村ニ於テ被告人宮澤惣治郎同梅松卯吉ニ對シ夫々同候補者ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ爲シ其ノ費用並報酬トシテ被告人龍藏ニ對シ金十圓被告人惣治郎同卯吉ニ對シ各金五圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

(中略)  
第二十八 被告人宮澤惣治郎ハ同月二十三、四日頃前記延徳村ニ於テ前記第二十六ノ(三)記載ノ如ク被告人原虎久ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

第二十九 被告人梅松卯吉ハ同月二十三、四日頃同村ニ於テ前記第二十六ノ(三)記載ノ如ク被告人原虎久ヨリ前同趣旨ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ費用並報酬トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)



タルモノニシテ被告人幸野儀平同鎮目彌作同養田信成同竹内金治郎ノ各金錢供與ヲ受ケ各金錢ノ供與ヲ爲シタル所爲  
被告人若林巳喜太郎ノ金錢ノ供與ヲ受ケ金錢ノ供與ヲ爲シ金錢供與ノ約束ヲ爲シタル所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタル  
モノトス

法律ニ照スニ被告人畔上敦忠同田中佐右衛門同山田稔同小林金五郎同小林繁信同淺沼周平同高橋萬壽治同松井貞一同  
小林俊造同塚田逸藏同春原威男同大碓角市同山田彌之助同田中傳司同樋口市次郎同小林滿雄同宮澤惣治郎同梅松卯吉  
ノ各判示所爲ハ孰レモ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當シ被告人幸野儀平同若林巳喜  
太郎同竹内金治郎同養田信成ノ各判示所爲中金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二  
條第一項第四號ニ金錢ノ供與ヲ爲シ金錢供與ノ申込ヲ爲シ又ハ其ノ約束ヲ爲シタル點ハ各府縣制第四十條衆議院議員  
選舉法第一百十二條第一項第一號ニ無資格選舉運動ノ點ハ各府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第  
一項第二百二十九條ニ該當スルトコロ被告人幸野儀平同竹内金治郎同養田信成ノ各金錢ノ供與ト無資格選舉運動被告人  
若林巳喜太郎ノ金錢ノ供與及其ノ供與ノ約束ト無資格選舉運動トハ夫々一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナ  
ルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ夫々重キ各金錢供與ノ申込金錢ノ供與及其ノ供與ノ約束金錢ノ供  
與及其ノ供與ノ申込ノ刑ニ從ヒ之ト各金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲トハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ニ  
則リ一罪ト爲シ被告人鎮目彌作ノ判示所爲中金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二  
條第一項第四號ニ金錢ノ供與ヲ爲シタル點ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ該當スル  
トコロ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニ則リ一罪ト爲シ以上各其ノ所定刑中被告人幸野儀平同鎮目彌作ニ對シ  
各禁錮刑ヲ兩餘ノ被告人等ニ對シ各罰金刑ヲ選擇シ各其ノ刑期又ハ金額範圍内ニ於テ被告人等ニ對シ夫々主文第一、  
四、六項掲記ノ刑ヲ量定シ右罰金ヲ完納スルト能ハサルトキハ各刑法第十八條ニ則リ夫々主文第三、五、七項掲記ノ

期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

### ○主 文

本件ニ付孰レモ事實ノ審理ヲ爲ス

### ○理 由

被告人鎮目彌作辯護人小齋甚治郎上告趣意書第六點原判決ハ其ノ判決書ニ契印ヲ缺キタルモノニシテ  
刑事訴訟法第七十一條第二項同法第四百十條第二十一號ニ該當スル違法アルモノナリ判事カ判決書ヲ  
作成スル場合ニハ刑事訴訟法第七十一條ニ從ヒ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ每葉ニ契印セサルヘ  
カラス蓋シ判決書ニ於ケル每葉ノ契印ハ判事ノ署名捺印ト相俟ツテ判事カ判決書ヲ統一的全體トシテ  
作成シタルコトヲ明ニシ其ノ判決ノ眞實且公正ナルコトヲ保證スルモノニ外ナラス故ニ判決書ニ契印  
ヲ缺クトキハ判決書ハ之カ爲統一性ヲ失ヒ斷片的トナリ其ノ判決ノ眞實ニシテ公正ナルコトヲ保證ス  
ルコトヲ得サルニ至ルヘク刑事訴訟法上判決ノ眞實又ハ其ノ公正ノ保持ヲ必要トスルコトハ他ノ書類  
ト同一ニ論スルコトヲ得サルヤ言フ俟タス之レ刑事訴訟法第四百十條第二十一號ニ於テ判決ニ署名若  
ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキハ常ニ上告ノ理由アルモノト爲シタル所以ナリ讞テ記録ヲ查閱スルニ  
原判決書二十七枚ト二十八枚ノ間即チ原判決ノ事實理由第二十八ノ個所ニ於テ裁判ヲ爲シタル判事ノ  
契印ヲ闕如シタルコト明白ナリ原判決ハ此ノ點ニ於テ刑事訴訟法第七十一條第二項同法第四百十條第



二十一號ニ該當スル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ  
 案スルニ判決書ニハ之ニ關與シタル判事ニ於テ其ノ各葉ニ契印ヲ爲スヘク之ヲ缺ク場合ニ於テハ上告  
 ノ理由アルモノナルコトハ刑事訴訟法第七十一條第二項第四百十條第二十一號ノ規定ニ依リ明瞭ナリ  
 トス仍テ記録ヲ調査スルニ原判決書第二十七葉ト第二十八葉トノ間ニ判事ノ契印ヲ缺クコト洵ニ所論  
 ノ如クニシテ右ノ違法ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルヲ以テ論旨ハ其ノ理由アリ被告  
 人彌作ニ對スル原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス然リ而シテ右論旨ハ被告人鎮目彌作ノ  
 辯護人ノミノ提出ニ係ルモノナルモ右破毀ノ理由ハ適法ニ上告ヲ爲シタル他ノ共同被告人(上告ヲ取  
 下ケタル者ヲ除キ上告趣意書ヲ提出セサル者ヲ包含ス)ニ共通ナルヲ以テ原判決ハ刑事訴訟法第四百  
 五十一條ニ依リ此等被告人ノ爲ニモ亦之ヲ破毀スヘキモノトス  
 仍テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ハ總テ之ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス  
 檢事秋山要關與

【要旨】

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(九)第八四九號  
同年六月八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 正角福太郎 辯護人 益谷秀次

外二名

【第一審】 輪島區裁判所 【第二審】 金澤地方裁判所

○判示事項

檢事ノ控訴趣旨陳述ノ要否

○判決要旨

檢事ノ控訴申立書ノ存在スル場合ニ檢事力第二審公判廷ニ於テ控  
 訴ノ趣旨ヲ陳述セサルモ之ヲ違法ナリト稱スルヲ得サルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第三百四十五條第一項 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問  
 ナ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人正角福太郎ヲ懲役三月ニ被告人谷内與三郎  
 新谷成一ヲ各懲役二月ニ處ス(沒收並追徴ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

檢事ノ控訴趣旨陳述ノ要否



昭和十年九月二十四日施行セラレタル石川縣縣會議員選舉ニ際シ被告人等ハ孰レモ選舉人ナリシモ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモノナルトコト

第一 被告人正角福太郎ハ同年九月二十日居村茶店宮谷方ニ於テ居村小山久太郎ヨリ同選舉ニ同縣鳳至郡ヨリ立候補シタルニ議員候補者中島松雄ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ居村ニ於テ金錢供與ニヨリ投票取集方依頼ヲ受ケ其ノ報酬並投票買收費トシテ金十五圓ノ交付ヲ受ケ

第二 被告人谷内與三郎ハ同年九月二十日居村道路ニ於テ小山久太郎ヨリ右同趣旨ノ依頼ヲ受ケ其ノ報酬並投票買收費トシテ金十圓ノ交付ヲ受ケ

第三 被告人新谷成一ハ犯意ヲ繼續シテ

(一) 同年九月十九日肩書自宅ニ於テ小山久太郎ヨリ右同趣旨ノ依頼ヲ受ケ其ノ報酬並投票買收費トシテ金十圓ノ交付ヲ受ケ

(二) 前記中島候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同月二十三日居村ノ選舉人ナル上平清太郎方屋外道路ニ於テ同人ニ對シ右中島候補者ノ爲投票ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金五十錢ヲ供與シ

(ロ) 同日居村ノ選舉人ナル中谷梅松方附近道路ニ於テ同人ニ對シ右同趣旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金五十錢ヲ供與シ

(ハ) 同月二十四日居村道路ニ於テ居村ノ選舉人ナル稗田源次郎ニ對シ右同趣旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金五十錢ヲ供與シ

(ニ) 同日居村ノ選舉人ナル島清九郎方ニ於テ同人ニ對シ右同趣旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金五十錢ヲ供與シ

(ホ) 同日居村ノ選舉人ナル澁河藤太方屋外道路ニ於テ同人ニ對シ右同趣旨ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金五十錢ヲ供與シ

以テ一面選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人正角福太郎谷内與三郎ノ判示第一及第二ノ各所爲ハ何レモ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號及第五號ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人正角福太郎ヲ懲役三月ニ谷内與三郎ヲ懲役二月ニ各處シ被告人新谷成一ノ判示第三ノ(一)ノ金錢ノ交付ヲ受ケタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號及第五號ニ第三ノ(一)ノ(イ)ノ(ロ)ノ(ハ)ノ(ニ)ノ(ホ)ノ各金錢ノ供與ヲ爲シタル事實ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第一號ニ他面無資格選舉運動トシテ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百九十九條ニ各該當スルトコロ右第三ノ(二)ノ金錢ノ供與ヲ爲シタル點ト無資格選舉運動トハ夫々一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ夫々重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘク之等金錢ノ供與ヲ爲シタル點ト第一ノ金錢ノ交付ヲ受ケタル點トハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニ依リ重キ金錢ノ供與ヲ爲シタル罪ノ一罪トシ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

而シテ原審公判調書ニハ檢事ハ原判決ニ基キ公訴事實ヲ陳述シタリト記載シアルノミニシテ檢事カ控訴申立ノ趣旨ヲ陳述シタル記載ナシ

○ 主 文

檢事ノ控訴趣旨陳述ノ要否



本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人益谷秀次上告趣意書第一點本件記録ヲ調査スルニ第一審判決ニ於テハ被告人福太郎與三郎ヲ各罰金八十圓ニ被告人成一ヲ罰金百圓ニ處シタルニ對シ檢事ハ該判決ヲ失當トシテ控訴ヲ申立テタルモノナリ而シテ檢事ハ第一審判決ノ科刑輕シト思料スル場合ハ勿論被告人ノ利益ノ爲ニモ控訴ヲ申立ツルコトヲ得ルモノナルヲ以テ第二審公判ニ於テハ其ノ冒頭ニ於テ檢事カ控訴ヲ申立テタル趣旨ヲ陳述セサルヘカラサル筋合ナリトス然ルニ原審公判調書ヲ閱スルニ「檢事ハ原判決ニ基キ公訴事實ヲ陳述シタリ」(記録一六〇丁)ト記載シアルノミニシテ檢事カ控訴申立ノ趣旨ヲ陳述シタル事迹ヲ認ムヘキ記録アルコトナク公判手續上違法也トス然ラハ原判決ハ斯ル公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

因テ案スルニ檢事ノ控訴アリタル場合ニ於テ第二審公判ノ手續トシテハ審理ノ始ニ當リ檢事ヨリ控訴ノ趣旨ヲ陳述スルヲ普通トスレトモ刑事訴訟法ニ於テハ第二審公判手續トシテ檢事ヲシテ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘキコトヲ規定スレトモ控訴ノ趣旨ヲ陳述セシムヘキコトヲ規定セサルノミナラス檢事控訴ノ有無ハ檢事ノ控訴申立書又ハ公判廷ニ於ケル控訴ノ口頭申立ニ依リ之ヲ識リ得ヘキヲ以テ檢事ノ控訴申立書ノ存在スル場合ニ檢事カ第二審公判廷ニ於テ控訴ノ趣意ヲ陳述セサルモ之ヲ違法ナリト

【要旨】

稱スルコトヲ得サルモノトス記録ヲ查スルニ被告人等ニ對スル本件縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ付輪島區裁判所カ昭和十年十二月六日言渡シタル有罪判決ニ對シ同裁判所檢事ヨリ科刑輕シトシテ控訴ヲ申立テタル書面存シ原審公判廷ニ於テハ檢事ハ冒頭ニ被告事件ヲ陳述シタル記載アルヲ以テ特ニ控訴ノ理由ヲ釋明セサルモ之ヲ以テ原判決ハ所論ノ如ク違法ノ公判手續ニ基キ審判サレタルモノト稱スルヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○銃砲火藥類取締法施行規則違反被告事件

(昭和十一年(れ)第七八三號  
同年六月十一日第二刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 渡部 愈太 辯護人 手塚 貫一

【第一審】 鶴岡區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ解釋



○判示事項

銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ解釋

○判決要旨

ダイナマイト及工業用雷管ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ適用ニ付テハ同規則第十八條ノ除外例ニ當ラサルモノトス

【參照】銃砲火藥類取締法施行規則第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スル

ハ左ニ掲クル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類

二 爆藥 雷酸鹽ノ類、起爆ノ用途ニ供スル窒化物ノ類、鉛其ノ他ノ起爆劑、ナイトロ

グリセリン及之ヲ主トスル爆發藥、各種ダイナ硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ

主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物ジ、ナイトロ

ナアサリン、ナイトロロメチール、ピクリン酸及之ヲ主トスル混和物

三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、燃管、門管、緩燃導火線一尺ノ燃燒時間十秒速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥

若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス

同第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スヘシ

一 火藥 一貫三百匁以內

二 銃用實包 千箇以內

三 銃用空包 千箇以內

四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莢 二千箇以內

同第二十七條 火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當ス

ル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合

二 一月以內ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥類ニシテ第十七條各號

ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以內ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其

ノ指定シタル安全ノ場所ニ藏置スル場合

三 火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莢ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四十圓ニ處ス右罰金ヲ完納セサルト  
ハハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ解釋



被告人ハ山形縣西田川郡豊浦村大字由良所在ノ炭鑛ヲ所有シ雇人川口常太郎其ノ他ノ従業員ヲシテ其ノ採掘ニ從事セシメ右採掘ニ際シテハ火藥類ヲ使用シ居リタルカ右川口常太郎ハ昭和十年五月二十八日被告人カ該炭山採掘ノ用ニ供スル爲買入レタルダイナマイト五十本工業用雷管三十個ヲ被告人ノ右事業ノ爲同日同炭山ノ事務所ヨリ約一町隔リタル場所ニシテ豫テ被告人ト協議ノ上設備シタル法定ノ火藥貯藏所ニアラサル廢坑内ニ貯藏シ毎日少量持出シ採掘ノ爲消費シ殘部ヲ依然同所ニ貯藏シ押收ノ證第一號ノダイナマイト五本半證第二號ノ工業用雷管四個ハ引續キ同年六月五日迄同所ニ貯藏シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示事實ハ銃砲火藥類取締法第二十一條第十四條第四號銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條第四十五條ニ該當スルヲ以テ銃砲火藥類取締法第二十二條ニ依リ其所定刑中罰金刑ヲ以テ處斷スヘク右金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金四十圓ニ處シ右罰金ヲ完納セサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ金二圓ヲ一日ニ換算シ二十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人平塚貫一上告趣意書原判決ハ判示事實ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條第四十五條ニ該當スル旨斷セラレタルモノ同第二十七條ハ其ノ冒頭ニ示ス通り同上施行規則第十八條各號ノ一ニ該當スルモノハ適用セラレサルモノニシテ同第十八條ニ依レハ其ノ一號ニ火藥一貫三百匁以内ト定メラレシ

レ以上ナラハ格別其ノ範圍内ナルニ於テハ同上第二十七條ハ適用スルニ由ナキモノナルニ不拘原判決ハ被告人ノ使用シタル火藥カ果シテ一貫三百匁以内ナルヤヲ慥メス漫然同上第二十七條ヲ適用シタルハ審理不盡理由不備ノ判決ニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

ダイナマイト及工業用雷管ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ノ適用ニ付テハ同規則第十八條ノ除外例ニ當ラサルモノト解スヘキモノナリ蓋同規則ニ於テハダイナマイトハ爆藥ニシテ火藥ニ非ス又工業用雷管ハ同規則第二十七條ノ三ニ所謂雷管ト區別シテ取扱フヘキモノナルコト同規則第二條第十八條第二十七條ヲ通覽スレハ洵ニ明ナレハナリ原判示ニ依レハ「被告人ハ山形縣西田川郡豊浦村大字由良所在ノ炭鑛ヲ所有シ雇人川口常太郎其ノ他ノ従業員ヲシテ其ノ採掘ニ從事セシメ右採掘ニ際シテハ火藥類ヲ使用シ居リタルカ右川口常太郎ハ昭和十年五月二十八日被告人カ該炭山採掘ノ用ニ供スル爲買入レタルダイナマイト五十本工業用雷管三十個ヲ被告人ノ右事業ノ爲同日同炭山ノ事務所ヨリ約一町隔リタル場所ニシテ豫テ被告人ト協議ノ上設備シタル法定ノ火藥貯藏所ニアラサル廢坑内ニ貯藏シ毎日少量持出シ採掘ノ爲消費シ依然同所ニ貯藏シ押收ノ證第一號ノダイナマイト五本半證第二號ノ工業用雷管四個ハ引續キ同年六月五日迄同所ニ貯藏シタルモノナリ」ト云フニ在ルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條ニ違反スルコト洵ニ明ナリ故ニ原判決ニハ理由不備ノ違法ナシ又記録ニ徵スルニ被告事件ニ對スル審理ハ十分ニシテ盡ササルモノアルヲ見ス論旨理由ナシ



右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事池田克關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(れ)第八二五號  
同年六月十五日第二刑事部判決)

破毀自判

【上告人】

被告人

宇山磯五郎

辯護人

(牧野野  
田中廉芳  
野野男  
廉芳男  
吾

【第一審】

唐津區裁判所

【第二審】

佐賀地方裁判所

○判示事項

年賀狀ノ發送ト選舉運動

○判決要旨

議員候補者タラントスル者力立候補ノ届出前單ニ謹賀新年ト印刷  
シ何等選舉ニ關スル事項ノ記載ナキ年賀狀ヲ選舉人ニ發送スル行  
爲ハ選舉運動ニ非ス

年賀狀ノ發送ト選舉運動



【参照】衆議院議員選舉法第九十五條ノ二、選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ昭和十一年一月二十一日執行セラレタル唐津市市會議員總選舉ニ付同月六日立候補ノ届出ヲ爲シタルモノニシテ其ノ前選舉運動ヲ爲ス資格ナキニ拘ラス昭和十年十二月二十九日頃自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ肩書自宅ニ於テ同人方雇人新脩ニシテ同市西唐津ノ選舉人康川文外約六百名宛ノ年賀狀ヲ作成郵送セシメテ頒布シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示所爲中立候補届出前ノ選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條市制第四十條ニ無資格運動ノ點ハ同選舉法第九十六條第一項第二百二十九條市制第四十條ニ文書頒布ノ點ハ同選舉法第九十八條ノ二第二百二十九條市制第四十條ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情最モ重キ文書頒布ノ所爲ニ付定メタル罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

○理由

辯護人牧野賤男牧野芳夫上告趣意書(一)原判決ハ「被告人ハ昭和十一年一月二十一日執行セラレタル唐津市會議員總選舉ニ付同月六日立候補ノ届出ヲナシタルモノニシテ其ノ前選舉運動ヲ爲ス資格ナキニ拘ラス昭和十年十二月二十九日頃自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ肩書自宅ニ於テ同人方雇人新脩ニシテ同市西唐津ノ選舉人康川文外約六百名宛ノ年賀狀ヲ作製郵送セシメテ頒布シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」ト判示シ立候補届出前ノ選舉運動無資格運動及文書頒布ノ三個ノ犯罪ヲ構成スルモノトセラレタリ然レトモ年賀狀ヲ差出スコトハ主觀的ニ如何ナル目的ヲ有スルモ吾人ノ日常ノ慣習的儀禮ニシテ之ヲ目シテ犯罪行爲ノ遂行トナスハ健全ナル常識ニ反スルコト甚シク寔ニ忍ヒサル所ト云ハサルヘカラスト云ヒ(二)衆議院議員選舉法第九十八條ノ二ニハ「……推薦狀ヲ除クノ外選舉運動ノ爲文書圖畫ヲ頒布スル事ヲ得ス……」ト規定セラルルモ茲ニ所謂文書圖畫トハ文書圖畫ニ表示セラレタルモノノカ客觀的ニ選舉運動ノ爲ナル事カ明瞭ナル場合ヲ指稱スルモノト解セサルヘカラス即チ客觀的ニ選舉運動ノ意味ヲ表示セラレサル年賀狀ノ如キハ包含セラレサルモノト解セサルヘカラス然ルニ原審ハ法規ノ解釋ヲ誤リタルノ違法アリト云ヒ「辯護人田中廉吾上告趣意書第二點原判決ハ其ノ摘示事實ヲ以テ候補者タラントスル者ノ立候補前ノ選舉運動ト認定シ其ノ證據トシテ被告人ニ對スル檢事ノ

年賀狀ノ發送ト選舉運動



昭和十一年一月十四日聽取書中ノ第三項ノ供述ヲ採用シタリ然レトモ凡ソ供述ハ其ノ供述中ノ斷片的  
 供述ノミヲ以テ其ノ眞意ヲ解スヘキニ非ス宜シク其ノ前後ノ供述ヲ考覈シテコソ始メテ其ノ眞意ヲ知  
 ルニ足ルモノナリ原審カ證據トシテ事實認定ニ援用シタル右聽取書ヲ閱スルニ其ノ七項ニ於テ「右年  
 賀狀ニ對シテ返信ノアツタモノカ……云々三十位ヲ大丈夫ト思ツテ立候補届出ヲシタ譯テアリマス」  
 トノ供述記載アリ然ラハ前記聽取書ニ現ハレタル被告人ノ供述ハ昭和十年十二月半頃立候補ノ決意ヲ  
 ナシタルモ其ノ後之ヲ斷念シ年賀狀ニ對スル答禮數ノ如何ニヨリ起否ノ決定ヲナサントシテ年賀狀發  
 信ノ上昭和十一年一月三日以後ニ於テ初メテ其ノ返信數ヲ見タル上立候補スルニ至リタルモノナル事  
 ヲ知ルニ餘リアルモノナリ年賀狀ニ對スル答禮(返信)ハ一月一日以後三、四日頃ニ涉リ之アルハ顯  
 著ノ事ニ屬シ又被告人カ一旦立候補ヲ斷念スルニ至リタル事情ニ付テハ該聽取書ニハ詳カナラサルモ  
 コハ第一、二審ノ公判調書ニヨリ明ナリトス被告人ハ年賀狀發信當時ハ立候補ノ決意ヲ有セス起否如  
 何ノ意思決定ノ資料トナサントシテ年賀狀ノ發信ヲナシタルニ過キス之ヲ以テ立候補前ノ選舉運動ト  
 目スヘキニ非ス要スルニ原判決カ供述ノ前後ヲ顧ミス斷片的供述ヲ執ツテ證據トナシタルハ採證ノ法  
 則ニ違背シタルノ違法アルト共ニ證據ニヨラス事實ノ認定ヲ爲シタルニ歸スルモノトス又原判決カ前  
 敘ノ事實ヲ立候補前ノ選舉運動ト爲シタルハ擬律ヲ誤リタルモノト云フニ在リ  
 按スルニ原判決ハ被告人ハ昭和十一年一月二十一日執行セラレタル唐津市市會議員總選舉ニ付同月六

日立候補ノ届出ヲ爲シタルモノニシテ其ノ前選舉運動ヲ爲ス資格ナキニ不拘昭和十年十二月二十九日  
 頃自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ肩書自宅ニ於テ同人方雇人新脩ニヲシテ同市西唐津ノ選舉人康川文外  
 約六百名宛ノ年賀狀ヲ作製郵送セシメテ頒布シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリト認定シ法律ニ照ス  
 ニ判示行爲中立候補届出前ノ選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條市制第四  
 十條ニ無資格運動ノ點ハ同選舉法第九十六條第一項第二百二十九條市制第四十條ニ文書頒布ノ點ハ同選  
 舉法第九十八條ノ二第二百二十九條市制第四十條ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名  
 ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情最モ重キ文書頒布ノ所爲ニ付定メタル罪  
 ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完  
 納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置  
 スヘキモノトスト判示シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二及第九十八條ノ二ニ所謂選舉  
 運動トシテハ候補者タラントスル者ニ付之ヲ言ヘハ當選ヲ得ヘク投票ヲ得ルニ付直接又ハ間接ニ有利  
 ナル行爲換言スレハ當選ヲ得ル爲ニスル意思ヲ直接又ハ間接ニ表示スル行爲アルコトヲ必要トス而シ  
 テ本件ニ於テ被告人カ唐津市西唐津ノ選舉人約六百名ニ發送シタル年賀狀ニハ單ニ謹賀新年ト印刷シ  
 アリ何等選舉ニ關スル間接又ハ直接ノ言詞アリタルニ非サルコト原判文上竝記録上明白ニシテ斯ル單  
 純ナル年賀狀ヲ發送スルコトハ社交上ノ儀禮ノ範圍ニ止リ之ヲ目シテ當選ヲ得ル爲ニスル意思ヲ表示

## 【要旨】



シタル行爲ナリト認ムルヲ得サルヲ以テ判示被告人ノ行爲ハ之ヲ選舉運動ナリト稱シ難ク又選舉運動ノ爲文書ヲ頒布シタルモノト爲スヲ得サルモノトス然レハ原判示ノ被告人ノ本件行爲ハ何等同法第九十五條ノ二及第九十八條ノ二ニ違反スル所ナク所謂被告事件罪トナラサルモノニシテ論旨ハ此ノ點ニ於テ其ノ理由アルモノトス仍テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○醫師法違反被告事件

(昭和十一年(九)第七〇五號 棄却)  
同年六月十六日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 渡邊 重榮 辯護人 川口由藏

【第一審】 甲府區裁判所 【第二審】 甲府地方裁判所

○判示事項

柔道整復術業者ノレントゲン照射機ノ使用ト醫師法違反

○判決要旨

柔道整復術業者力醫師ノ免許ヲ受ケサルニ拘ラス業トシテレントゲン照射機ヲ使用シテ人ノ負傷若ハ疾患ノ部位ヲ透視シテ骨折ノ有無疾患ノ状態等ヲ診察シタルトキハ醫師法第十一條ノ罪ヲ構成ス

【参照】 醫師法第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

按摩術營業取締規則第五條ノ二 營業者ハ脱臼又ハ骨折ノ患部ニ施術ヲ爲スコトヲ得ス但シ醫師ノ同意ヲ得タル病者ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

同附則第六項 本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲナシ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト

柔道整復術業者ノレントゲン照射機ノ使用ト醫師法違反



能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ柔道整復術業ヲ營ム者ニシテ醫師ノ免許ヲ受ケタルコトナキニ拘ラス昭和七年四月レントゲン照射機ヲ購入シテ被告人肩書ノ住居ニ設置シ同年六月頃ヨリ昭和九年十二月下旬頃マテノ間ニ山梨縣北巨摩郡葦崎町青木まつよカ右手掌ニ縫針ヲ刺シ其ノ一部カ身體内ニ殘留シタルニ對シ該照射機ヲ用ヒ其ノ所在ヲ檢シテ診察シ又同郡更科村岩下高三外八名ニ對シ該照射機ヲ用ヒテ其ノ負傷若クハ疾患ノ部位ヲ透視シテ骨折ノ有無疾患ノ狀態等ヲ診察シ之カ料金ヲ取得シテ以テ醫業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ醫師法第十一條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ罰金刑ヲ選擇シ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用(原審ニ於テ生シタルモノ)ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ其ノ全部ヲ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

### ○理 由

辯護人川口由藏上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ柔道整復術業者ナル診療有資格者ナルコトヲ認ムルニ拘ラス被告人カ「レントゲン」照射機ヲ使用シテ患者ノ負傷若クハ疾患ノ部位ヲ透視シテ骨折ノ

有無疾患ノ狀態等ヲ診察シ之カ料金ヲ取得シタリトノ事實ヲ認定シ之ニ對シ醫師法第十一條第一項ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ柔道整復術ナルモノハ打撲捻挫脱臼及骨折等ノ負傷若クハ疾患ニ對シ之カ整復ヲ爲ス一種ノ治療行爲ニシテ柔道整復術業者ナル資格ハ法規ニ從ヒ一定ノ専門的試験ニ合格シタル者ニ對シ免許セラルルモノナリ故ニ柔道整復術業者カ打撲捻挫脱臼及骨折等ノ負傷若クハ疾患ニ對シ業トシテ整復治療ノ施術ヲ爲スコトハ適法行爲ナリ從ツテ疾患治療ニ着手スル必須的前提行爲タル疾患狀況ノ適正ナル認識ヲ得ル行爲即チ診察ヲ爲スコトハ適法ナル治療行爲ニ包含セラレ治療行爲ニ必要ナル範圍ニ於テハ業トシテ診察ヲ爲スコトモ亦適法行爲ナリト解スルヲ相當トス本件ニ於テ被告人カ岩下高三外八名ニ對シ「レントゲン」照射機ヲ用ヒ其ノ負傷若クハ疾患ノ部位ヲ透視シテ骨折ノ有無疾患ノ狀態等ヲ診察シタリトノ事實ニ對シ原判決ハ之ヲ直チニ醫業即チ醫師ニ專屬スル行爲ナリト裁斷シタルモノナレトモ或ル診察行爲カ被告人ノ如キ診療有資格者ニヨリテ爲サル場合ニ於テモ尙醫師法違反ナリト斷スルニハ當該診察行爲カ如何ナル理由ニ依リ柔道整復術者ノ適法診察ノ範圍ヲ逸脱スルモノナリヤヲ具體的ニ判示認定スルコトヲ要シ然ラサレハ判決ニ理由ヲ附セサルノ違法存スルモノト云ハサルヘカラス原判決ハ「レントゲン」照射機ヲ使用シ患部ヲ透視シテ症狀ヲ認識判斷シタル行爲ヲ以テ當然ニ醫師ニ專屬スル診察行爲ト爲スモノノ如ク解セラルルモ凡ソ「レントゲン」機ト概稱スルモ「レントゲン」照射機ニハ輕重多樣ノ種類アリテ其ノ機構設計ニ從ヒ高



歴多量ノ電力ヲ要スル機能複雑ニシテ強力ナル治療用ノモノアリ又低壓少量ノ電力ニテ足ル機能單純ナル透視乃至寫眞撮影専用ノモノアリテ前者ニ在リテハ之レカ使用ニ特別ナル智識技能ヲ要シ其ノ操作ノ適正ヲ誤ルトキハ人體ニ危害ヲ生スル惧ナキニアラサルヘキモ後者ニ在リテハ「ラデオ」又ハ電熱器ト同等ナル程度ノ輕易ナル電機ニシテ其ノ操作ニ格別ノ智識技能ヲ必要トセス其ノ效果ニ於テモ微力ニシテ何等人體ニ危害ヲ生スルノ虞ナキモノナルコトハ顯著ナル事實ナリ原判決ニ採用シタル鑑定人吉岡榮一作成ノ鑑定書ノ記載ニ依レハ「レントゲン」機ノ使用ニ際シテハ必常醫學的智識ヲ必要トスルコトヲ認メ得ルモ柔道整復術者ト雖適法ナル診療有資格者トシテ人體ノ構造及主要器官ノ機能ニ付キテハ十分ノ智識ヲ有シ又整復治療ノ目的トナル身體各部殊ニ骨系統ノ疾患ニ付キテハ實踐的ノ臨床智識ヲ具有スルモノニシテ即チ診療ニ必要ナル醫學的智識ヲ具フルモノナルコトハ柔道整復術者ノ資格檢定ニ關スル法規ニ照シ之ヲ明認シ得ル所ナリ又本件「被告人方所在ノ「レントゲン」裝置ハ最モ簡單ナル設備ヲ爲セルモノ」ナルコトハ右鑑定書ノ記載ニ徴シ之レヲ認メ得ル處ナリ故ニ以上ノ事實ヲ綜合スルニ何等診療ニ付キ適法ナル資格ヲ有セサル者ニ付キ審理セラルル場合ハ格別本件被告人ノ如ク適法ナル診療有資格者ニ於テ「最モ簡單ナル「レントゲン」裝置」ヲ使用シ適法ニ診療ヲ爲シ得ル骨折脱臼等ノ疾患部位ヲ透視シ其ノ疾患狀況ヲ明確ニ認識判斷スル診療行為ニ付科罰的審理裁判ヲ爲スニ當リテハ具體的ニ被告人使用ノ「レントゲン」機ノ機能程度ヲ判示シ且如何ナル理由ニ

ヨリ當該「レントゲン」機ノ使用カ被告人ノ爲シ得ル診療適法行為ノ範圍ヲ逸脱スルモノナリヤヲ判示スルニ非サレハ判決ニ適法ナル理由ヲ附シタリト云フ能ハサルモノトス右鑑定書ニハ「レントゲン」機ノ電機的危險ヲ強調スル處アルモ電機操作上ノ智識技能ハ醫學的智能ニアラスシテ電氣的智能ナリ當今一般ニ電氣的智識普及シ居ル事實ニ徴シ本件被告人ノ「レントゲン」機ノ如ク最モ簡單ナル裝置ニ在リテハ鑑定人ノ危險視スル如キモノニ非サルコトモ亦賭易キ處ナリ其ノ他右鑑定書ノ記載ニ依リテハ未タ以テ本件被告人ノ如ク柔道整復術者トシテ適法ナル診療資格ヲ有スル者カ最モ簡單ナル「レントゲン」裝置ヲ使用シテ治療ニ必要ニシテ且適切ナル患部透視ヲ爲スコトカ何故醫師法違反トナル程度ノ違法行為トナルヤ否ヤヲ推認シ得ル資料トスルニ足ラサルモノトスト云フニ在リ

仍テ案スルニ柔道整復術業ヲ營ム者ハ打撲捻挫脱臼及骨折ニ對シテ柔道整復ノ術ヲ行ヒ得ヘク從テ整復術ノ對象タル打撲骨折等ノ有無ニ付キ認識アルコトヲ要シ其ノ認識ヲ得ル爲ニ一定ノ行為ヲ爲シ得ルコトハ洵ニ所論ノ如クナルモ其ノ爲シ得ル行為ハ人體ニ危險ナキ行為ニ限ルヘキモノニシテ一般醫學上ノ智識ナキ者ニ於テ使用スルトキハ人體ニ危險ヲ及ホス虞アル設備ヲ使用スル如キハ法ノ許ササル所ナリト解スルヲ相當トス蓋シ按摩術營業者カ脱臼又ハ骨折ノ患部ニ施術ヲ爲スニハ醫師ノ同意ヲ得タル病者ニ限ルヘキ旨ノ按摩術營業取締規則第五條ノ二ノ規定カ同附則末項ニ依リ打撲捻挫脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ準用セラルル點ヨリスルモ敍上ノ法意ヲ推斷シ得ヘシ而シテ柔道整復



【要旨】

術ヲ營ム者ハ一般醫學上ノ智識ヲ有セサルヲ通常トスルカ故ニ醫師ノ免許ヲ受ケスシテ敍上ノ如キ人、體ニ危険ナル設備ヲ使用シテ骨折ノ有無等ヲ診察シタルトキハ醫師法第十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス原判決ニ依レハ被告人ハ柔道整復術ヲ營ム者ニシテ醫師ノ免許ヲ受ケクルコトナキニ拘ラス判示日時場所ニ於テ青木まつよカ右手掌ニ縫針ヲ刺シ其ノ一部カ身體内ニ残留シタルニ對シレントゲン照射機ヲ用ヒ其ノ所在ヲ檢シテ診察シ又岩下高三外八名ニ對シ該照射機ヲ用ヒテ其ノ負傷若ハ疾患ノ部位ヲ透視シテ骨折ノ有無疾患ノ狀態等ヲ診察シ之カ料金ヲ取得シタルモノニシテ而シテ右レントゲン照射機ノ使用ニ付テハ醫學的智識ヲ必要トシ其ノ智識ナクシテ之ヲ使用スルトキハ人體ニ危険ナルコトハ原判決援用ノ鑑定書ノ記載ニ徴シ明白ナルカ故ニ判示行為ハ醫師法第十一條ノ罪ヲ構成スルモノト謂フヘク從テ原判決カ之ヲ同罪ヲ以テ間擬シタルハ洵ニ正當ニシテ且原判示ハ敍上ノ如クナルヲ以テ原判決ハ同罪ノ判示トシテ何等缺クル所ナシ要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

○恐喝被告事件 (昭和十一年(れ)第四六一號  
同年六月十八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 末村甚之助 辯護人

江橋活三郎  
赤山幸夫  
池田和夫  
菅野勘助  
外三名

【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

數人ノ順次通謀ト共同正犯

○判決要旨

同一恐喝罪ヲ犯スコトニ付數人順次通謀シ其ノ内ノ一人カ之ヲ實行シタルトキハ全部共同正犯ヲ以テ論スヘキモノトス

【參照】 刑法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス  
同法第二百四十九條第一項 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

數人ノ順次通謀ト共同正犯



## ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人及相被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

相被告人早川小太雄ハ嘗テ永ク株式會社中井商店名古屋支店員トシテ洋紙類販賣ノ業務ニ從事シ居タルトコロ大正十三年株式會社大同洋紙店創立セララルニ當リ同店ニ轉シ爾來其ノ東京支店ニ販賣係トシテ勤務シ來リタルカ昭和五年三月中自己ノ都合ニ依リ同店ヲ辭職スルニ際シ退職手當トシテ金千圓ヲ給與セラレタルトコロ同被告人ハ右會社創立當時ヨリ功勞勲カラサリシトコロヨリ之ヲ以テ少額ニ過クルモノト爲シ不滿ノ念ヲ抱キ同會社ニ對シ其ノ増額方ヲ申出テタルモ拒絕セラレタルヨリ之ヲ不快ニ思ヒ偶々同被告人カ同會社ニ在職中會社ニ於テハ、樺太工業株式會社ヨリノ所謂委託販賣品ヲ往々兩社間ノ協定價格ヲ無視シテ高價ニ販賣スルコトアリ其ノ場合協定價格ト現實販賣價格トノ二様ノ賣上傳票ヲ作成シ居タル事實ヲ想起シ之ヲ以テ右兩會社ノ重役等カ共謀ノ上委託販賣品ノ賣價ヲ詐リ虚偽ノ賣上傳票ヲ作成シテ差金ヲ着服シ數年間ニ互リ多額ノ不正利得ヲナシ居ルモノトナシ昭和五年十一月中旬頃前示樺太工業株式會社ノ副社長兼大同洋紙店相談役タル田中榮八郎樺太工業株式會社專務取締役兼大同洋紙店監査役タル長谷川太郎吉外數名ノ會社重役ニ對スル前示不正事實ニ關スル告訴狀様式ノ書類ヲ作成シタルモ告訴ハ之ヲ見合セ寧ろ他人ヲ介シテ會社ニ對シ相當金員ヲ要求スルコトヲ依頼シ會社ニ交渉スル者ニ於テ會社ニ關スル右事實ヲ了知スルヨ良方法ナリト思惟シ以テ交付ヲ受ケタル者ニ於テ會社ニ對シ此ノ事實ヲ告ケンニハ會社カ畏怖シテ要求ニ應スルコトアルヘキ事情ヲ當然感知シタルニモ拘ラス其ノ頃之ヲ原審相被告人江崎陸三郎ニ交付シ同人ニ意中ヲ告ケ其ノ協力ヲ求メ

タルヨリ江崎ハ之ヲ諒承シ被告人末村甚之助ニ其ノ意ヲ通シテ適任者ヲ物色シテ會社側ニ交渉シテ金員ヲ交付セシムヘキ旨依頼ノ上右書類ヲ交付シ被告人末村ハ之ヲ諒承シテ相被告人荒牧退助ニ前示會社重役等ニ對シ右不正事實ヲ種ニ出金ノ交渉ヲナスヘキコトヲ依頼シテ前示書類ヲ交付シ原審相被告人江崎陸三郎被告人末村甚之助及相被告人荒牧退助ニ於テモ執レモ相被告人早川小太雄ト同様斯ル事實ヲ會社ニ告グルニ於テハ會社カ畏怖シテ要求ニ應スルコトアルヘキ事情ヲ察知シ茲ニ被告人等三名及原審相被告人江崎陸三郎ハ順次其ノ意ヲ通シテ共謀シ相被告人荒牧ハ同年十一月二月上旬頃ヨリ數回ニ互リ東京市麹町區丸ノ内一丁目二十一番地樺太工業株式會社其ノ他ニ於テ前示田中榮八郎長谷川太郎吉及大同洋紙店東京支店長高増福藏等ト會見ノ上同人等ニ對シ早川ノ探知シタル會社重役等ノ前示不正事實ノ内容ヲ告ケ且之ニ關スル書類等ヲ示シ早川ノ救済金トシテ金五萬圓ヲ給與セラレ度ク若シ該金員ヲ提供セサルニ於テハ或ハ該不正事實ノ社會ニ公表セララルヘキ處アルカ如キ態度ノ下ニ交渉シ因テ田中等ヲシテ若シ出金ヲ肯セサルニ於テハ右不正事實ノ社會ニ公表セラレ前示會社及重役カ名譽信用並財產上多大ノ損害ヲ受クヘキコトヲ危懼セシメ餘儀ナク其ノ要求ヲ容ルルノ決意ヲ爲サシメ同月二十二日前示樺太工業株式會社ニ於テ同會社山林課長高梨耕弊ヨリ荒牧ニ對シ大同洋紙店ノ出金ニ係ル金二萬五千圓ヲ交付セシメタル上該金ヲ被告人等三名及原審相被告人江崎陸三郎ニ於テ順次分割取得シ以テ恐喝ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人末村甚之助ノ判示所爲ハ刑法第二百四十九條第一項第六十條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役十月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項及同法第二百三十八條ニ則リ被告人及相被告人等ヲシテ連帶シテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

## ○主 文

數人ノ順次通謀ト共同正犯



本件上告ハ之ヲ棄却ス

八〇八 (一四)

○理由

辯護人 江橋活郎 秋山高三郎 池田和夫 菅野勘助 金石一雄 上告趣意書第二點原審判決ニハ被告人ニ對シ共同正犯トシテ刑法第六十條ヲ適用シタル點ニ於テ擬律ノ錯誤存ス本件ノ犯行カ相被告人ノ荒牧退助ニ依テ著手セラレ同人ニ依テ遂行セラレタルコト及其ノ間被告人ノ何等之ニ加工スルトコロナカリシコトハ原審判決ノ判示自體ニ徵シテ明白ナリトス然ラハ本件ニ於テ犯行ニ加工スルノ餘地ハ通常存セサルトコロナリ只若シ恐喝罪ヲ以テ智能犯ナリト解スルニ於テハ犯罪ノ謀議ニ參與スルノ餘地存スト爲シ得ヘキノミナリ然リ而シテ原審判決ノ判示ニ據レハ其ノ犯行自體竝犯行ノ手段共ニ原審相被告人早川小太雄ニ於テ決定シタル後之ヲ第一審相被告人江碕陸三郎ニ通シ被告人ハ江碕陸三郎ヨリ其ノ實行ノ衝ニ當ルヘキ適任者ノ物色ヲ依頼セラレ之ヲ物色シタルニ過キサルト明ニシテ被告人ハ決シテ犯罪ノ謀議ニ參與シタルモノニ非ス斯ノ如ク被告人ハ本件犯行ニ對シテ精神的加工者ニ非ス又身體的加工者ニモ非サルヲ以テ教唆犯從犯等ノ責任アルハ格別共同正犯者トシテノ責任ヲ負フヘキモノニ非サルカ故ニ之ニ刑法第六十條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ト爲ササルヲ得スト云ヒ」辯護人江橋活郎赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由中「被告人早川小太雄ハ(中略)昭和五年十一月中旬頃樺太工業株式會社ノ副社長兼大同洋紙店相談役タル田中榮八郎樺太工業株式會社事務取締役兼大

同洋紙店監査役タル長谷川太郎吉外數名ノ會社重役ニ對スル不正事實ニ關スル告訴狀様式ノ書類ヲ作成シタルモ告訴ハ之ヲ見合セ寧ろ他人ヲ介シテ會社ニ對シ相當金員ヲ要求スルコトヲ依頼シ會社ニ交渉スル者ニ於テ會社ニ關スル右事實ヲ了知スルヲ良方法ナリト思惟シ以テ交付ヲ受ケタル者ニ於テ會社ニ對シ此ノ事實ヲ告ケンニハ會社カ畏怖シテ要求ニ應スルコトアルヘキ事情ヲ當然感知シタルニモ拘ラス其ノ頃之ヲ原審相被告人江碕陸三郎ニ交付シ同人ニ意中ヲ告ケ其ノ協力ヲ求メタルヨリ江碕ハ之ヲ諒承シ被告人末村甚之助ニ其ノ意ヲ通シテ適任者ヲ物色シテ會社側ニ交渉シテ金員ヲ交付セシムヘキ旨依頼ノ上右書類ヲ交付シ被告人末村ハ之ヲ諒承シテ被告人荒牧退助ニ前示會社重役等ニ對シ右不正事實ヲ種ニ出金ノ交渉ヲナスヘキコトヲ依頼シテ前示書類ヲ交付シテ原審相被告人江碕陸三郎被告人末村甚之助及同荒牧退助ニ於テモ孰レモ被告人早川小太雄ト同様斯カル事情ヲ會社ニ告クルニ於テハ會社カ畏怖シテ要求ニ應スルコトアルヘキ事情ヲ察知シ茲ニ被告人等三名及原審相被告人江碕陸三郎ハ順次其ノ意ヲ通シテ共謀シ被告人荒牧ハ同年十二月上旬頃ヨリ數回ニ互リ東京市麴町區丸ノ内一丁目二十一番地樺太工業株式會社其ノ他ニ於テ前示田中榮八郎 長谷川太郎吉及大同洋紙店東京支店長高増福藏等ト會見ノ上同人等ニ對シ早川ノ探知シタル會社重役等ノ前示不正事實ノ内容ヲ告ケ且之レニ關スル書類等ヲ示シ早川ノ救濟金トシテ金五萬圓ヲ給與セラレ度若シ該金員ヲ提供セサルニ於テハ或ハ該不正事實ノ社會ニ公表セラルヘキ虞アルカ如キ態度ノ下ニ交渉シ因テ田中等ヲシテ若シ

數人ノ順次通謀ト共同正犯

八〇九 (一五)



出金ヲ肯セサルニ於テハ右不正事實ノ社會ニ公表セラレ前示會社及重役カ名譽信用竝財產上多大ノ損害ヲ受クヘキコトヲ危惧セシメ餘儀ナク其ノ要求ヲ容ルルノ決意ヲナサシメ同月二十二日前示樺太工業株式會社ニ於テ同會社山林課長高梨耕弊ヨリ荒牧ニ對シ大同洋紙店ノ出金ニ係ル金二萬五千圓ヲ交付セシメタル上該金ヲ被告人等三名及原審相被告人江崎陸三郎ニ於テ順次分割取得シ以テ恐喝ノ目的ヲ遂ケタルモノナリト判示シ刑法第二百四十九條第一項第六十條ヲ適用處斷シタリ然レトモ右判示スル處ニ依レハ「田中榮八郎 長谷川太郎吉及高増福藏等ニ對シ金員ノ交付ヲ求メ若シ該金員ノ提供ナキニ於テハ或ハ不正事實ノ社會ニ公表セラルヘキ虞アルカ如キ態度ノ下ニ交渉シ」タル者ハ荒牧退助一人ニシテ上告人末村甚之助ハ唯單ニ江崎ノ依頼ヲ受ケタルヨリ右荒牧ニ對シ適任者ヲ物色シテ會社側ニ交渉シテ金員ヲ交付セシムヘキ旨依頼シタルニ止マリ其ノ後荒牧ニ於テ如何ナル方法ニヨリテ判示金員ノ交付ヲ受ケタルヤラスラ之ヲ知ラサルモノナリ左レハ本件カ恐喝取財罪ヲ構成スルモノトセハ或ハ教唆犯トシテ或ハ幫助犯トシテ責任ヲ負フコトアルヘキハ格別刑法第六十條ニヨル共同正犯タル責任ヲ負フヘキモノニアラスト信ス(若シ斯ル場合モ共同正犯トスルニ於テハ刑法ニ所謂教唆從犯等ノ規定ハ全ク無用ノモノトナルヘシ)然ルニ原判決カ上告人甚之助ヲ以テ共同正犯ナリトシテ刑ヲ科シタルハ理由齟齬ノ違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ハ早川小太雄ハ株式會社大同洋紙店員ナリシ處其ノ辭職スル際支給セラレタル退職手當金千圓ヲ寡額ナリトシ増額ヲ申出テタルモ之ヲ拒絕セラレタルヲ不快ニ思ヒ同會社重役等カ樺太工業株式會社トノ委託販賣品ニ關シ協定價格ト現實販賣價格トノ二様ノ賣上傳票ヲ作成シ以テ兩會社ノ重役等カ共謀ノ上差金ヲ著服シ數年間ニ互リ多額ノ不正利得ヲ爲シ居ルモノト爲シ同重役等ニ對スル不正事實ニ關スル告訴狀様式ノ書類ヲ作成シタルモ告訴ハ之ヲ見合セ他人ヲ介シテ同重役等ノ不正行爲ヲ種ニ會社ニ對シ相當金員ノ要求ヲ依頼スルコトトシ右書類ヲ江崎陸三郎ニ交付シ其ノ意中ヲ告ケ同人ノ協力ヲ求メタル處江崎ハ之ヲ諒承シ被告人末村甚之助ニ其ノ意ヲ通シ適任者ヲ物色シテ會社側ニ交渉シ金員ヲ交付セシムヘキコトヲ依頼シ右書類ヲ同被告人ニ交付シ被告人末村ハ之ヲ諒承シテ荒牧退助ニ對シ右不正事實ヲ種ニ會社重役等ニ對シ出金ノ交渉ヲ爲スヘキコトヲ依頼シテ前記書類ヲ交付シ右早川 江崎 末村 荒牧ノ四名ハ何レモ斯ル事實ヲ會社重役ニ告クルニ於テハ畏怖ノ結果出金ノ要求ニ應スヘキ事情ヲ察知シ茲ニ右四名ハ順次其ノ意ヲ通シテ共謀シ荒牧ハ右會社重役等ト會見ノ上同人等ニ對シ早川ノ探知シタル會社重役等ノ不正事實ノ内容ヲ告ケ之ニ關スル書類等ヲ示シ早川ノ救濟金トシテ金五萬圓ヲ給與セラレタク若シ該金員ヲ提供セサルニ於テハ右不正事實ノ社會ニ公表セラルヘキ虞アルカ如キ態度ノ下ニ交渉シ因テ重役等ヲシテ若シ出金ヲ肯セサルトキハ會社重役ノ名譽信用竝財產上多大ノ損害ヲ受クヘキコトヲ危惧セシメ其ノ要求ヲ容ルルノ決意ヲ爲サシメタル結果金二萬五千



【要旨】  
 圓ヲ交付セシメタル上被告人等四名ハ順次分割取得シタル事實ヲ認定シタルモノニシテ斯ノ如ク被告人等四人カ順次二人宛共謀シタル場合ニ於テハ其ノ一人ハ他ノ一人ヲ通シテ順次通謀シ結局四人共謀シタルモノト謂フヘク即被告人等ハ共謀シテ荒牧ヲシテ實行ノ任ニ當フシメ因テ共同ノ犯意ヲ實行シタルモノト爲スヘキヲ以テ原判決カ被告人等四人ヲ總テ恐喝罪ノ共同正犯トシテ處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤又ハ理由齟齬ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事棚町丈四郎關與

○商標法違反被告事件(昭和十一年(九)第九二九號  
同年六月十八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 木村熊太郎 辯護人 鈴木義夫  
外二名 北村利夫  
 【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

商標法第三十四條第一號ノ犯罪ト欺罔行爲——同罪ト模造行爲

○判決要旨

- 一 商標法第三十四條第一號違反ノ罪ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ販賣スルコトニヨリ成立シ相手方ヲ欺罔シテ不正ノ利益ヲ得ルコトヲ要件トセス【要旨第一】
- 二 商標法第三十四條第一號ノ罪ハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者自身ニ於テ商品ヲ模造シタルコトヲ要件トセス【要旨第二】

【參照】 商標法第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者
- (中略)
- 三 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムル目的ヲ以テ偽造又ハ模造シタル者

(以下省略)  
 商標法第三十四條第一號ノ犯罪ト欺罔行爲 同罪ト模造行爲



○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人木村熊太郎 今井田由次郎 ヲ各罰金二百圓ニ被告人尾崎與三ヲ罰金百五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間之ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ英國ロンドン市ソーホー街二十番地所在クロス・アンド・ブラツクウエル株式會社(俗稱シー・ビー會社)ノ製造販賣ニ係ル俗ニ「シービー」カレー粉ト稱セラルルカレー粉ノ容器ニ表示シアル「シー・アンド・ビー」(C&B)ナル商標カ同會社ニ於テ該商品ニ付帝國政府ノ登録ヲ受ケ居ルモノナルコトヲ知り乍ラ秋池三郎等ニ於テ國產カレー粉ノ一封度罐入製品ニ擅ニ右登録商標ト同一ノ商標ヲ使用シ其ノ容器ノ外觀ヲ「シービー」カレー粉ノ一封度罐入製品ニ酷似セシメテ造リタル模造品ヲ其ノ情ヲ知リテ販賣セムコトヲ企テ

第一 被告人木村熊太郎ハ昭和八年二月二日頃ヨリ同年三月四日頃迄ノ間約十回ニ互リ東京市芝區新橋二丁目二番地ノ三號ナル被告人今井田由次郎方外數個所ニ於テ同被告人外數名ニ對シ前記模造品合計約百六十七打ヲ販賣シタル外其ノ頃肩書居宅ニ於テ前記模造品約七十八打ヲ販賣ノ目的ヲ以テ所持シ

第二 被告人今井田由次郎ハ昭和七年九月二十七日頃ヨリ昭和八年四月四日頃迄ノ間二十一回ニ互リ同市神田區五軒町二十二番地能登勇方等ニ於テ同人外十餘名ニ對シ前記模造品約百七十七打四罐ヲ販賣シタル外其ノ頃同市芝區新橋二丁目二番地ノ三號ナル當時ノ居宅ニ於テ前記模造品約八打八罐ヲ販賣ノ目的ヲ以テ所持シ

第三 被告人尾崎與三八昭和八年二月二日頃ヨリ同年四月十八日頃迄ノ間約十回ニ互リ前記能登勇方等ニ於テ同人外數名ニ對シ前記模造品約八十六打ヲ販賣シタル外其ノ頃肩書居宅ニ於テ前記模造品約六十打ヲ販賣ノ目的ヲ以テ所

持シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ孰レモ商法第三十四條第一號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人木村及今井田ヲ各罰金二百圓被告人尾崎ヲ罰金百五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間之ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人鈴木義男北村利夫上告趣意書第三點原判決ハ「被告人等ハ英國ロンドン市ソーホー街二十番地所在クロス・アンド・ブラツクウエル株式會社(俗稱シー・ビー會社)ノ製造販賣ニ係ル俗ニ「シービー」カレー粉ト稱セラルルカレー粉ノ容器ニ表示シアル「シー・アンド・ビー」(C&B)ナル商標カ同會社ニ於テ該商品ニ付帝國政府ノ登録ヲ受ケ居ルモノナルコトヲ知り乍ラ秋池三郎等ニ於テ國產カレー粉ノ一封度罐入製品ニ擅ニ右登録商標ト同一ノ商標ヲ使用シ其ノ容器ノ外觀ヲ「シービー」カレー粉ノ一封度罐入製品ニ酷似セシメテ造リタル模造品ヲ其ノ情ヲ知リテ販賣セムコトヲ企テ第一 被告人木村熊太郎ハ昭和八年二月二日頃ヨリ同年三月四日頃迄ノ間約十回ニ互リ東京市芝區新橋二丁目二番地ノ三號ナル被告人今井田由次郎方外數個所ニ於テ同被告人外數名ニ對シ前記模造品合計



約百六十七打ヲ販賣シタル外其ノ頃肩書居宅ニ於テ前記模造品約七十八打ヲ販賣ノ目的ヲ以テ所持シ  
 第二、被告人今井田由次郎ハ昭和七年九月二十七日頃ヨリ昭和八年四月四日頃迄ノ間二十一回ニ互リ  
 同市神田區五軒町二十二番地能登勇方等ニ於テ同人外十餘名ニ對シ前記模造品約百七十七打四罐ヲ販  
 賣シタル外其ノ頃同市芝區新橋二丁目二番地ノ三號ナル當時ノ居宅ニ於テ前記模造品約八打八罐ヲ販  
 賣ノ目的ヲ以テ所持シ第三、被告人尾崎與三ハ昭和八年二月二日頃ヨリ同年四月十八日頃迄ノ間約十  
 回ニ互リ前記能登勇方等ニ於テ同人外數名ニ對シ前記模造品約八十六打ヲ販賣シタル外其ノ頃肩書居  
 宅ニ於テ前記模造品約六十打ヲ販賣ノ目的ヲ以テ所持シ……タルモノナリ」ト判示シ以テ被告人等ヲ  
 商標法違反罪ニ問擬シタリ然レ共カレ「粉ソノモノハ特許品ニ非サルカ故ニ何人カ之ヲ製造スルモ他  
 人ノ權利ノ侵害トナルモノニアラサルコト明ナリ問題ハ類似ノ商標ヲ附シタル商品ノ取次販賣カ商標  
 法第三十四條第一號違反トナルヤ否ヤニ存ス而シテ被告人等カ右商標カ日本ニ於テモ登録ヲ受ケ居ル  
 モノナルコトニ付テノ認識ナカリシコトハ第一點摘示ノ如ク又商標カ原商標ト必スシモ完全ニ同一又  
 ハ類似セリト斷スヘカラサルコト第二點摘示ノ如クナレ共之等ノ點ヲ暫ラク措クトスルモ被告人等ハ  
 該商標ヲ自ラ模造シタルモノニ非ス又原審公判ニ於テ述ル如ク顧客取引先ヲ欺罔シテ模造品ヲ眞正品  
 ナリトシテ交付シ眞正品ト同一ノ對價ヲ領得シテ不正ノ利ヲ圖リタルニモ非ス孰レモ該品カ模造品タ  
 ルコトヲ告ケテ模造品相當ノ値段ヲ以テ賣買シタルニ過キス抑モ商標法第三十四條第一號ニハ「他人

ノ登録商標ト同一若クハ類似ノ商標ヲ同一若クハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ販  
 賣シ若クハ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者」ト規定シアリテ措辭稍曖昧ナレ共之ヲ立法ノ趣旨ト照  
 合シテ考察スルトキハ同條同號カ目的トスル所ハ他人ノ商標ヲ模造シ之ヲ使用スル者及之ヲ自ラ使用  
 シタル商品ヲ交付販賣所持スル者ヲ處罰シ以テ商標登録權者ノ權利ヲ侵害スルコトヲ防止セントスル  
 モノタルコト明ナリ文理解釋トシテモ「又ハ」以下ノ行爲者ハ前段ノ行爲者ト同格タルコトヲ豫定ス  
 ルモノナリ即チ同條同號ノ目的トスル所ノモノハ原始模造者ニシテ既ニ模造セラレタルモノヲ取次販  
 賣スルカ如キ者ヲ包含セサルコト明ナリトス之ヲ事實ニ照スモ同條同號カ凡テノ轉得轉賣者ヲモ包含  
 スルモノトセンカ其ノ數無限ナリト云フヘク到底之ヲ網羅シ得ヘキモノニ非ス現ニ本件ニ於テモ大多  
 數ノ轉賣者ハ不問ニ附セラレタルヲ以テモ知ルヘシ之ヲ立法例ニ照スモ我母法タル獨逸商標法ニ於テ  
 モ英國商標法ニ於テモ刑罰ヲ以テ臨ムハ之等原始模造者ニ限リ轉賣者ニ對シテハ別ニ不正競争防止法  
 ニヨルカ民事上ノ損害要償ノ手段ヲ採ラシムルニ止マル本件被告人等ノ所爲ノ如キ我國ニ於テモ現行  
 不正競争防止法施行後ノ事案ナリトセハ當然此ノ適用ヲ受クヘカリシモ本件ハ施行前ノ所爲トシテ普  
 通私法ノ下ニ規制セラルヘキモノト信ス殊ニ商標權保護ノ立法趣旨ニ鑑ミルモ同法ノ規定ハ登録商標  
 使用ノ商品ノ信用ヲ害シ登録商標權者ノ權利ヲ侵害スルコトヲ防止セムカタメ其ノ侵害者ヲ處罰スル  
 ニ在リテ其ノ侵害者カ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シテ作成シタル商品ヲ販賣又ハ所



持スルトスルモ該商品ヲ模造品トシテ情ヲ告ケテ販賣スルニ於テハ登録商標權者ノ權利ヲ侵害スルニ至ラサルモノナルヲ以テ決シテ同法違反罪ヲ構成スヘキモノニアラス本件ニ付之ヲ見ルニ各被告人等ハ判示模造品ヲ買受ケタル際及該商品ヲ顧客ニ販賣交付スルニ際リ孰レモ模造品タルコトノ情ヲ打開ケテナシタルコトハ記録上明白ノ事實ナルヲ以テ被告人等ニハ判示登録商標權ヲ侵害スルノ犯意アルコトナク同法違反罪ヲ構成スヘキモノニ非サルナリ然ルニ原判決ハ此ノ事實ヲ誤認シ被告人等ヲ同罪ニ問擬處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨第一】

因テ案スルニ被告人等ニ於テ所論商標ノ我國ニ於テ登録ヲ受ケ居ルモノナルコトニ付認識アルコト並被告人等カ該商標ト同一ノ商標ヲ使用シタル「カレー粉」ノ模造品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタルコトハ上來説明スルカ如シ然リ而シテ商標法第三十四條ノ一號ノ違反罪ハ右模造品ヲ販賣スルニ當リ相手方ヲ欺罔シテ不正ノ利益ヲ得ルコトヲ要件トセサルト同時ニ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者自身ニ於テ模造スルコトヲモ要件トセサルモノト解スルヲ妥當トス蓋商標法ハ不正競争ヲ防止スルコトヲ目的トシ詐欺罪ト觀念ヲ異ニスルヲ以テ販賣ニ際シ模造品タルノ情ヲ告ケタルト否トハ本罪ノ成立ニ影響ナキノミナラス商標ノ偽造又ハ模造ニ付テハ同條ノ三號ニ別個ニ規定シアレハナリ爾餘ノ所論モ其ノ理由ナキコト第一點ノ説明ニ依リ了解スヘシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨第二】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事棚町丈四郎關與

○代書人規則違反被告事件 (昭和十一年(れ)第五一五號 棄却)  
(同年六月二十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 中井梅治郎

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

代書人規則第九條第四號ノ所謂必要以外ノ書類

○判決要旨

代書人カ依頼人ノ囑託ニヨリ書類ヲ作成スルニ當リ當時必要ナキニ拘ラス囑託以外ノ副本ヲ作成シタルトキハ代書人規則第九條第

代書人規則第九條第四號ノ所謂必要以外ノ書類



### 四號ニ違反スルモノトス

【参照】代書人規則第九條 代書人及其ノ補助員ハ左記各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス  
(中略)

四 書類ノ紙數ヲ増加スル目的ヲ以テ故ラニ文句ヲ冗長ニシ若ハ必要以外ノ書類  
ヲ作製スルコト

同第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第七條第九條ノ規定ニ違反シタル者

(以下省略)

同第二十條 代書人ハ其ノ業務ニ關シ補助員ノ爲シタル行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テ  
サルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料三圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト能  
ハサルトキハ金一圓ヲ一日ノ割合ニテ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ昭和九年八月頃大阪府警察署ヨリ代書人ノ許可ヲ受ケ大阪市天王寺區南日東町百十四番地ニ代書事務所ヲ  
設ケ其ノ業務ニ従事シ居タル者ナルトコロ被告人カ該業務ノ爲補助員トシテ使用セル小濱友太郎ハ昭和十年九月六日  
頃前記事務所ニ於テ關口サダ子ノ囑託ニ基キ警察署ニ提出スヘキ説諭願書ヲ被告人ノ業務ノ爲作成スルニ際リ書類ノ  
紙數ヲ増加スル目的ヲ以テ關口サダ子ノ囑託ヲキニ拘ラス必要以外ノ副本ヲ作成シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示事實ハ代書人規則第九條第四號第二十條第十八條第一號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中科料刑ヲ選

擇シ刑法第八條ニ依リ同法第十七條所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ科料三圓ニ處シ同法第十八條ニ則リ主文第二項  
記載ノ如ク右科料完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

### ○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

### ○理由

被告人上告趣意書第三點第二審判決ハ其ノ主文トシテ小濱友太郎ハ關口貞子ノ説諭願ニ對シ書類ノ紙  
數ヲ増加スル目的ヲ以テ副本ヲ作成シタルモノナリトシ代書人規則第九條代書人及其ノ補助員ハ左記  
各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス第四號ニ於テ書類ノ紙數ヲ増加スル目的ヲ以テ故ラニ文句ヲ冗長ニシ若  
クハ必要以外ノ書類ヲ作成スルコト原判決ハ前記ノ如ク代書人規則第九條第四號ヲ適用シタルハ法令  
ヲ不當ニ適用シタルモノトス一般社會概念トシテ後日參考トナルヘキ書類ハ控へ(副本)ノ必要ナル  
コトハ論ヲ俟タス上告人ハ第二審大阪地方裁判所ニ於テ上告人カ元警察官吏トシテ一般警察事務ニ携  
ハルコト約二十年コノ間ニ於テ一般人民ノ書類ヲ受理シ居リタル經驗ニ鑑ミ副本ノ必要ナルコトヲ説  
明シ副本ナカリシカ爲官廳ニ對シ當然ノ主張ヲ爲スコト能ハサリシ不便ヲ痛感シタル實例ヲ援用シタ  
ルニ原審ニ於テモ本件ニ關スル説諭願ノ副本ハ後日關口貞子ハ内縁ノ夫ナルモ離婚離縁其ノ他ノ場合  
ニ於テ立證書類トシテ必要ナリト認メタリ然ルニ原審ニ於テ判決主文ノ如ク小濱友太郎ハ關口貞子ノ

代書人規則第九條第四號ノ所謂必要以外ノ書類



説諭願ニ對シ紙數ヲ増加スル目的ヲ以テ副本ヲ作成シタルモノナリト判示シタルハ法令ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ違法タルヲ免レスト云フニ在リ

【要旨】

按スルニ代書人規則第九條第四號ニ所謂必要ナル書類トハ囑託者ニトリテ囑託事項ニ關シ所期ノ目的ヲ達スル爲囑託當時必要缺ク可カラサル書類ヲ指稱スルモノト解スヘク所論説諭願ノ副本ハ囑託者關口貞子ニトリテ或ハ後日ノタメ有用ナラムモ囑託當時敍上ノ意味ニ於テ必要ナル書類ニハ非サルヲ以テ原判決ノ事實ノ認定竝法律ノ適用ニハ所論ノ如キ違法存スルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○傷害被告事件

(昭和十一年(れ)第八二四號 棄却)  
同年六月二十五日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 中倉 武一 辯護人 (今井 忠男 市原 統)

【第一審】 平戸區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判示事項

刑法第二百七條ノ意義

○判決要旨

刑法第二百七條ハ二人以上ノ者力共同的行爲ニ非スシテ各別ニ暴行ヲ加ヘ他人ヲ傷害シ而モ傷害ノ輕重又ハ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ノ規定ニシテ其ノ暴行力同時同所ニ於テ行ハレタルト否トヲ問ハサルモノトス

【參照】 刑法第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處ス但シ第一審及第二審ニ於

刑法第二百七條ノ意義



ケル未決勾留日數中各三十日ヲ右本件ニ算入ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
 被告人武一ハ昭和十年十月二十四日午後八時頃長崎縣北松浦郡南田平村大字小手田藝妓置屋小松屋事松田新藏方ニテ  
 同人及原審ノ相被告人稻澤朝則等ト飲酒中原廉平カ他所ニテ飲酒シ醉餘更ニ飲酒ノ目的ニテ右松田方ニ立越シタルニ  
 松田方ニテ之ヲ拒絶シタルコトヨリ爭トナリ同家帳場ニテ原廉平ト松田新藏及同人ニ加擔セル稻澤朝則トノ間ニ格闘  
 ヲ演シ其ノ節稻澤朝則ハ下駄又ハ釣用糸卷等ニテ原ノ頭部其ノ他ヲ毆打シタルカ居合セタル被告人武一等ニ制止セラ  
 レ一旦雙方平靜ニ復シ原廉平ハ歸途ニ著キタルトコロ稻澤カ之ヲ追ヒ後方ヨリ更ニ下駄ニテ原ノ頭部ヲ數回毆打シタ  
 ルニ依リ再ヒ原稻澤間ニ格闘トナリ小松屋前路上ニテ爭闘中被告人武一ハ其ノ場ニ到リ之ヲ制止スル所アリタルモ原  
 カ聞容レサリシ爲業ヲ煮ヤシ突如同人ヲ真逆様ニ路上ニ投付ケ其ノ頭部ヲ路面ニ強打セシメテ失神状態ニ陥レタルモ  
 ノニシテ右被告人等兩名ノ暴行ニ因リ原廉平ハ其ノ前頭骨左側ニ治療日數百餘日ヲ要スル龜裂骨折ヲ伴フ蜘蛛膜出血  
 ヲ被リタルモ开カ被告人武一及稻澤朝則ノ兩者中何レノ暴行ニ基因スルモノナルカヲ知ルコト能ハサルモノナリ  
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四條第二百七條第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ  
 刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處シ刑法第二十一條ニ依リ原審及當審ニ於ケル未決勾留日數中各三十日ヲ右本  
 刑ニ算入スヘキモノトス  
 被告人ノ辯護人ハ被告人ノ本件所爲ハ正當防衛又ハ緊急避難行爲ト目スヘキモノナリト主張スレトモ判示經緯ノ下ニ  
 敢行セラレタルモノト認ムルト同時ニ斯ル場合右主張ハ之ヲ容ルルノ餘地ナキモノトス

## ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

## ○理 由

辯護人今井忠男上告趣意書第二點原判決ハ本件被告事件ニ付刑法第二百七條ヲ適用シタル旨判示セラ  
 レタリ依テ案スルニ刑法第二百七條ハ後ニモ述フルカ如ク二人以上ノ同時的暴行ニヨリ傷害ノ結果ヲ  
 得タルモ暴行者相互間ニ暴行ヲ共同セントスル意思ノ連絡ヲ缺ク場合ニ關スル規定ナルヲ以テ同條ヲ  
 適用スヘキ事案ノ說示ハ犯人各自ノ暴行カ同一被害法益ニ對シ同時的ニ競合スルモノナル事實ヲ具體  
 的ニ據示セサルヘカラス原判決ハ上述ノ如ク其ノ理由中コノ點ノ說示ニ當リ其ノ前段ニ於テ被告人武  
 一ハ原 稻澤間ノ爭闘ヲ始終制止シ居ルノ事實ヲ認定シ乍ラ一轉シテ突如原ヲ真逆様ニ路上ニ投付ケ  
 タルモノナリト認定シ而モ其ノ後段ノ事實ニ關シテハ其ノ制止的態度(適法ナル有形力ノ使用)ヨリ  
 侵害的態度(不法ナル有形力ノ使用)ニ轉向シタル時換言スレハ犯罪ノ實行ノ著手點ヲ明示セサルノ  
 ミナラス第一審被告人稻澤ノ暴行トソレカ客觀的ニ且同時的ニ競合スルモノナル事實ニ付何等具體的  
 說示ヲ爲ササルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ理由不備ノ違法アルモノト云フヘシト云ヒ第三點  
 原判決ハ本件被告事件ニ付刑法第二百七條ヲ適用シタルモ同條ハ第二點ニ於テ既ニ一言シタルカ如ク  
 二人以上ノ同時的暴行ニヨリ傷害ノ結果ヲ得タルモ暴行者相互間ニ暴行ヲ共同セントスル意思ノ連絡  
 ヲ缺ク爲本來ノ共犯トハナラサルモノヲ唯各暴行カ時間的場所的ニ競合シ爲ニ其ノ傷害ノ結果又ハ其  
 ノ輕重ヲ立證スルコト困難ナルニヨリ餘儀ナク之ヲ共犯ノ例ニヨラシメ以テ其ノ證據責任ヲ免除セン  
 トスル政策の意味ノ規定ニシテ刑事法ノ全體系上ハ例外的規定ト云ハサルヘカラス從テ之カ適用範圍



ハ極メテ限局セラレ上述ノ如ク二人以上ノ者ノ暴行カ時間的場所的ニ競合スル場合ノミニ限ルヘク甲ノ暴行ト乙ノ暴行トノ間ニ時間的場所的間隙アル場合ハ假令甲乙兩暴行カ傷害ノ結果ニ對シ共同原因ヲ爲スモ本件ヲ適用スヘキニアラス翻テ本件事案ニ付之ヲ見ルニ假ニ原判決認定ノ如ク被告人武一カ原廉平ニ對シ暴行ヲ加ヘタルモノトスルモソハ第一審被告人稻澤ノ暴行ノ止ミタル後ニ唯之ニ近接シテ爲サレタリト云フニ止マリ兩者ノ暴行ハ時間的ニモ場所的ニモ判然タル區別アリ聊カモ競合シ居ラサルコト記録上明ナリサレハ唯其ノ傷害ノ結果カ偶然兩者ノ暴行ニ基因スルノ故ヲ以テ直チニ本條ノ傘下ニ收容シタル原判決ハ畢竟本條ノ適用ヲ誤リタルノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法第二百七條ハ二人以上ノ者カ共同的行爲ニ非スシテ各別ニ暴行ヲ加ヘ他人ヲ傷害シ而モ傷害ノ輕重又ハ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニ對スル規定ニシテ其ノ暴行カ時、所ヲ異ニスルト又時、所ヲ同シクスルトハ敢テ問フ所ニ非ヌ而シテ原判示事實ニ依レハ昭和十年十月二十四日午後八時頃長崎縣北松浦郡南田平村大字小平田松田新藏方ニ於テ稻澤朝則外一名ト格闘シタル原廉平カ稻澤ノ爲ニ下駄又ハ釣糸卷等ニテ頭部其ノ他ヲ毆打セラレタルモ居合セタル被告人ニ制止セラレ一旦平靜ニ復シ歸途ニ著キタルトコロ稻澤ハ更ニ之ヲ追ヒ後方ヨリ下駄ニテ原ノ頭部ヲ數回毆打シ右新藏方前路上ニ於テ爭鬪中被告人ハ其ノ場ニ到リ之ヲ制止シタルモ原ノ應セサリシヨリ業ヲ煮シ突如原

ヲ眞逆様ニ路上ニ投付ケ其ノ頭部ヲ路面ニ強打セシメ失神状態ニ陥ラシメタルモノニシテ右被告人及稻澤兩名ノ暴行ニ因リ原判示ノ如キ傷害ヲ被リタルモ右ハ兩者中何人ノ暴行ニ基因スルモノナルカヲ知ルコト能ハサルモノナリト云フニ在ルヲ以テ原審カ之ニ對シ刑法第二百七條ヲ適用處斷シタルコトハ洵ニ正當ニシテ理由不備又ハ擬律錯誤等ノ違法ナシ所論ハ畢竟獨自ノ見地ニ立脚シ右ト異ナル解釋ヲ試ミ之ヲ非難攻撃スルニ外ナラス論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○恐喝被告事件

(昭和十一年(れ)第八五三號  
同年六月二十五日第一刑事部判決)

棄却

【上告人】 被告人 西川秋太郎 辯護人

塚直義  
橋本龍一  
島内航  
星近藤  
外一名

修繕料請求權ト恐喝罪ノ成立



○判示事項

修繕料請求權ト恐喝罪ノ成立

○判決要旨

被告カ多少ノ修繕料ヲ要シタリトスルモ不當ノ要求ヲ爲シ之ニ應セサレハ身體ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シテ脅迫シ修繕料名義ノ下ニ多額ノ金員ヲ交付セシメタルトキハ該金額全部ニ付恐喝罪ノ成立ヲ認ムヘキモノトス

【參照】刑事訴訟法第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止

シ又ハ其ノ他ノ事由ニ由リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處

ス 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京市神田區小川町三丁目一番地左官請負業林麻一ノ下請負人トシテ各所ノ建築工事場ニ於テ壁塗其ノ他ノ左官工事ニ從事シ來リタルカ大建築場ノ作業ニ當リテハ電氣煖房等ノ所謂附帶工事ヲ爲スニ際シ壁其ノ他ノ左官工事ヲ汚損スルコトアリ之カ修繕料ヲ徵スルニ當リ名ヲ修繕料ニ藉リ不正ノ利得ヲ爲サンコトヲ企テ犯意繼續ノ上

第一 昭和八年十一月頃ヨリ東京市麹町區三年町一番地特許局新築工事場ニ於テ左官工事ニ從事スルコトト爲リタルカ其ノ工事ニ著手前同年十月初頃同工事場ニ於テ附帶煖房工事ニ從事シ居リタル同市京橋區榎町二丁目五番地大和工業株式會社代理人關口平吉又ハ同社員原田豐吉等ニ對シ附帶煖房工事ハ壁等ヲ汚損シ或ハ破損スルカ故ニ其ノ賠償トシテ請負金ノ一割即チ約四千圓ヲ出金セヨト不當ノ要求ヲ爲シ該要求ニ應セサルニ於テハ同人等ノ身體生命其ノ他ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シテ脅迫シ因テ同會社ヨリ同所ニ於テ同月十日頃關口ヲ通シテ金百圓翌十一日頃原田ヲ通シテ金百圓同年十二月十六日頃關口ヲ通シテ金百五十圓ヲ執レモ修繕料名義ノ下ニ受取リ

第二 同工事場ニ於テ電氣附帶工事ニ從事シ居リタル同市京橋區木挽町六丁目四番地弘電社方ニ於テ多少壁等ヲ損傷シタルヲ奇貨トシ同年十二月十五日頃同所ニ於テ同社代理人畠中榮二ニ對シ「オ前ノ方ハ壁ヲ痛メテ困ルカラ賠償トシテ四百圓出金セ」ト申向ケ之ニ應セサルニ於テハ同人等ノ身體其ノ他ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シテ脅迫シ因テ同社ヨリ同工事場ニ於テ同月二十八日頃金百圓昭和九年三月十五日頃金百圓同年六月十五日頃金五十圓ヲ執レモ修繕料名義ノ下ニ受取リ

第三 同年七月頃ヨリ同市麹町區日比谷町一番地東京民事地方裁判所新築工事場ニ於テ左官工事ニ從事中同年十月十五日頃同所附帶電氣工事ニ從事シ居リタル同市京橋區銀座四丁目五番地ノ六號東光商會ノ代理人岸本清一ニ對シ前

修繕料請求權ト恐喝罪ノ成立